

## 市民アンケート調査結果について

## 調査実施概要

- 調査対象：市内にお住まいの満18歳以上の方4,000名
- 調査内容：市民意識・市政全般に関すること
  1. あなた自身のこと
  2. 市民の暮らし・幸福度（幸福感）について
  3. 市の取り組みについて
  4. これらからのまちづくりについて

○ 実施期間：令和4年8月

○ 回収率：29.1%（1,164票/4,000票）

○ 必要サンプル数の算出について

- ・一般的なアンケート調査は、対象となる母集団（本調査では18歳以上の市民全体）の中から一部の調査対象を選び出し、その情報をもとに母集団の状態を推計する「サンプリング調査（標本調査）」です。
- ・調査結果には誤差が含まれます。この誤差がどの範囲の大きさで生じるかは、計算式で算出することができます。

## ① 必要サンプル数の設定

本調査では、母集団（本調査では18歳以上の市民全体）の代表的な意見が得られる必要なサンプル（標本）数を計算するために、次のように設定しました。

母集団：調査の対象となるものの全体。標本を抽出するための母体となる統計量の集まりです。  
ここでは、今回の調査対象とする18歳以上の人口とします。

$$\text{母集団} = 43,008 \text{ 人（総人口）} - 5,652 \text{ 人（0～17歳の人口）} = 37,356 \text{ 人}$$

（※ 令和4年6月末 住民基本台帳人口）

標本誤差：標本から測定された統計量の標準偏差であり、標本統計量の精度を表します。  
一般的なアンケート調査は標本誤差が5%程度とされていることから、平成28年度の調査に引き続き、今回の調査でも、標本誤差が5%以下となるよう設定しました。

信頼率：一定の頻度（割合）のもとで回答数が母集団の平均に含まれると推定された区間のことです。今回の調査では100回繰り返した結果が95回程度、結果の平均の範囲内に含まれるよう、信頼率を95%に設定しました。

上記の条件設定から求められる必要サンプル数は381人以上となります。なお、一部の世論調査で行われている標本誤差3%とした場合、必要サンプル数は1,038人以上です。

以上のことから、統計上400人の標本を収集すれば調査対象のニーズをほぼ把握できると判断できますが、調査の精度を上げるため、今回の調査では標本回収目標数を1,000人と設定しました。

## ② 調査対象者数の決定

①で設定したサンプル（標本）数を確保するために必要な調査対象者数を次の数式により求めます。回収見込みには、これまでの調査票回収率（25.0%）を用いました。

$$\text{発送数} \geq \text{サンプル（標本）数（1,000人）} \div \text{回収の見込み（25.0\%）}$$

これにより、求められる調査対象者数は4,000人以上となります。

今回の調査での回収数は1,164票であったことから、標本回収目標数を超え、かつ標本誤差を3%とした場合の1,038人を上回る精度となっています。

## 集計結果のみかた

- 調査結果の図表は、設問の回答者数に対して、それぞれの項目の回答数の構成比（百分率）で示しています。（計算式：回答数÷回答者数×100）
- 図表の構成比（百分率）は、回答者数（限定設問においては該当者数）を100%として算出しており、本文及び図表の構成比（百分率）は小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記しています。  
（※四捨五入のため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても各比率の合計が100.0%とならない場合があります。）
- 調査結果の図表に示す回答数は「n=●」という形式で表記しています。例えば、調査全体の回答数は「n=1,164」と表しています。
- 「年齢別」等、調査全体の回答数から分析対象を絞って集計する場合、回答数は図表に示す分析対象を回答数とし、該当する項目の回答数の構成比（百分率）を掲載しています。
- 複数回答の設問では、各比率の合計が100.0%を超える場合があります。

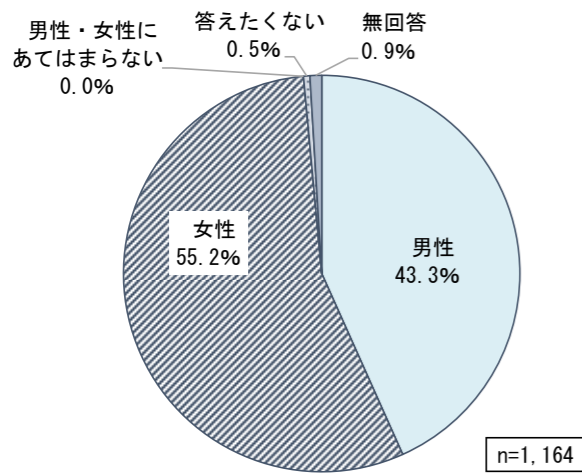
## あなた自身のことについて

### ■あなた自身のことについて

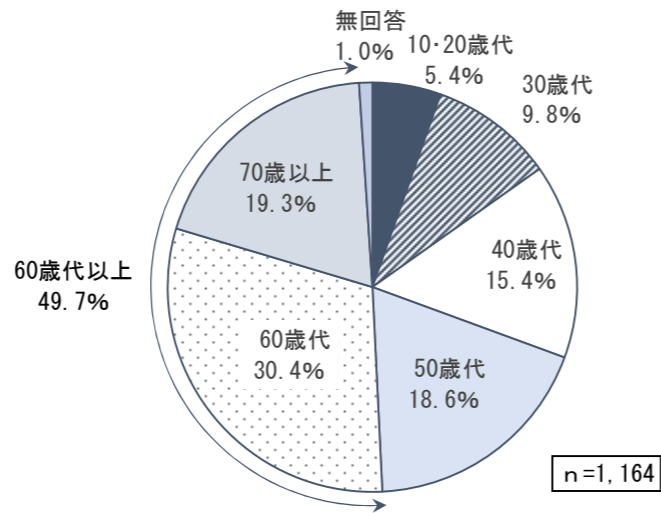
- ◎ 回答者の性別では女性が多く、年齢では60歳以上の割合が5割程度を占めています。
- ◎ 家族構成では親と子どもだけの世帯の割合が最も高く、夫婦のみの世帯を合わせた核家族世帯の割合が約7割を占めています。また同居家族に65歳以上のいる世帯が半数以上を占めています。
- ◎ 居住年数では30年以上が5割を占め、市外での居住経験者も5割を占めています。

図表 回答者の属性（性別・年齢・居住地域・居住年数）

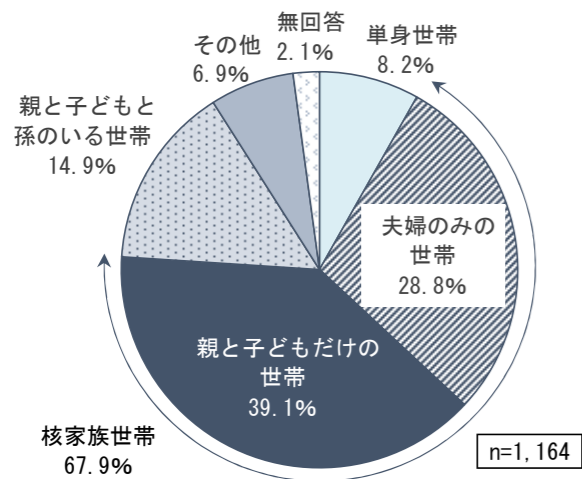
#### ■性別



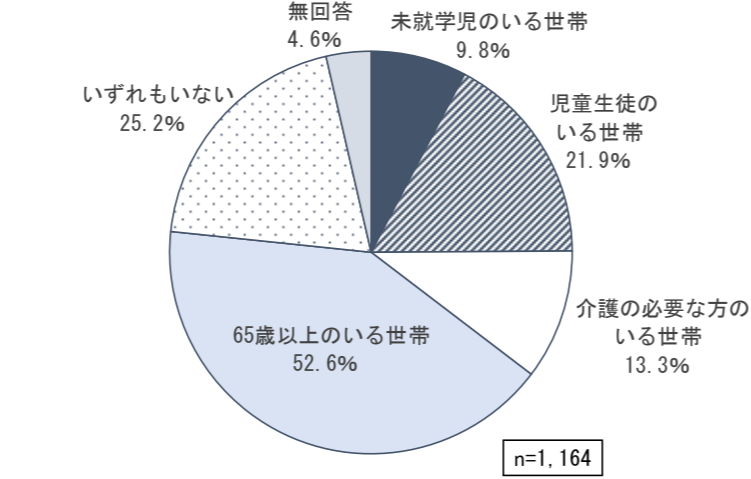
#### ■年齢



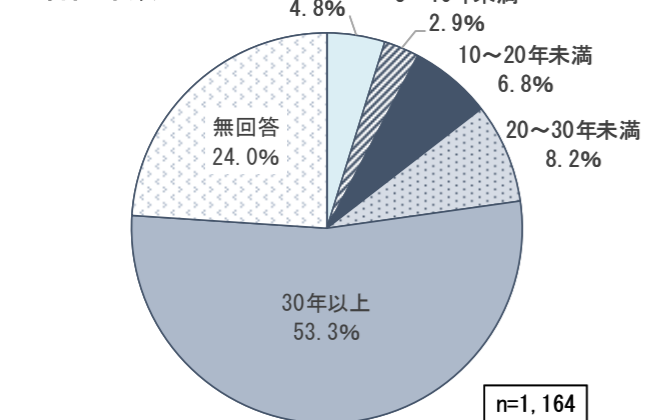
#### ■家族構成



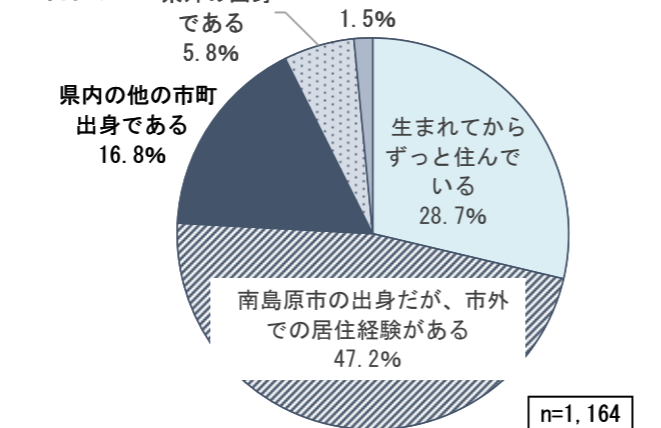
#### ■同居家族



#### ■居住年数



#### ■居住歴

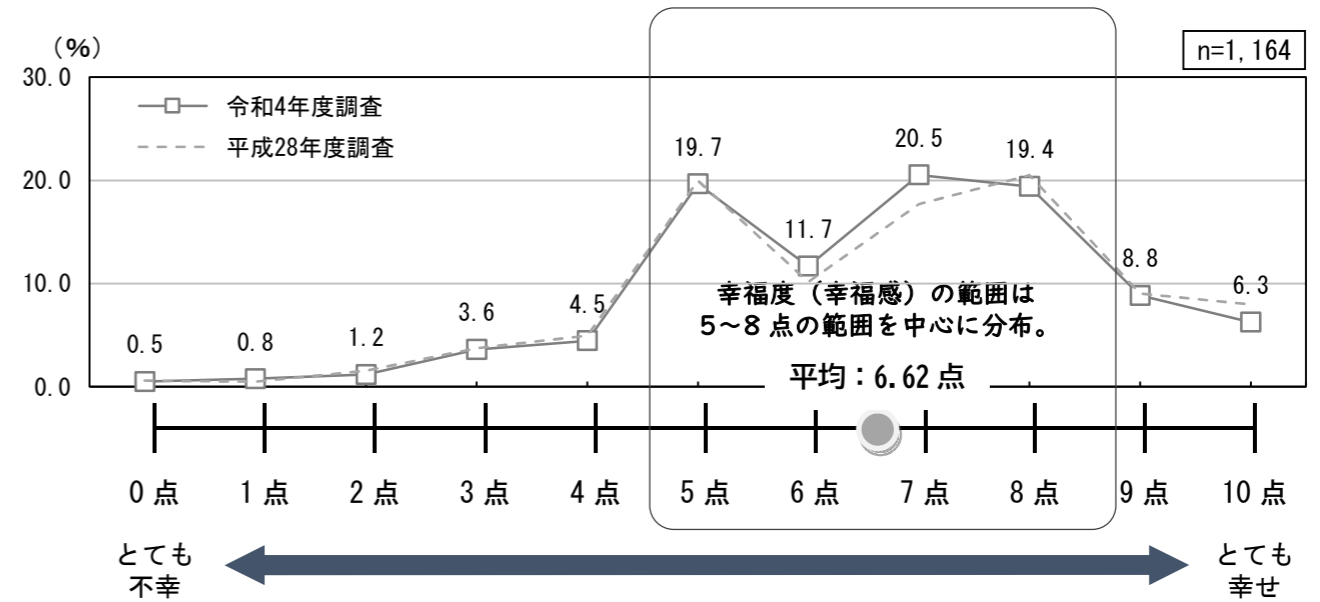


## 市民の暮らし・幸福度（幸福感）について①

### ■幸福度（幸福感）

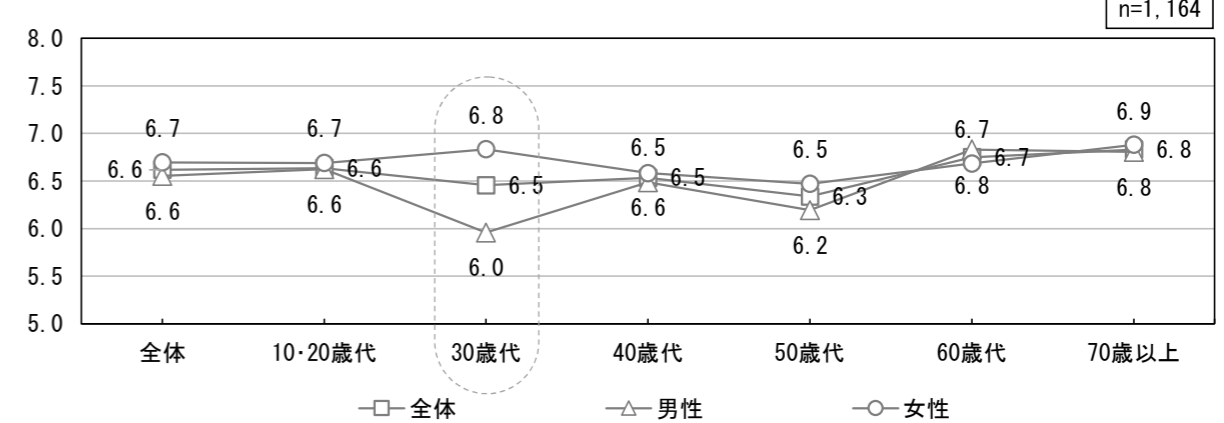
- ◎ 市民の幸福度（幸福感）は平均6.62点で、平成28年度調査時点と比較して0.04ポイント減少しています。点数別では、「7点」（20.5%）、「5点」（19.7%）、「8点」（19.4%）の回答が多く、幸福度の中心（5点）に回答が集中しているのではなく、概ね5～8点の範囲を中心に分布しています。
- ◎ 性別・年齢による幸福度を比較すると、30歳代では、男性の幸福度が特に低く、女性の幸福度は高くなっており、男女間の格差が最大になっています。

図表 幸福度（幸福感）（10段階）



（参考）平成28年度調査：6.66点（0.04ポイント減）

図表 性別・年齢による幸福度



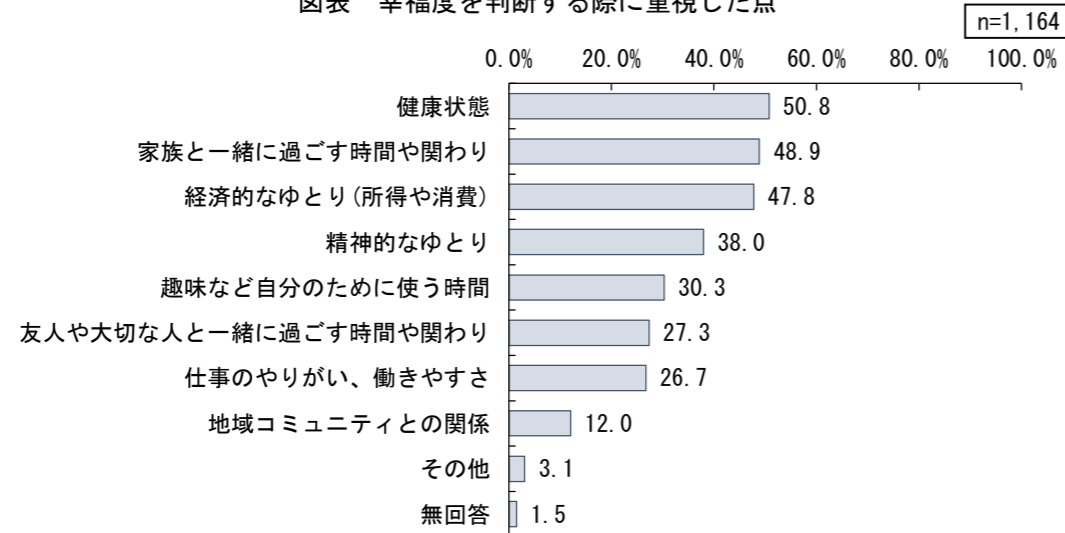
※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

■幸福度を判断する際に重視した点

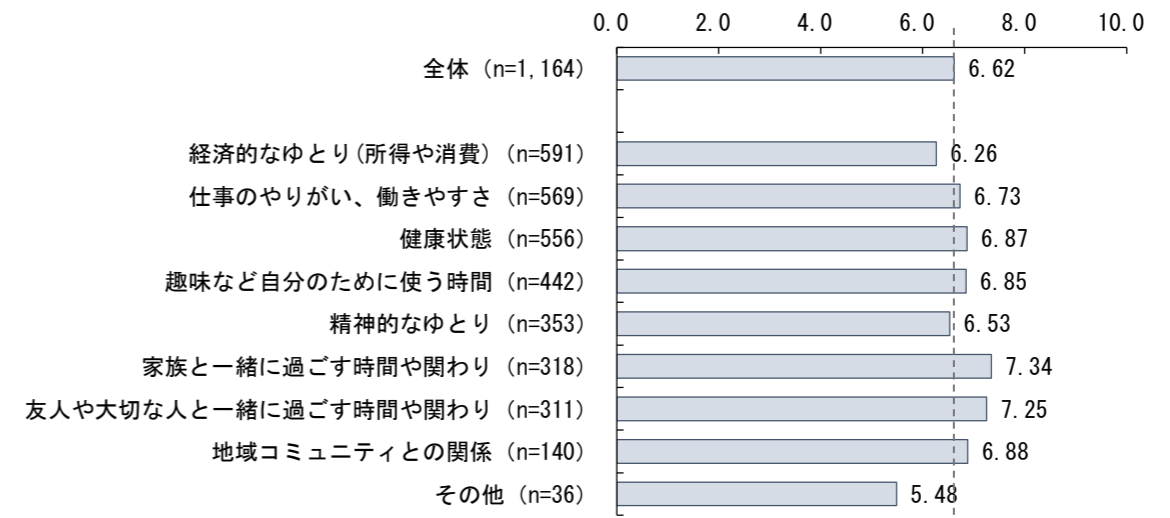
- ◎ 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点では、「健康状態」（50.8%）、「家族と一緒に過ごす時間や関わり」（48.9%）、「経済的なゆとり（所得や消費）」（47.8%）を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、全年代で「経済的なゆとり（所得や消費）」が第2位ですが、10～40歳代では「家族と一緒に過ごす時間や関わり」、50歳代以上では「健康状態」をそれぞれ最上位に挙げているほか、10・20歳代、40歳代では「精神的なゆとり」、30歳代では「仕事のやりがい、働きやすさ」を上位に挙げており、世代によって幸福度を判断する基準が異なることが伺えます。

- ◎ 幸福度（幸福感）を判断する際に重視した点の項目別に幸福度の点数をみると、「家族と一緒に過ごす時間や関わり」（7.34点）、「友人や大切な人と一緒に過ごす時間や関わり」（7.25点）、「地域コミュニティとの関係」（6.88点）が幸福度の高い項目として上位に挙がっています。
- ◎ 幸福度の点数別で見ると、「健康状態」は点数に関わらず幸福度の判断基準として重視されており、幸福度を0～3点と回答した方は「経済的なゆとり（所得や消費）」と「精神的なゆとり」を、7点以上（平均以上）と回答した方では「家族と一緒に過ごす時間や関わり」を上位に挙げています。

図表 幸福度を判断する際に重視した点



図表 幸福度を判断する際に重視した点（幸福度点数）



図表 幸福度を判断する際に重視した点（年齢別：上位3項目）

年齢	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (52.4%)	経済的なゆとり(所得や消費) (50.8%)	精神的なゆとり (41.3%)
30歳代 (n=114)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (59.6%)	経済的なゆとり(所得や消費) (50.9%)	仕事のやりがい、働きやすさ 健康状態 (ともに42.1%)
40歳代 (n=179)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (59.2%)	経済的なゆとり(所得や消費) (50.8%)	精神的なゆとり (41.9%)
50歳代 (n=217)	健康状態 (52.5%)	経済的なゆとり(所得や消費) (51.6%)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (51.6%)
60歳代 (n=354)	健康状態 (57.6%)	経済的なゆとり(所得や消費) (46.9%)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (42.7%)
70歳以上 (n=225)	健康状態 (57.3%)	経済的なゆとり(所得や消費) 家族と一緒に過ごす時間や関わり (41.3%)	

図表 幸福度を判断する際に重視した点（幸福度点数別：上位3項目）

幸福度点数	第1位	第2位	第3位
0～3点 (n=71)	経済的なゆとり(所得や消費) (81.7%)	精神的なゆとり (54.9%)	健康状態 (43.7%)
4～6点 (n=417)	経済的なゆとり(所得や消費) (49.4%)	健康状態 (41.0%)	精神的なゆとり (36.9%)
7～9点 (n=568)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (63.0%)	健康状態 (57.7%)	経済的なゆとり(所得や消費) (44.2%)
10点 (n=73)	家族と一緒に過ごす時間や関わり (80.8%)	健康状態 (53.4%)	友人や大切な人と一緒に過ごす時間や関わり (42.5%)

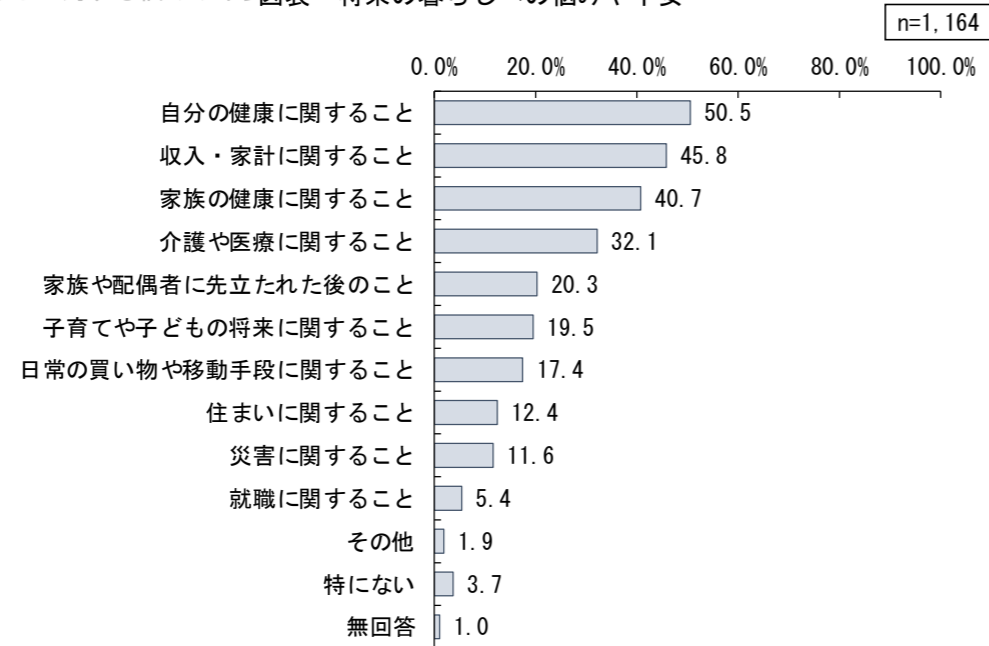
※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

## 市民の暮らし・幸福度（幸福感）について③

### ■将来への不安

- ◎ 将来の暮らしへの悩みや不安としては、「自分の健康に関すること」(50.5%)、「収入・家計に関すること」(45.8%)、「家族の健康に関すること」(40.7%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、全年代で「家族の健康に関すること」が上位に挙がっており、10～50歳代では「収入・家計に関すること」、60歳代以上では「自分の健康に関すること」を将来の暮らしへの悩みや不安の最上位に挙げているほか、10・20歳代・30歳代では「子育てや子どもの将来に関すること」、70歳以上では「介護や医療に関すること」を上位に挙げています。

図表 将来の暮らしへの悩みや不安



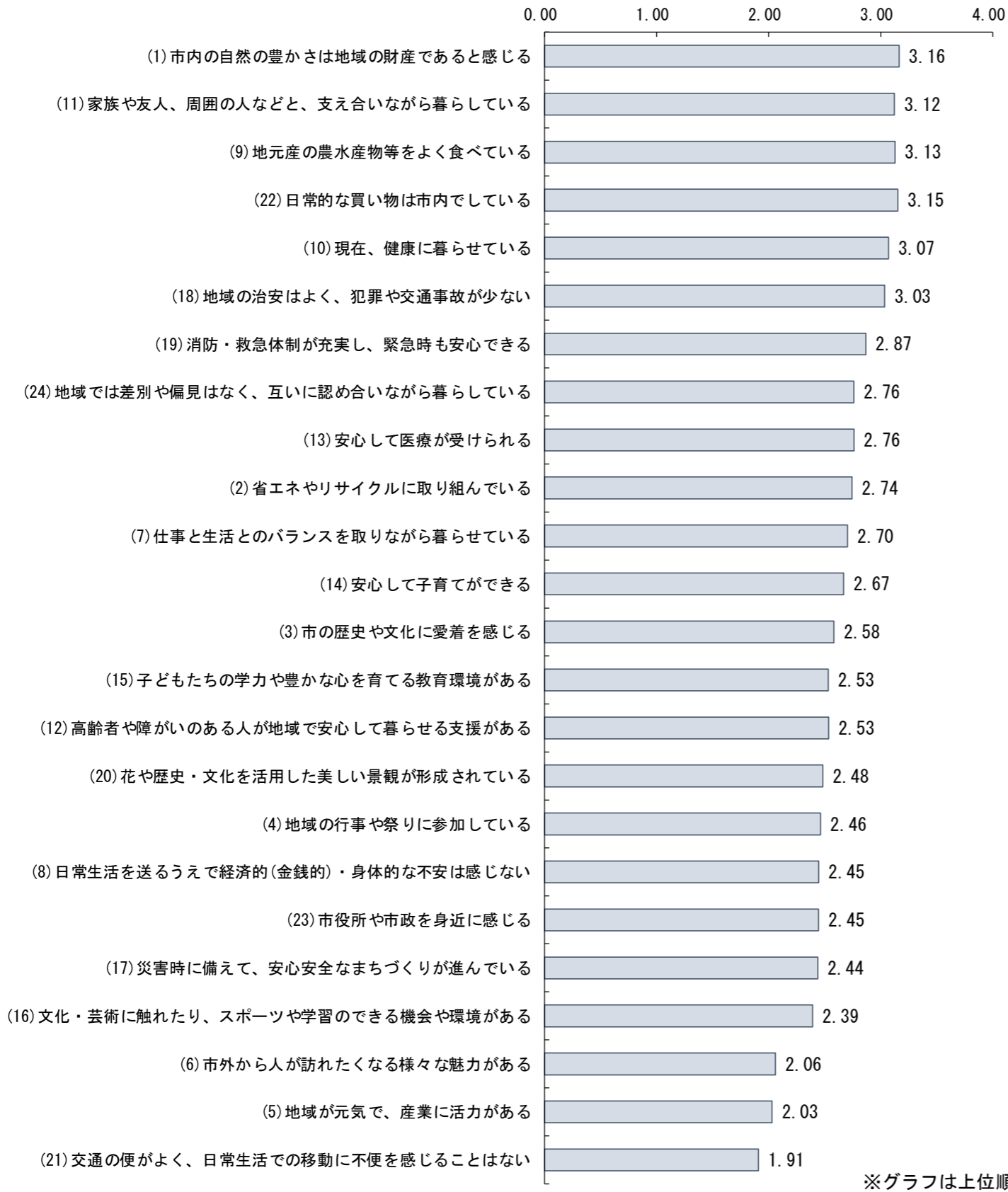
図表 将来の暮らしへの悩みや不安（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	収入・家計に関すること 54.0%	子育てや子どもの将来に関すること 34.9%	家族の健康に関すること 31.7%
30歳代 (n=114)	収入・家計に関すること 64.0%	子育てや子どもの将来に関すること 49.1%	家族の健康に関すること 35.1%
40歳代 (n=179)	収入・家計に関すること 55.9%	自分の健康に関すること 41.3%	家族の健康に関すること 40.2%
50歳代 (n=217)	収入・家計に関すること 53.0%	自分の健康に関すること 45.6%	家族の健康に関すること 41.9%
60歳代 (n=354)	自分の健康に関すること 61.0%	家族の健康に関すること 44.6%	収入・家計に関すること 41.2%
70歳以上 (n=225)	自分の健康に関すること 63.6%	家族の健康に関すること 40.4%	介護や医療に関すること 37.3%

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

■ 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること

図表 普段の暮らしで感じることや取り組んでいること（指数値）



※指数化：(「とてもあてはまる」×4+「どちらかといえばあてはまる」×3+「あまりあてはまらない」×2+「まったくあてはまらない」×1) ÷ 回答数

◎ 各項目を4段階で指数化した値で順位をつけると、普段の暮らしで感じることや取り組んでいることの上位3項目は「市内の自然の豊かさは地域の財産であると感じる」、「家族や友人、周囲の人などと、支え合いながら暮らしている」、「地元産の農水産物等をよく食べている」、下位3項目は「交通の便がよく、日常生活での移動に不便を感じることはない」、「地域が元気で、産業に活力がある」、「市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がある」が挙がっています。

◎ 本市における暮らしにくさは、「交通の便が悪く、日常生活での移動に不便を感じる」、「地域に元気がなく、産業に活力がない」、「市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がない」ことが理由であるといえます。

図表 (参考) “暮らしやすい”と思う方の普段の暮らしで感じることや取り組んでいること (暮らしやすい理由としてあてはまること：上位10項目)

順位	項目	構成比
第1位	(11) 家族や友人、周囲の人などと、支え合いながら暮らしている	91.3%
第2位	(18) 地域の治安はよく、犯罪や交通事故が少ない	89.8%
第3位	(9) 地元産の農水産物等をよく食べている	88.9%
第4位	(1) 市内の自然の豊かさは地域の財産であると感じる	88.7%
第5位	(10) 現在、健康に暮らせている	86.0%
第6位	(19) 消防・救急体制が充実し、緊急時も安心できる	85.3%
第7位	(22) 日常的な買い物は市内でしている	84.9%
第8位	(24) 地域では差別や偏見はなく、互いに認め合いながら暮らしている	78.4%
第9位	(13) 安心して医療が受けられる	76.0%
第10位	(14) 安心して子育てができる	73.9%

※暮らしやすい：「暮らしやすい」または「どちらかといえば暮らしやすい」と回答した方  
 ※あてはまること：「とてもあてはまる」または「どちらかといえばあてはまる」と回答した方

図表 (参考) “暮らしにくい”と思う方の普段の暮らしで感じることや取り組んでいること (暮らしやすい理由としてあてはまらないこと：上位10項目)

順位	項目	構成比
第1位	(21) 交通の便がよく、日常生活での移動に不便を感じることはない	92.2%
第2位	(5) 地域が元気で、産業に活力がある	89.2%
第3位	(6) 市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がある	88.1%
第4位	(17) 災害時に備えて、安心安全なまちづくりが進んでいる	70.4%
第5位	(16) 文化・芸術に触れたり、スポーツや学習のできる機会や環境がある	68.1%
第6位	(8) 日常生活を送るうえで経済的(金銭的)・身体的な不安は感じない	66.2%
第7位	(23) 市役所や市政を身近に感じる	64.3%
第8位	(12) 高齢者や障がいのある人が地域で安心して暮らせる支援がある	62.3%
第9位	(20) 花や歴史・文化を活用した美しい景観が形成されている	61.2%
第10位	(15) 子どもたちの学力や豊かな心を育てる教育環境がある	58.2%

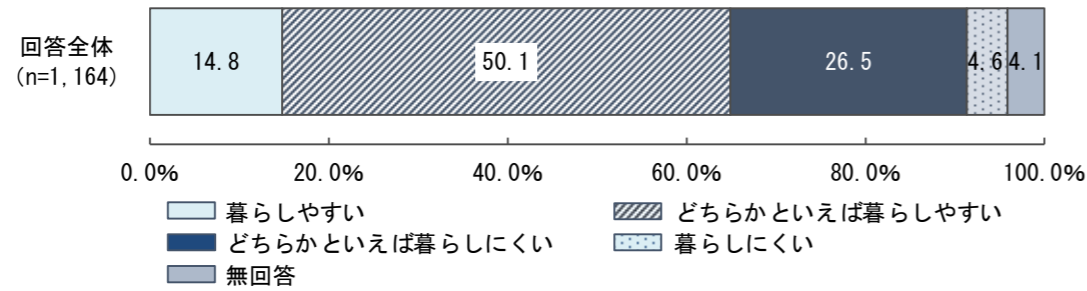
※暮らしにくい：「どちらかといえば暮らしにくい」または「暮らしにくい」と回答した方  
 ※あてはまらないこと：「あまりあてはまらない」または「まったくあてはまらない」と回答した方

市民の暮らし・幸福度（幸福感）について④

■暮らしやすさ

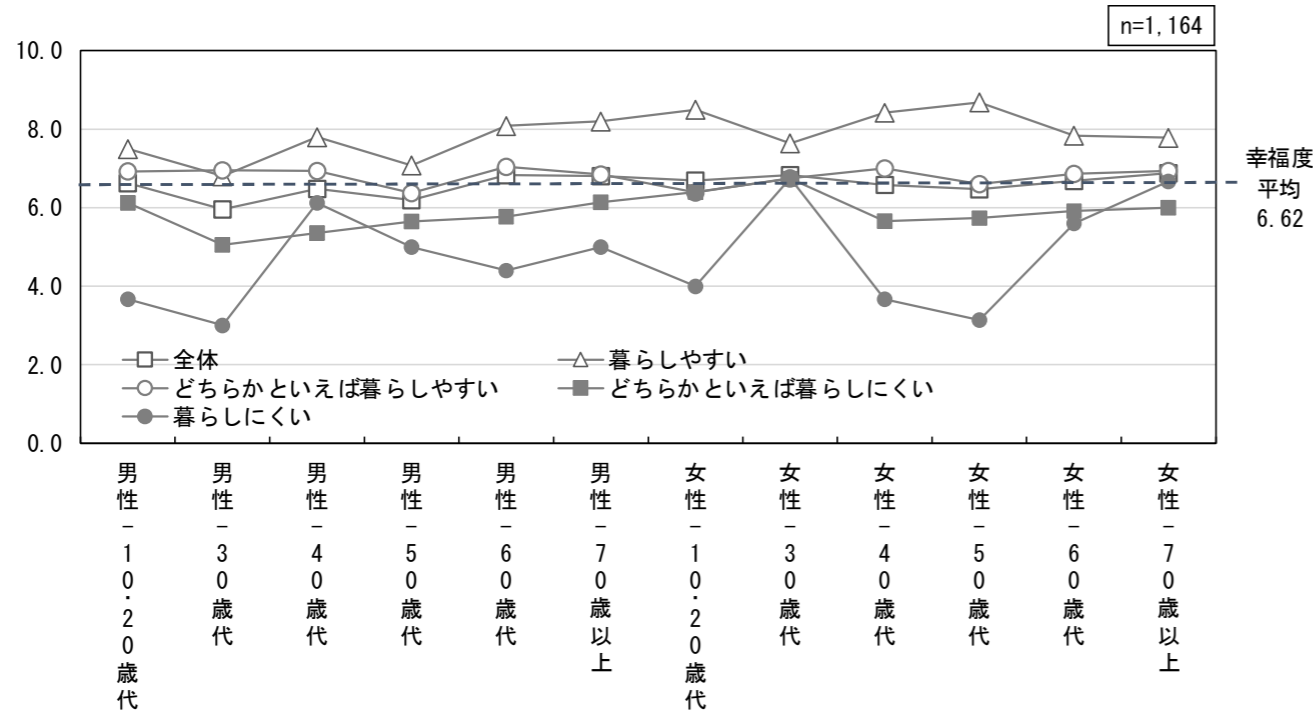
- ◎ 本市の暮らしやすさについては、約 6 割（64.9%）の方が「暮らしやすい」、「どちらかといえば暮らしやすい」と回答し、約 3 割（31.1%）の方が「どちらかといえば暮らしにくい」、「暮らしにくい」と回答しています。
- ◎ 暮らしやすさごとの幸福度を性別・年齢別に比較すると、暮らしやすさと幸福度に相関関係がみられる中で、男性の 10・20 歳代と 30 歳代、女性の 40 歳代と 50 歳代で特に低い幸福度を回答した方がいます。
- ◎ 総合的な暮らしやすさを 4 段階で指数化した値は 2.78 となっており、性別では男性よりも女性の方が暮らしやすいと感じており、年齢別では 30 歳代以上では年齢層が高くなるにつれて指数値が高くなる（暮らしやすいと思う）傾向がみられます。

図表 南島原市の暮らしやすさ

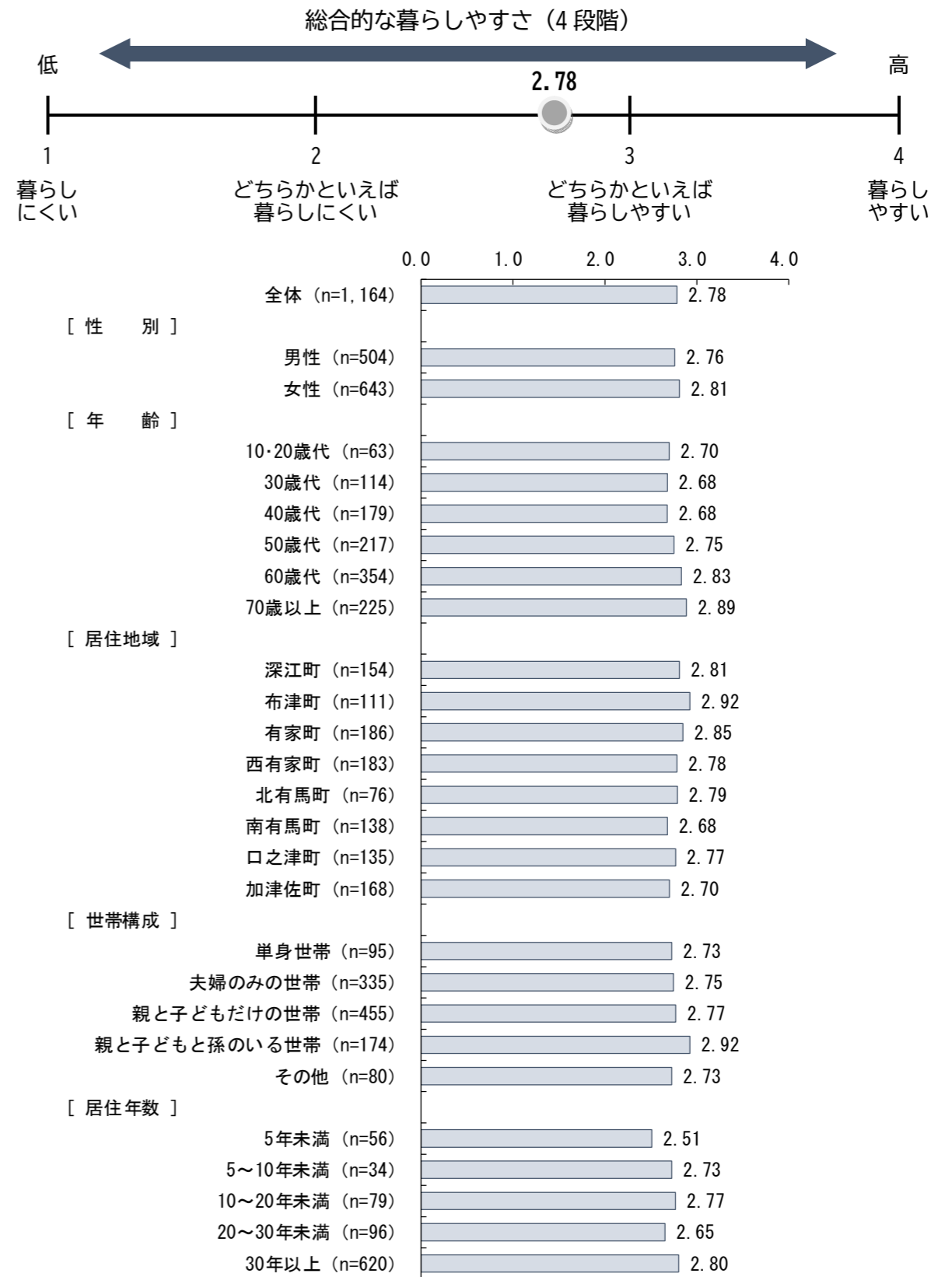


(参考) 平成 28 年度調査：67.4% (2.5 ポイント減)

図表 暮らしやすさと幸福度（性別・年齢別）



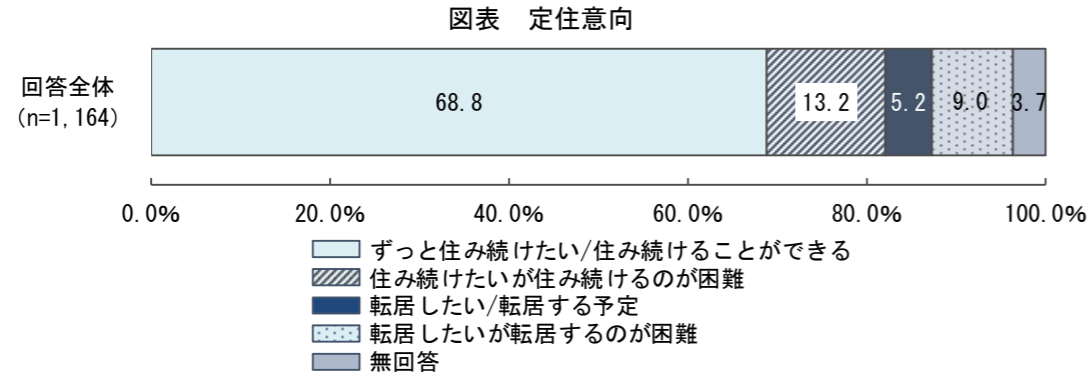
図表 南島原市の暮らしやすさ（指数値）



※指数化：(「暮らしやすい」×4+「どちらかといえば暮らしやすい」×3+「どちらかといえば暮らしにくい」×2+「暮らしにくい」×1)÷回答数(無回答を除く)

■定住意向と住み続けたい・転居したい理由

- ◎ 南島原市の定住意向については、「ずっと住み続けたい/住み続けることができる」、「住み続けたいが住み続けるのが困難」を合わせた約8割（82.0%）は“住み続けたい”意向を示し、「転居したい/転居する予定」、「転居したいが転居するのが困難」を合わせた約1割（14.2%）は“転居したい”意向を示しています。
- ◎ 定住意向を4段階で指数化した値は3.51となっており、属性別にみると、年齢別では年齢層が高くなるにつれて指数値が高く（定住意向が強く）なっています。また、居住年数が高くなるにつれて指数値が高く（定住意向が強く）なっています。



(参考) 平成28年度調査：70.2%（1.4ポイント減）

■住み続けたい理由

図表 住み続けたい理由

(n=955)

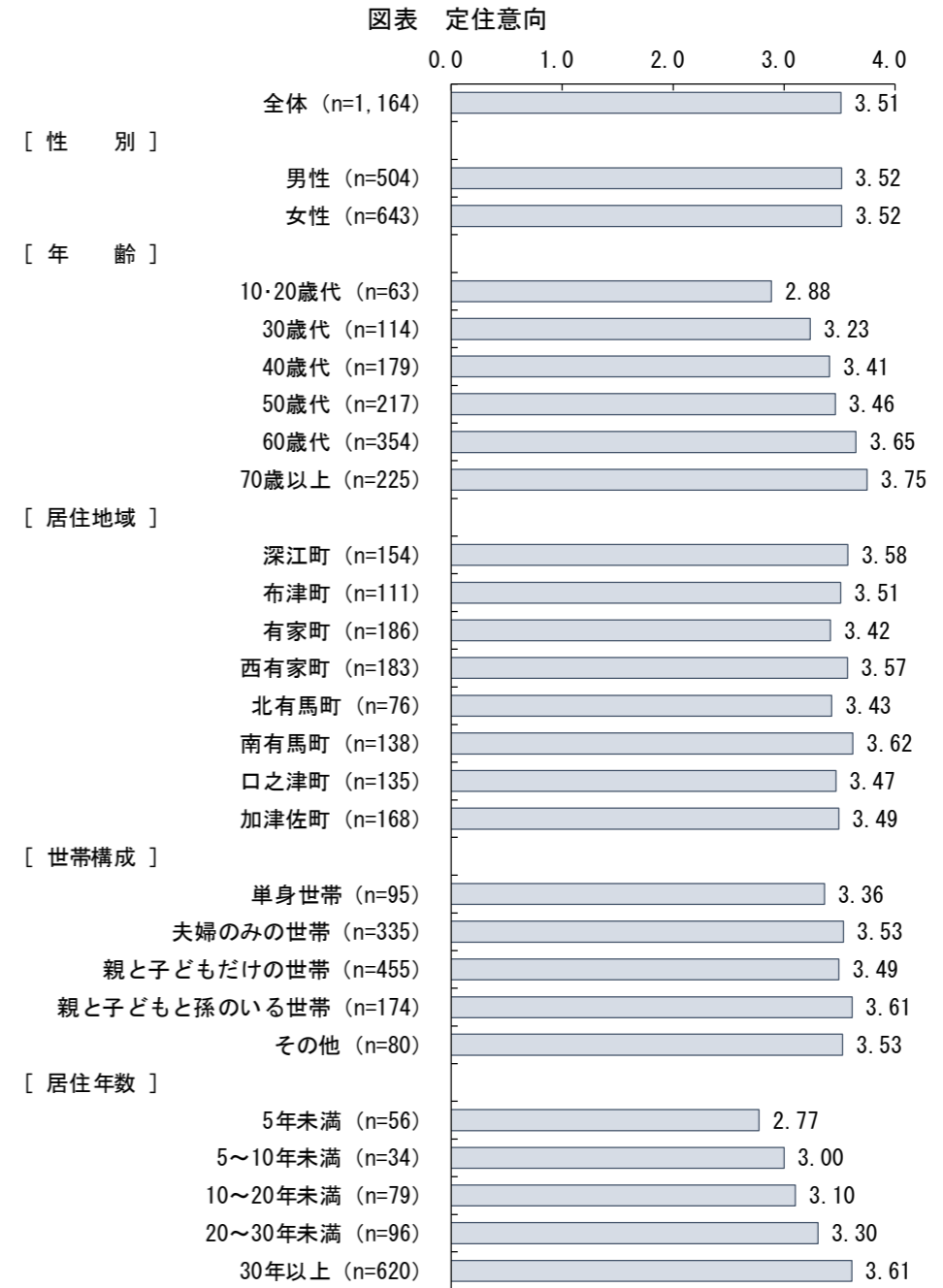
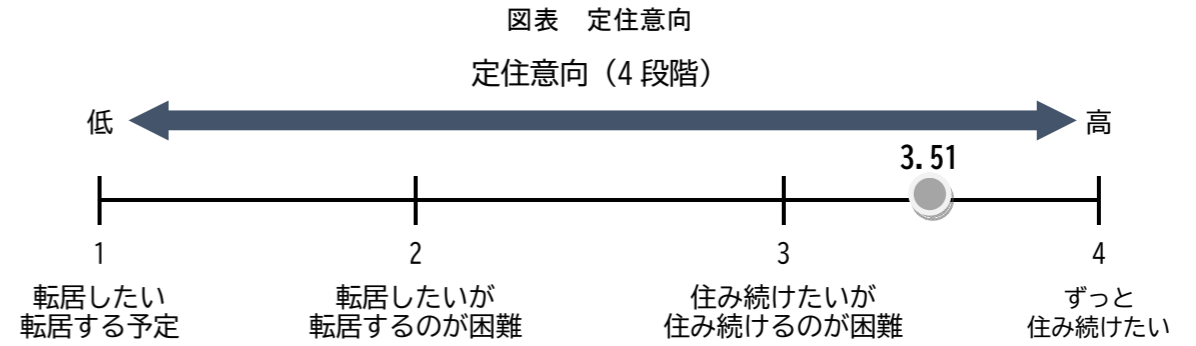
テーマ	主な意見
住み続けることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もし子どもができれば、自然でのびのびと育てほしいため。(10・20歳代・男性)</li> <li>・マイホームを買う事ができた。住宅を購入したため。(30歳代・女性)</li> <li>・SNS等で情報はある程度入ってくる。都会に住みたくない。観光にも力を入れている。(40歳代・女性)</li> </ul>
住み続けるのが困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やりたい仕事ができる環境でない。(10・20歳代・男性)</li> <li>・高齢になった時、交通の利便性等から都市部に転居も選択肢に考えている。(40歳代・男性)</li> <li>・進学などで一度家を離れた子どもが帰ってこられない(就職がない・家がない)。(40歳代・女性)</li> <li>・介護スタッフやヘルパー等不足しており、将来の生活に不安。(40歳代・女性)</li> </ul>

■転居したい理由

図表 転居したい理由

(n=166)

テーマ	主な意見
転居する予定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・悪いところはあまりないが、ワクワクする将来性を感じない。(10・20歳代・女性)</li> <li>・家庭を持ったときのビジョンが見えない。(10・20歳代・男性)</li> <li>・勤務先まで1時間以上かかるので、近くに転居したい。(30歳代・女性)</li> </ul>
転居するのが困難	<ul style="list-style-type: none"> <li>・後継ぎだから。土地の管理等。(10・20歳代・男性)</li> <li>・親が近くに暮らしている。将来は両親の介護などを行う予定。(30歳代・女性)</li> <li>・両親もいるし、子どもを転校させるとなるとやはり転居は難しい。(40歳代・女性)</li> </ul>



※指数化：（「住み続けることができる」×4+「住み続けたいが住み続けるのが困難」×3+「転居したいが転居するのが困難」×2+「転居する予定」×1）÷回答数（無回答を除く）

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

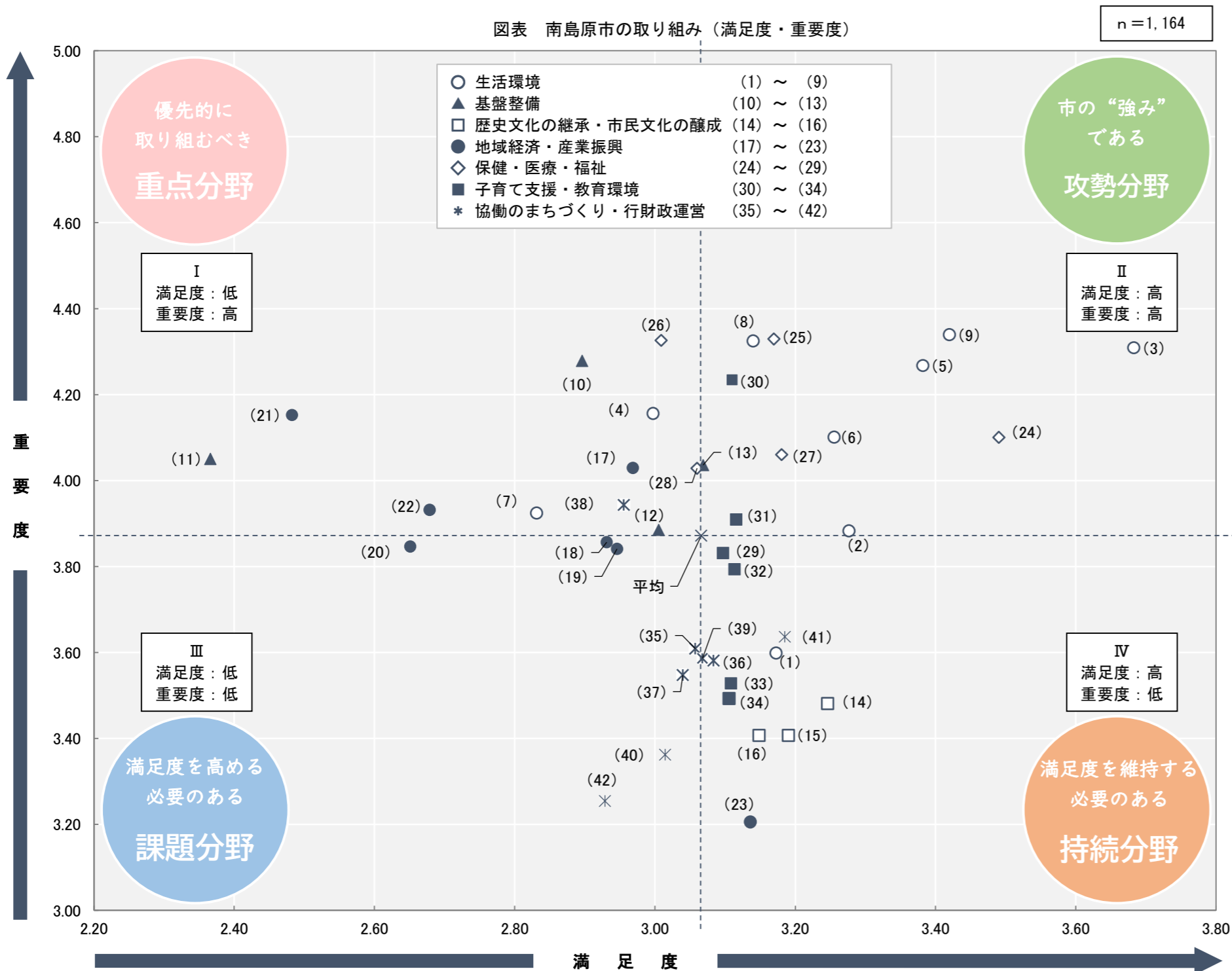
南島原市の取り組みについて①：満足度・重要度

■全体の満足度・重要度

◎ 下の図表では、5段階で評価した満足度を横軸、重要度を縦軸に設定した座標軸の中に、各取り組みを点数化してグラフに表しています。満足度と重要度の平均は、42の取り組みの満足度・重要度の平均（満足度：3.07点、重要度：3.87点）を中央に十字を配置した4つの範囲（象限）に分けています。この範囲（象限）I～IVは満足度と重要度の高低でそれぞれ定義づけをしており、各分野の取り組みがI～IVのどの範囲に入るかを見る化することで、施策の優先順位の検討や改善のための判断材料とします。

◎ 市が優先的に取り組むべき分野は、生活環境、基盤整備、保健・医療・福祉、子育て・教育環境に関する取り組みであると言えます。

- ・生活環境：(4) 不法投棄への対策・地域の環境美化、(7) 公園緑地・子どもの遊び場の整備
- ・基盤整備：(10) 市内の道路網、道路整備、(11) 市内の公共交通の本数、路線、(12) 港湾・海岸・河川の整備
- ・地域経済・産業振興：(17) 生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興、(21) 市内での雇用機会の拡充・創出、(22) 産業間の連携、新産業の創出・育成
- ・保健・医療・福祉：(26) 夜間・休日などの救急医療体制、(28) 障がいのある人への支援・環境の整備
- ・協働のまちづくり・行財政運営：(38) 行財政の適正な運営



凡	例
(1)	植栽活動によるまちなみ・景観
(2)	自然環境の保全
(3)	ごみの収集・処理、リサイクル活動
(4)	不法投棄への対策・地域の環境美化
(5)	上下水道・生活雑排水施設の整備
(6)	住環境の整備
(7)	公園緑地・子どもの遊び場の整備
(8)	災害に強いまちづくり・防災対策
(9)	防犯・交通安全など、地域の安全対策
(10)	市内の道路網、道路整備
(11)	市内の公共交通の本数、路線
(12)	港湾・海岸・河川の整備
(13)	情報通信基盤の整備
(14)	キリシタン文化史跡等の保存・活用
(15)	郷土文化を受け継ぐ活動
(16)	市民の芸術文化活動の支援
(17)	生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興
(18)	漁業環境の整備・担い手育成等、水産業の振興
(19)	観光地のPR・観光客の受け入れ体制等、観光の振興
(20)	商店街のにぎわいづくり支援等、商工業の振興
(21)	市内での雇用機会の拡充・創出
(22)	産業間の連携、新産業の創出・育成
(23)	MINA コイン(電子地域通貨)の活用
(24)	市民の健康づくり・健診等の保健活動
(25)	地域の医療機関・診療体制
(26)	夜間・休日などの救急医療体制
(27)	高齢者へのサービスや支援・生きがいづくり
(28)	障がいのある人への支援・環境の整備
(29)	支え合い・ボランティア活動等、地域福祉の推進
(30)	安心して子どもを生み、育てられる、子育て支援
(31)	特色のある小中学校での教育
(32)	地域と取り組む青少年の健全育成
(33)	公民館講座等、生涯学習環境
(34)	スポーツ・レクリエーション活動
(35)	市民協働のまちづくり
(36)	地域づくり(コミュニティ)活動
(37)	人権・男女共同参画の推進
(38)	行財政の適正な運営
(39)	近隣自治体との交流・連携
(40)	国際交流・国内の地域間交流
(41)	市のPR・プロモーション
(42)	マイナンバーカードの普及・利活用

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。



南島原市の取り組みについて②：前回調査との比較

■全体の満足度

◎ 南島原市の取り組みについて、前回調査（平成 28 年度）の満足度と比較すると、生活環境の「(8) 災害に強いまちづくり・防災対策、(9) 防犯・交通安全など、地域の安全対策」、基盤整備の「(13) 情報通信基盤の整備」、子育て支援・教育環境の「(31) 小中学校での特色ある教育」等は前回調査を上回る満足度となっていますが、その他は前回調査の満足度を下回る結果となっています。

◎ 生活環境

項目	満足度	前回比
(1) 植栽活動によるまちなみ・景観	69.2% 69.8%	-0.6
(2) 自然環境の保全	75.6% 78.6%	-3.0
(3) ごみの収集・処理、リサイクル活動	84.8% 86.0%	-1.2
(4) 不法投棄への対策・地域の環境美化	53.2% 52.7%	0.5
(5) 上下水道・生活雑排水施設の整備	72.7% 71.7%	0.9
(6) 住環境の整備	70.6% 73.1%	-2.6
(7) 公園緑地・子どもの遊び場の整備	38.9% 44.1%	-5.1
(8) 災害に強いまちづくり・防災対策	64.3% 51.4%	13.0
(9) 防犯・交通安全など、地域の安全対策	83.4% 77.5%	5.9

◎ 基盤整備

項目	満足度	前回比
(10) 市内の道路網、道路整備	48.1% 56.0%	-7.9
(11) 市内の公共交通の本数、路線	16.8% 19.3%	-2.5
(12) 港湾・海岸・河川の整備	54.2% 58.9%	-4.7
(13) 情報通信基盤の整備	59.0% 52.0%	7.0

◎ 歴史文化の継承・市民文化の醸成

項目	満足度	前回比
(14) キリシタン文化史跡等の保存・活用	78.4% 84.4%	-6.0
(15) 郷土文化を受け継ぐ活動	76.8% 81.8%	-5.0
(16) 市民の芸術文化活動の支援	74.3% 80.1%	-5.8

◎ 地域経済・産業振興

項目	満足度	前回比
(17) 生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興	48.8% 48.1%	0.8
(18) 漁業環境の整備・担い手育成等、水産業の振興	42.9% 48.1%	-5.2
(19) 観光地のPR・観光客の受け入れ体制等、観光の振興	48.1% 50.1%	-2.0
(20) 商店街のにぎわいづくり支援等、商工業の振興	22.9% 26.3%	-3.5
(21) 市内での雇用機会の拡充・創出	15.1% 16.8%	-1.6
(22) 産業間の連携、新産業の創出・育成	22.2% 21.1%	1.1
(23) MINAコイン(電子地域通貨)の活用	63.4%	-

◎ 保健・医療・福祉

項目	満足度	前回比
(24) 市民の健康づくり・健診等の保健活動	87.4% 89.2%	-1.8
(25) 地域の医療機関・診療体制	62.9% 65.7%	-2.8
(26) 夜間・休日などの救急医療体制	54.8% 56.5%	-1.7
(27) 高齢者への介護保険サービスや生活	69.3% 73.4%	-4.1
(28) 障がいのある人が暮らしやすい生活	58.3% 57.9%	0.4
(29) 支え合い・ボランティア活動等、地域福祉の推進	65.4% 66.2%	-0.8

◎ 子育て支援・教育環境

項目	満足度	前回比
(30) 安心して子どもを生み、育てられる、子育て支援	63.2% 65.2%	-1.9
(31) 小中学校での特色ある教育	68.9% 62.9%	6.0
(32) 地域と取り組む青少年の健全育成	68.4% 73.6%	-5.1
(33) 公民館講座等、生涯学習環境	66.1% 74.2%	-8.1
(34) スポーツ・レクリエーション活動	68.6% 74.1%	-5.5

◎ 協働のまちづくり・行財政運営

項目	満足度	前回比
(35) 市民協働のまちづくり	62.4% 67.7%	-5.2
(36) 地域づくり(コミュニティ)活動	65.1% 67.0%	-1.9
(37) 人権・男女共同参画の推進	59.1% 68.8%	-9.7
(38) 行財政の適正な運営	49.1% 53.1%	-4.1
(39) 近隣自治体との交流・連携	62.4% 62.7%	-0.4
(40) 国際交流・国内の地域間交流	56.5% 58.2%	-1.7
(41) 市のPR・プロモーション	71.1%	-
(42) マイナンバーカードの普及・利活用	44.6%	-

凡 例

令和 4 年度調査による満足度※  
(n=1,164)

平成 28 年度調査による満足度※  
(n=1,152)

※満足度：

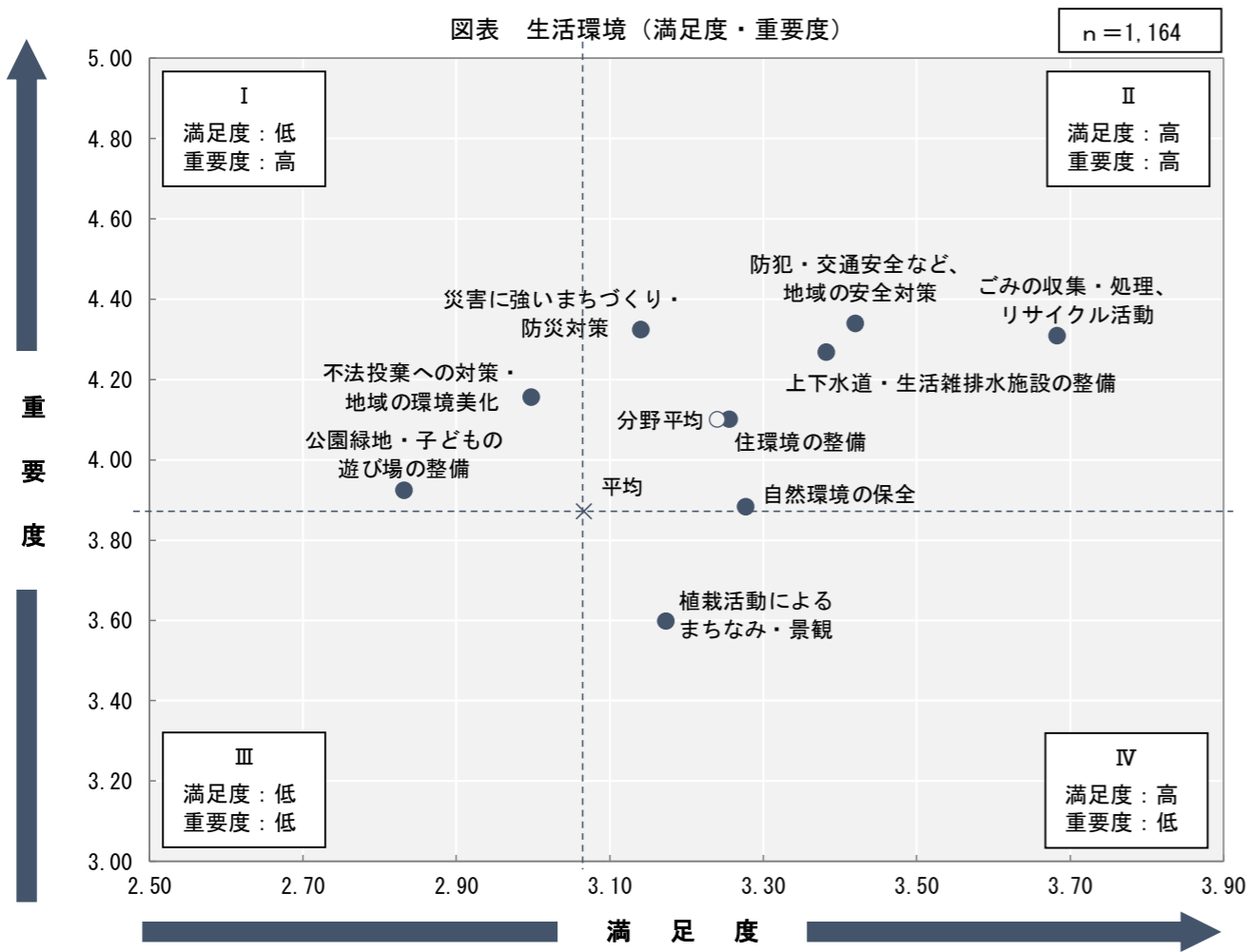
(「満足している」+「どちらかといえば満足している」の割合) ÷ 回答数 (無回答、「どちらともいえない」を除く)

※図表中の n は該当する設問の回答者数を表します。

南島原市の取り組みについて③-1：生活環境の満足度・重要度

■生活環境の満足度・重要度

- ◎ 生活環境の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「不法投棄への対策・地域の環境美化」、「公園緑地・子どもの遊び場の整備」が挙げられています。
- ◎ 「公園緑地・子どもの遊び場の整備」は、特に30歳代で満足度が低くなっています。
- ◎ 「ごみの収集・処理、リサイクル活動」は70歳以上で満足度が高く、「上下水道・生活雑排水施設の整備」は口之津町で特に満足度が高くなっています。

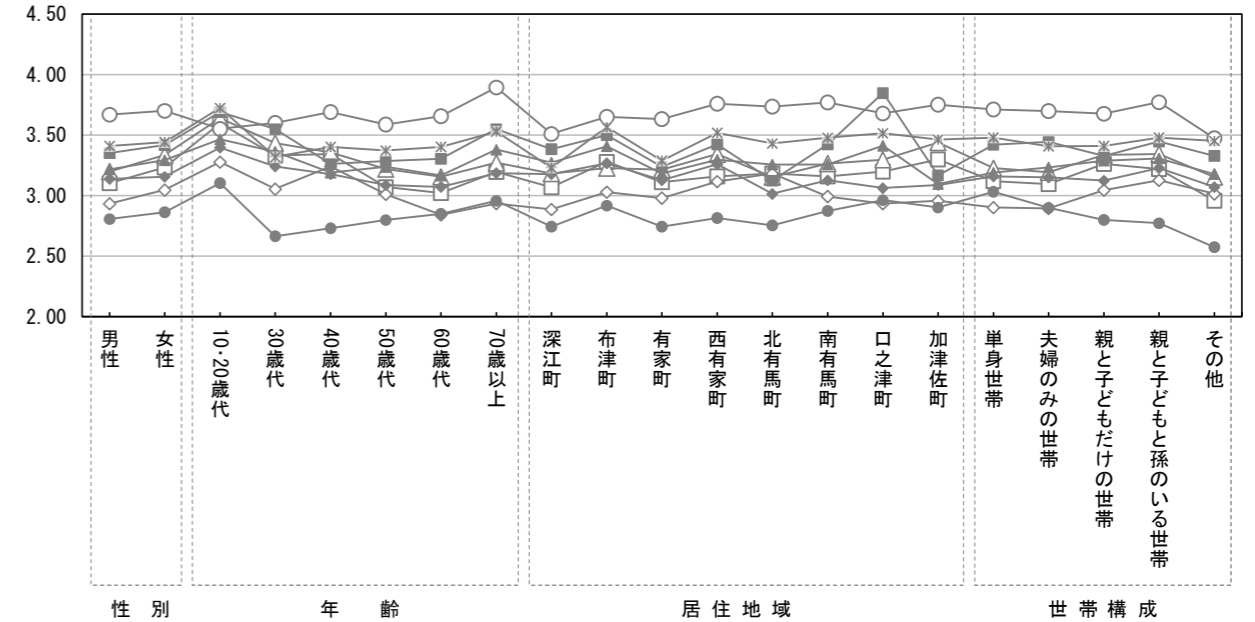


■生活環境に関する意見・提案

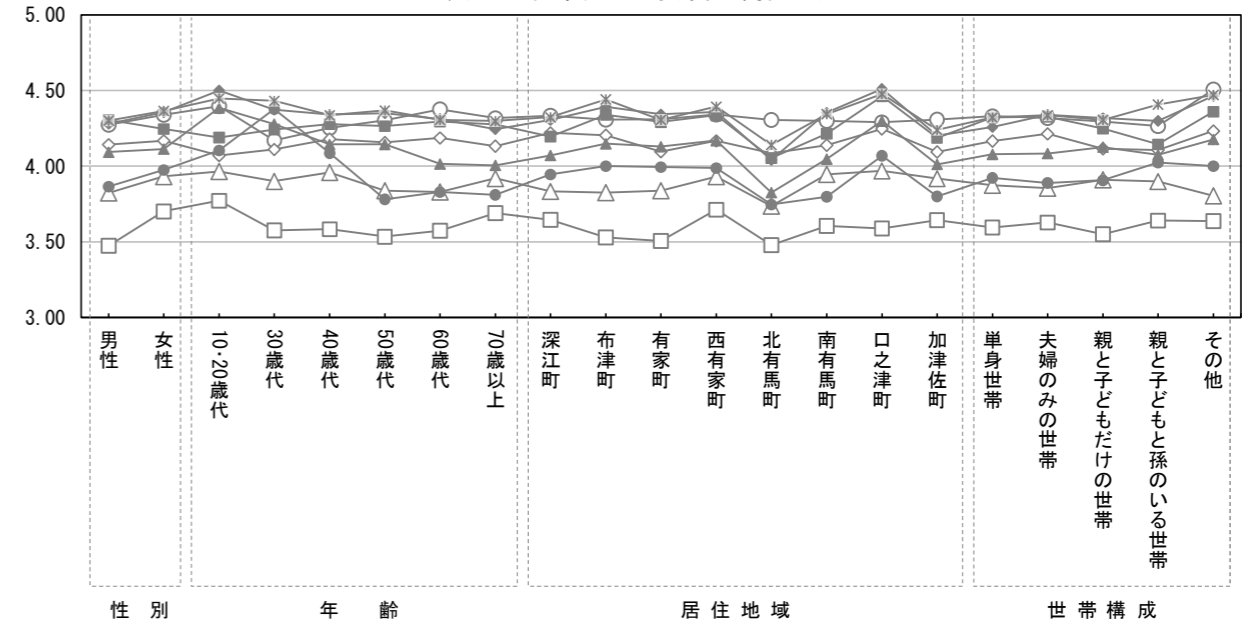
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
公園・緑地、景観	<ul style="list-style-type: none"> <li>公園に小さい子どもを連れて遊ばせたいが、遊具がひとつもないので考えてほしい。(60歳代・女性)</li> <li>地域の空き地（道路沿い）に花を植えて住み良い環境にできればと思うが、水やり用の水栓がなくうまく栽培できない。(60歳代・女性)</li> <li>河口一帯（付近）に河川公園として整備する。防災・憩い・学びの場となりそうだ。環境美化、景観もよくなる。(60歳代・男性)</li> </ul>
ごみ・不法投棄 環境美化	<ul style="list-style-type: none"> <li>不燃ゴミでも、出し方が曖昧なものもあるので、ゴミの出し方や環境活動についてのお知らせや勉強会などがあつたらいいと思います。(50歳代・女性)</li> <li>ゴミを出さず豊かな自然を守ることは今求められている重要なことです。(70歳以上・男性)</li> </ul>

図表 生活環境（満足度：属性別）



図表 生活環境（重要度：属性別）

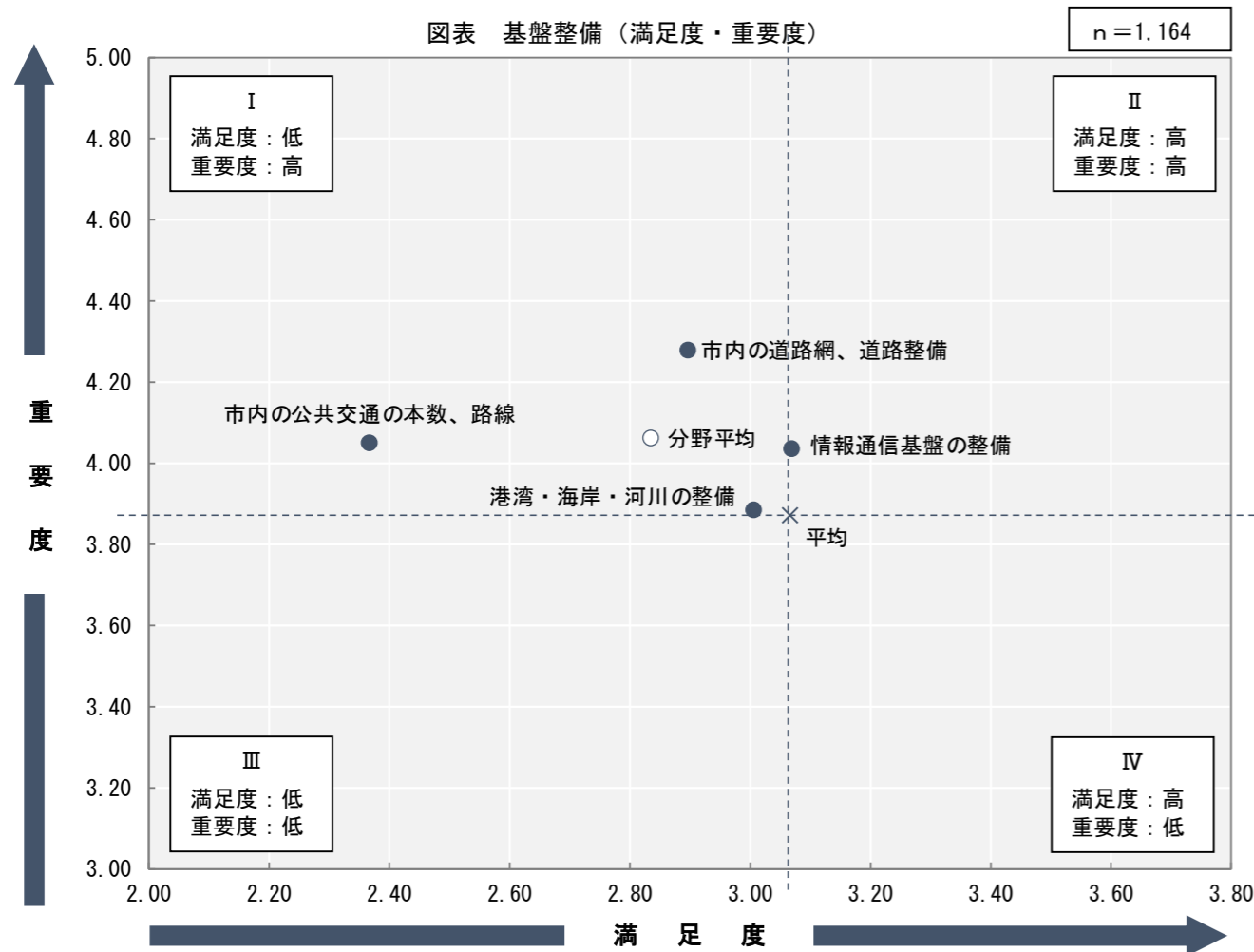


- 植栽活動によるまちなみ・景観
  - ◇ 不法投棄への対策・地域の環境美化
  - 公園緑地・子どもの遊び場の整備
  - △ 自然環境の保全
  - 上下水道・生活雑排水施設の整備
  - ◆ 災害に強いまちづくり・防災対策
  - ごみの収集・処理、リサイクル活動
  - ▲ 住環境の整備
  - ✱ 防犯・交通安全など、地域の安全対策
- 図表 意見・提案

テーマ	主な意見
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>保育・幼稚園、学校周辺に速度30キロ以下ゾーンがあれば良いと思う。(30歳代・女性)</li> <li>大雨が降った時に災害にならないように沈砂池をきれいにしたい。(50歳代・女性)</li> <li>海の近くで近所軒が浸水した。災害を想定して市内の下水・表水などの見直しをしてはどうか。(60歳代・女性)</li> </ul>
空き家対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>空き家などを利用して人が集まって話せる場を作ってほしい。(50歳代・女性)</li> <li>空き家の放置が多く、朽ち果てた空き家があり危険で景観が悪い。(60歳代・男性)</li> </ul>
スマートシティ	<ul style="list-style-type: none"> <li>トヨタのウーブン・シティ（スマートシティ）のように企業とタイアップしに都市開発ができれば面白そうだと思う。(40歳代・男性)</li> </ul>

■基盤整備の満足度・重要度

- ◎ 基盤整備の分野は、範囲Ⅰに位置する項目として、「市内の道路網、道路整備」、「市内の公共交通の本数、路線」、「港湾・海岸・河川の整備」が挙がっています。
- ◎ 属性別にみると、「市内の公共交通の本数、路線」は、属性全般（性別問わず全年齢・全地区）で満足度が低く、市域全般の課題とみられます。

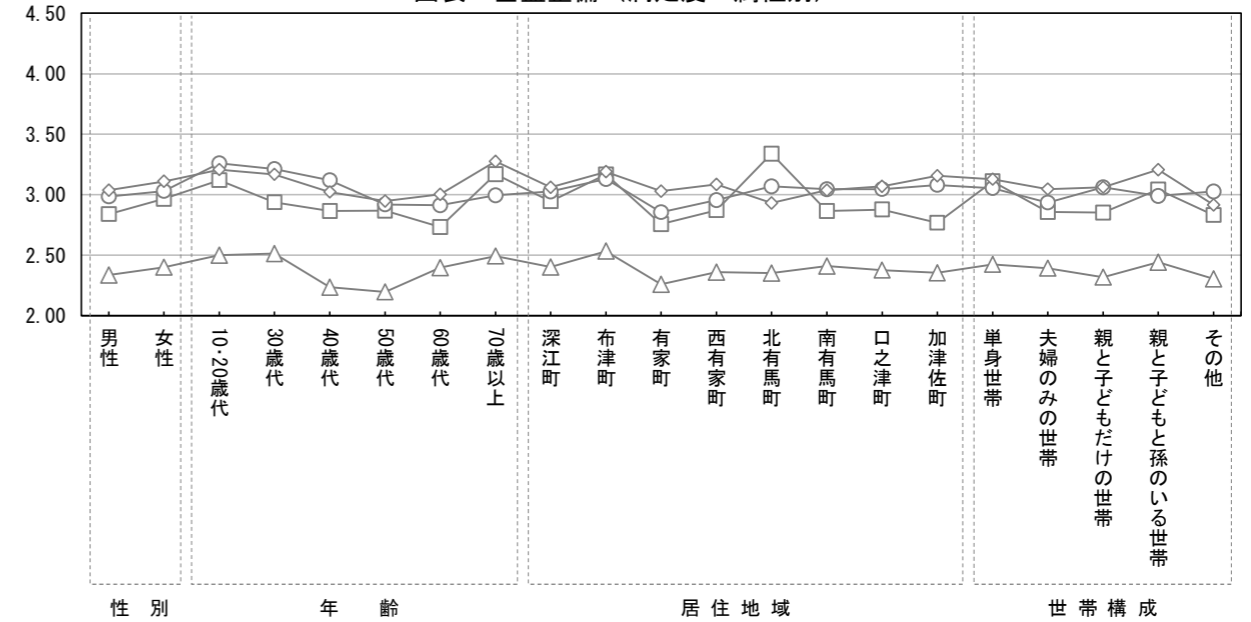


■基盤整備に関する意見・提案

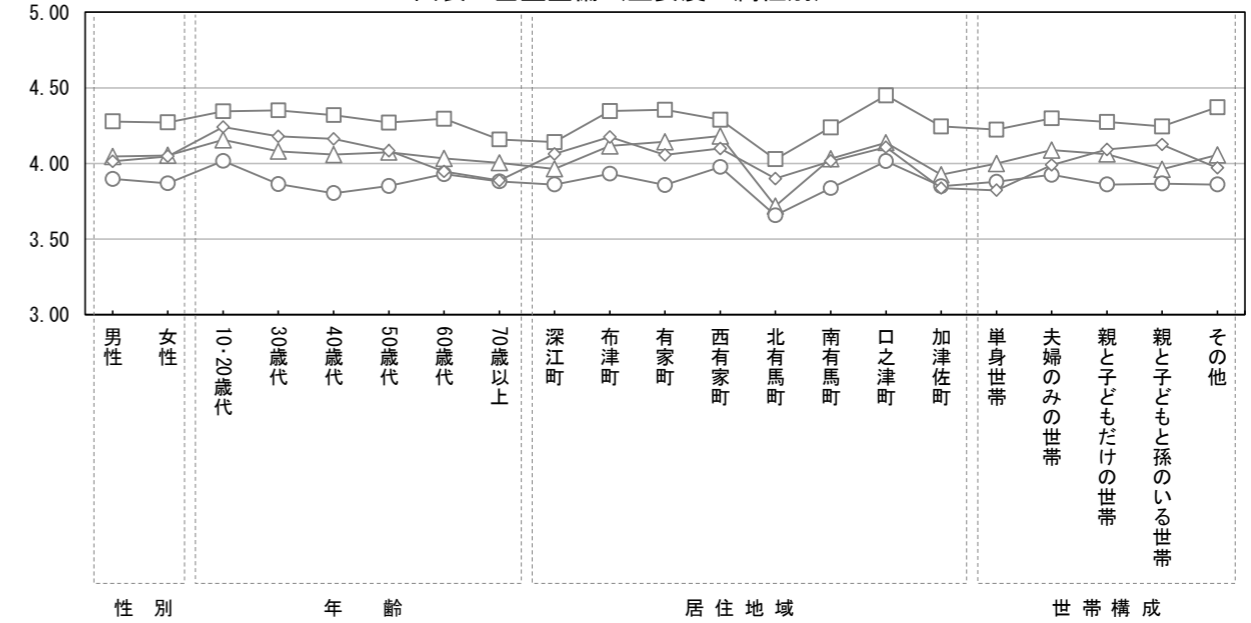
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
道路	<ul style="list-style-type: none"> <li>・交通の便が悪いところで事業を繰り広げるのは困難であるため、島原・天草・長崎連絡道路の早期開通に向けて取り組んでほしい。(10・20歳代・男性)</li> <li>・道路を整備し、遠方からの人を呼んで気軽に来られる市になってほしい。(50歳代・男性)</li> <li>・救急車両が通れない道路(200m)がある。(60歳代・男性)</li> <li>・国道と旧道(狭い市道など)と結ぶ道路を広めてスムーズに行き来できるようにしてほしい。</li> </ul>
公共交通	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニティバスなどで良いのでバスの本数が少ない所をまわってほしい。バス停まで遠い家などに何かしらの配慮をしてほしい。(10・20歳代・女性)</li> <li>・「チョイソコミなみしまばら」良い取り組みだと思う。できれば電話しなくても時間を決めて送迎する仕組みになれば良い。(50歳代・女性)</li> <li>・自治体と病院・商店をつなぐバスを運行する事は地域の活性化にもつながるし、市内は1回乗る度ワンコインになると助かるのではないか。(60歳代・女性)</li> </ul>

図表 基盤整備（満足度：属性別）



図表 基盤整備（重要度：属性別）



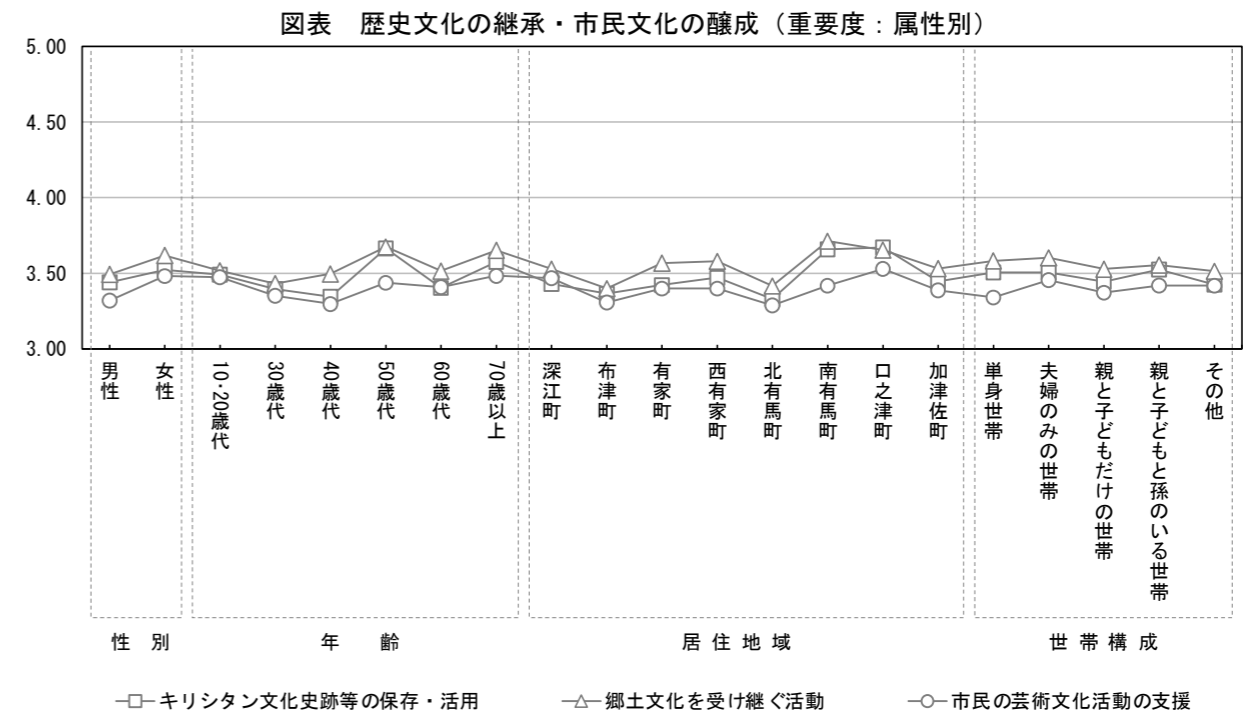
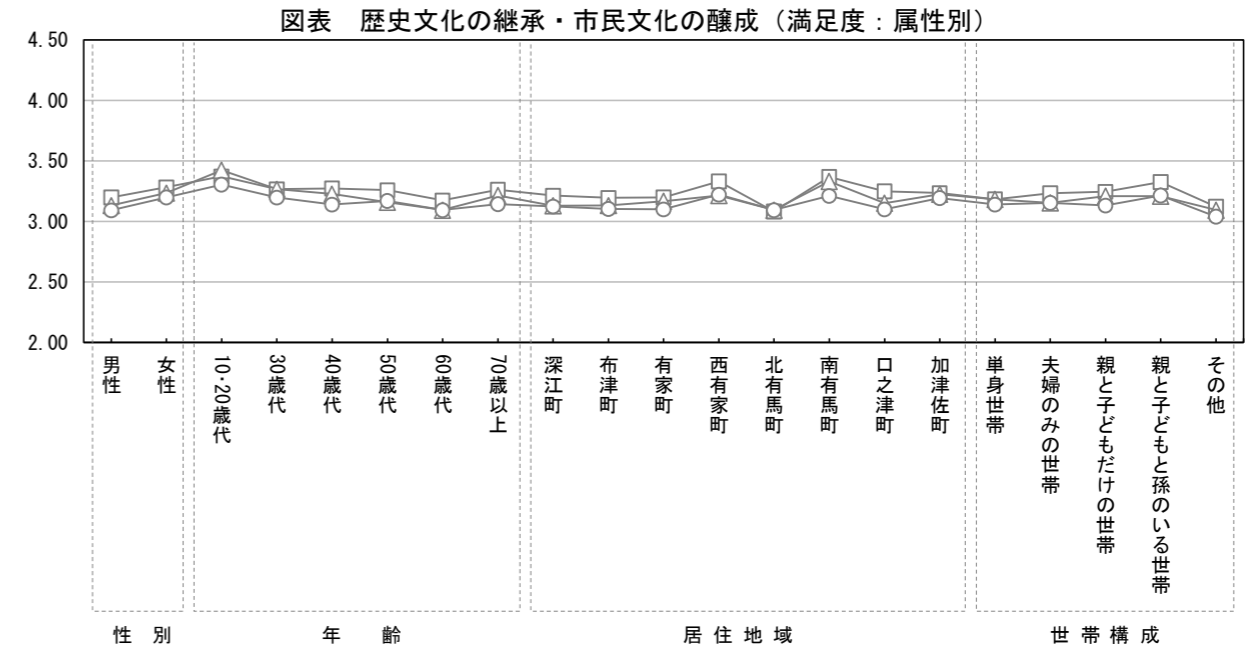
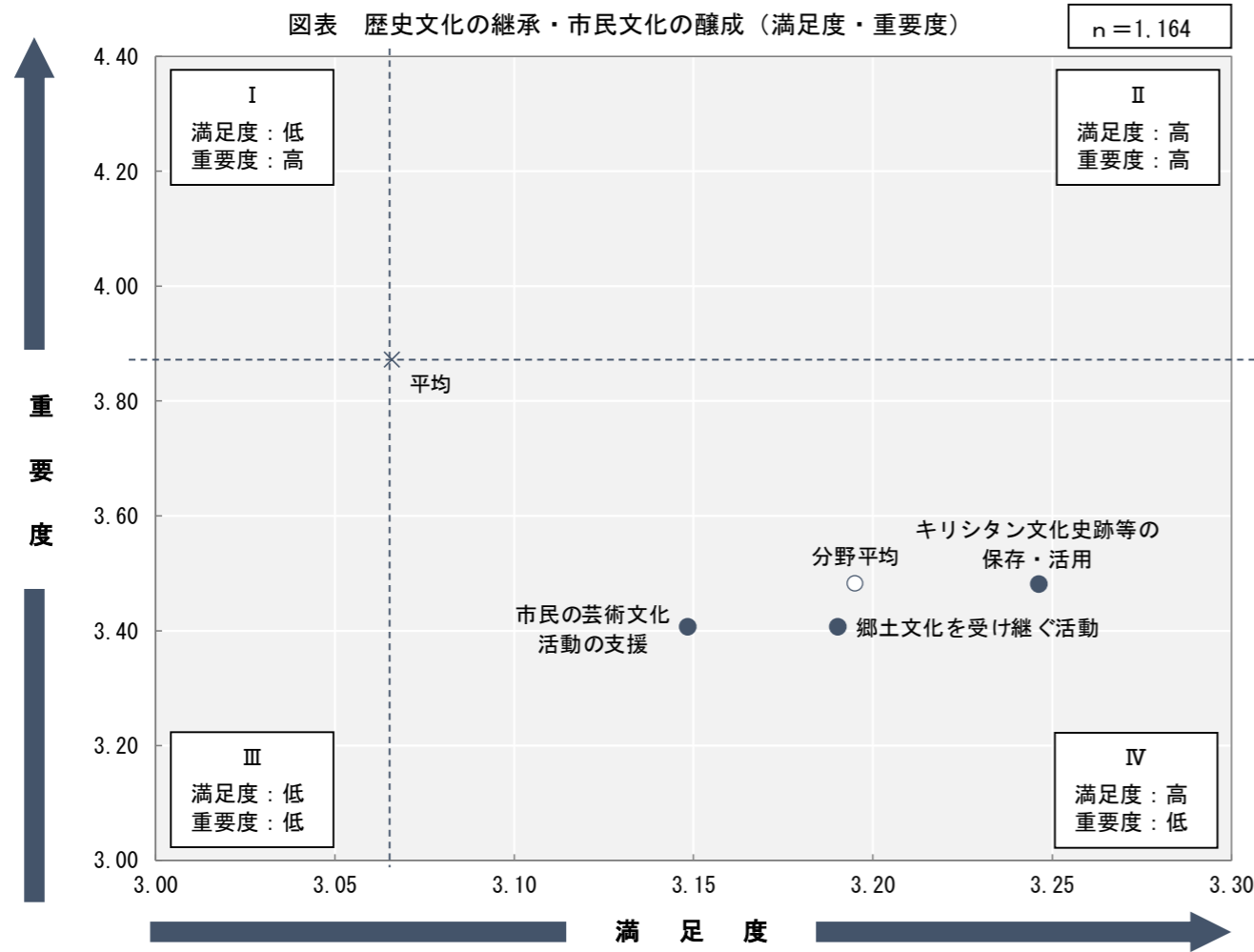
□-市内の道路網、道路整備 △-市内の公共交通の本数、路線 ○-港湾・海岸・河川の整備 ◇-情報通信基盤の整備

図表 意見・提案

テーマ	主な意見
自転車道路 サイクルロード	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自転車道路の供用をできるところから速やかにすべし。(10・20歳代・男性)</li> <li>・サイクリングロードの整備はリピーターを増やす工夫を。旧駅舎にお店(食事やお土産)を作ったり、自転車レンタル→乗り捨て(市が回収)→バスで帰れる等。サイクリングロードを作って終わりにしないでほしい。(40歳代・女性)</li> <li>・サイクリングロードの整備が進められているが、サイクリングステーションやレンタルサイクル、沿線の整備(休憩所・カフェや食事ができる場所、観光案内等)を行って経費を落としてもらう工夫が必要だと思う。(60歳代・男性)</li> </ul>
情報基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信FREE化、Wi-Fi環境整備。(40歳代・男性)</li> <li>・ネット環境に格差が大きい早く整備してほしい。(40歳代・女性)</li> </ul>

■歴史文化の継承・市民文化の醸成の満足度・重要度

- ◎ 歴史文化の継承・市民文化の醸成の分野では、各項目とも範囲Ⅳに位置しています。
- ◎ 性別、年齢、居住地域、家族構成に関わらず、概ね同様の満足度を表しています。



■歴史文化の継承・市民文化の醸成に関する意見・提案

図表 意見・提案

テーマ	主な意見
歴史文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雲仙・普賢岳の噴火から30年ですが、今の小学生達は知らないんじゃないかと思う。今からの子ども達に知ってもらう為に学校で話の場を設けることや旧大野木場小学校の見学などをするのもいいかと思う。(30歳代・女性)</li> <li>・教科書にも載るような歴史的遺産（セミナリヨ跡や日ノ江城原城跡）があるのに、市民はあまり知らないという現状がある。せめて子ども達には南島原市の歴史をしっかりと学んでほしい。(50歳代・女性)</li> <li>・南島原市の歴史や文化を知るために、子どもも大人も参加できるような、南島原市検定があると面白い。(50歳代・女性)</li> <li>・歴史の掘り起こし（オリエンテーション等に利用できるのでは）。(例) 岩戸山・大智禅師・口之津港（南蛮船）・原城・日野江城・南北朝の動乱期・温泉（うんぜん）神社・深江の武家屋敷通り等々。(60歳代・男性)</li> </ul>

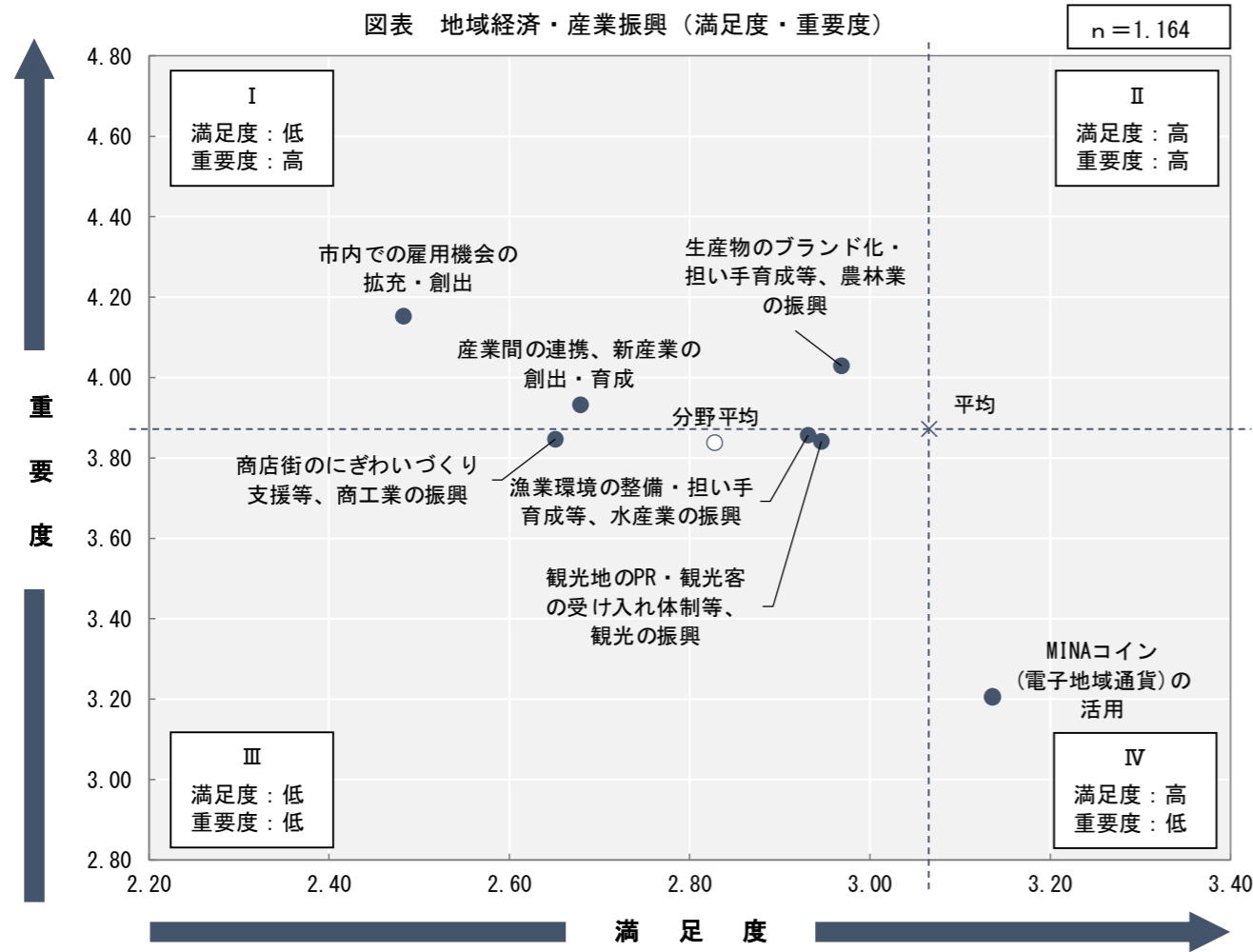
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
世界遺産	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界遺産群を活用するのはいいが、ターゲットが少しズレているのでは？全世代ではなく、ゆっくりスローな生活スタイルをされる方をターゲットとすればもう少し来ていただけるのでは？(40歳代・男性)</li> <li>・世界遺産原城を南島原の市民に周知してもらう必要がある。子どもが学校で学ぶことを親・祖父母世代が知らないの、まずは南島原市民への観光地としての原城をもっと歴史的視点からPRしてほしい。(40歳代・女性)</li> <li>・世界遺産や歴史に関して子供が学ぶ機会が増えれば良いと思う。(40歳代・女性)</li> </ul>
芸術・文化	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化面での活性化（向上）。コンサートや講演会をたくさん身近で経験したい。(50歳代・男性)</li> </ul>

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

■地域経済・産業振興の満足度・重要度

- ◎ 地域経済・産業振興の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「市内での雇用機会の拡充・創出」、「産業間の連携、新産業の創出・育成」、「生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興」が挙げられています。
- ◎ 「市内での雇用機会の拡充・創出」の項目では、年代で見ると40歳代、50歳代、60歳代、地区別で見ると有家町、北有馬町、南有馬町、加津佐町の方が特に低い満足度（2.5点以下）を挙げています。

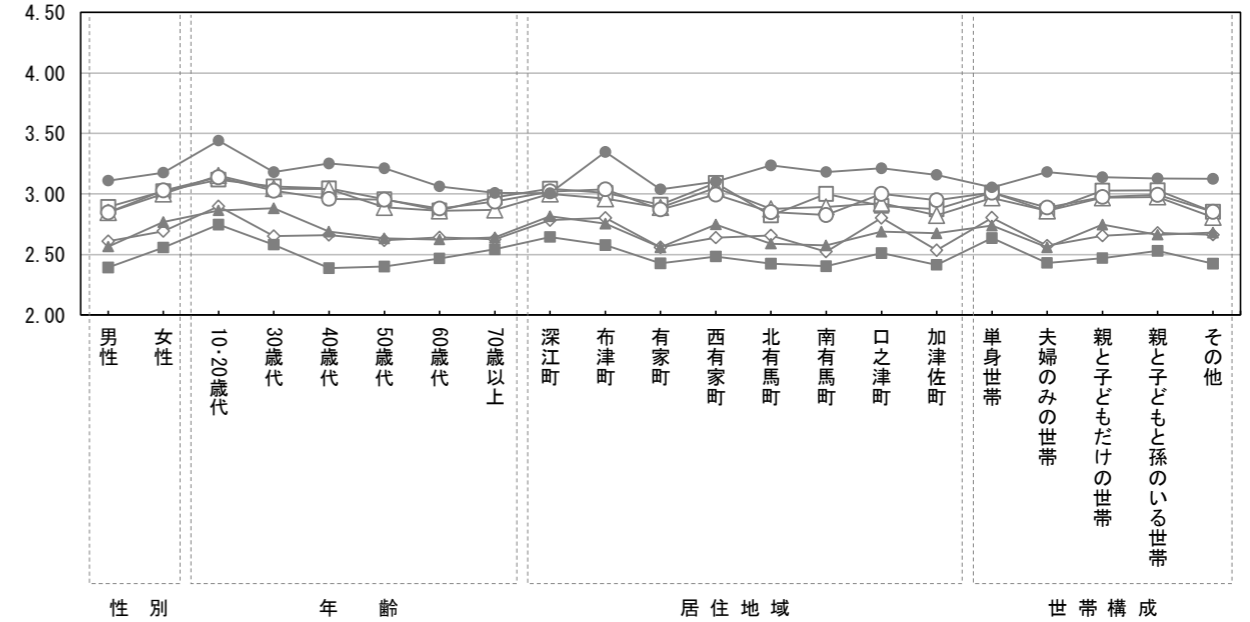


■産業振興や地域の活性化に関する意見・提案

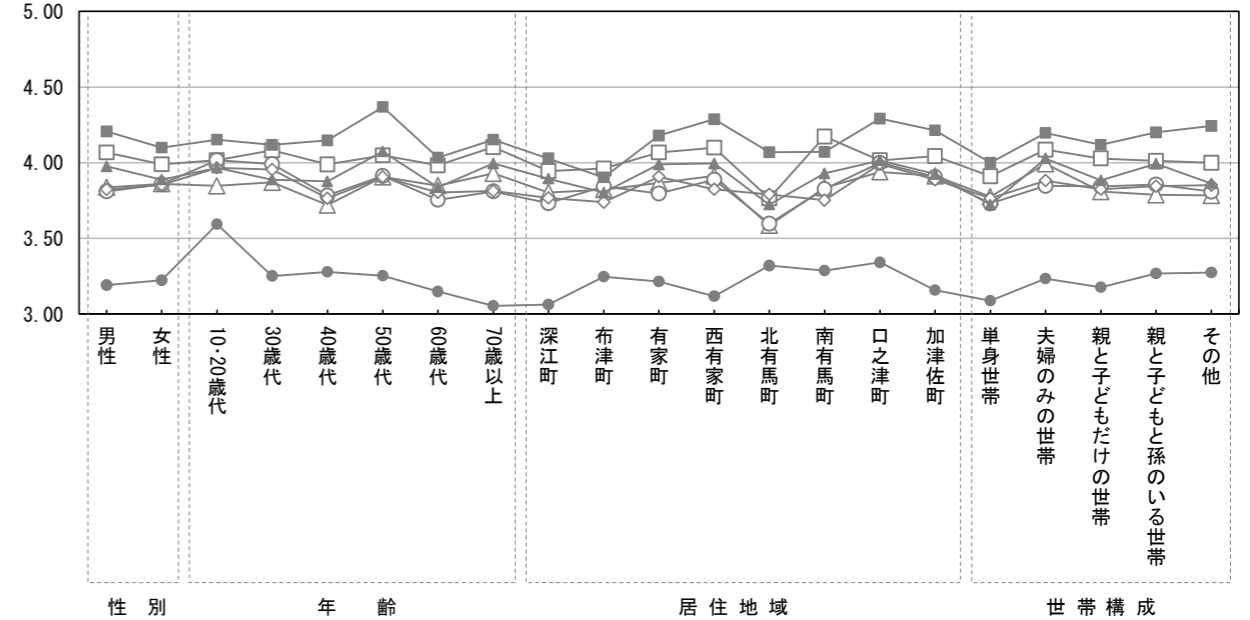
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
市のPR	<ul style="list-style-type: none"> <li>・とてもおいしい食べ物がたくさんあるのにブランディングがなされていないため、とても残念。(30歳代・男性)</li> <li>・地元のいい所、珍しい所をもっとアピールし、地元の人々の作った商品を応援できたらいいと思う。(60歳代・男性)</li> </ul>
農業・水産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・農業や漁業等への自営業の後継者への支援金制度の拡充。(10・20歳代・男性)</li> <li>・農業・漁業などの新規参入者を増やして欲しい。後継者不足の為、地元産で安心安全な食べ物を食べたい。(30歳代・女性)</li> <li>・耕作放棄地が年々増えることが予想される。虫や害獣、景観でも良くない。必要とする人に貸す為に手は打てないだろうか。(40歳代・男性)</li> <li>・一次産業が主な地域だが、特産品に付加価値を付け出荷すれば、市場に左右されず安定収入が得られるのではないかと。(70歳代・男性)</li> </ul>

図表 地域経済・産業振興（満足度：属性別）



図表 地域経済・産業振興（重要度：属性別）



- 生産物のブランド化・担い手育成等、農林業の振興
- 観光地のPR・観光客の受け入れ体制等、観光の振興
- 市内での雇用機会の拡充・創出
- MINAコイン(電子地域通貨)の活用
- △ 漁業環境の整備・担い手育成等、水産業の振興
- ◇ 商店街のにぎわいづくり支援等、商工業の振興
- ▲ 産業間の連携、新産業の創出・育成

図表 意見・提案

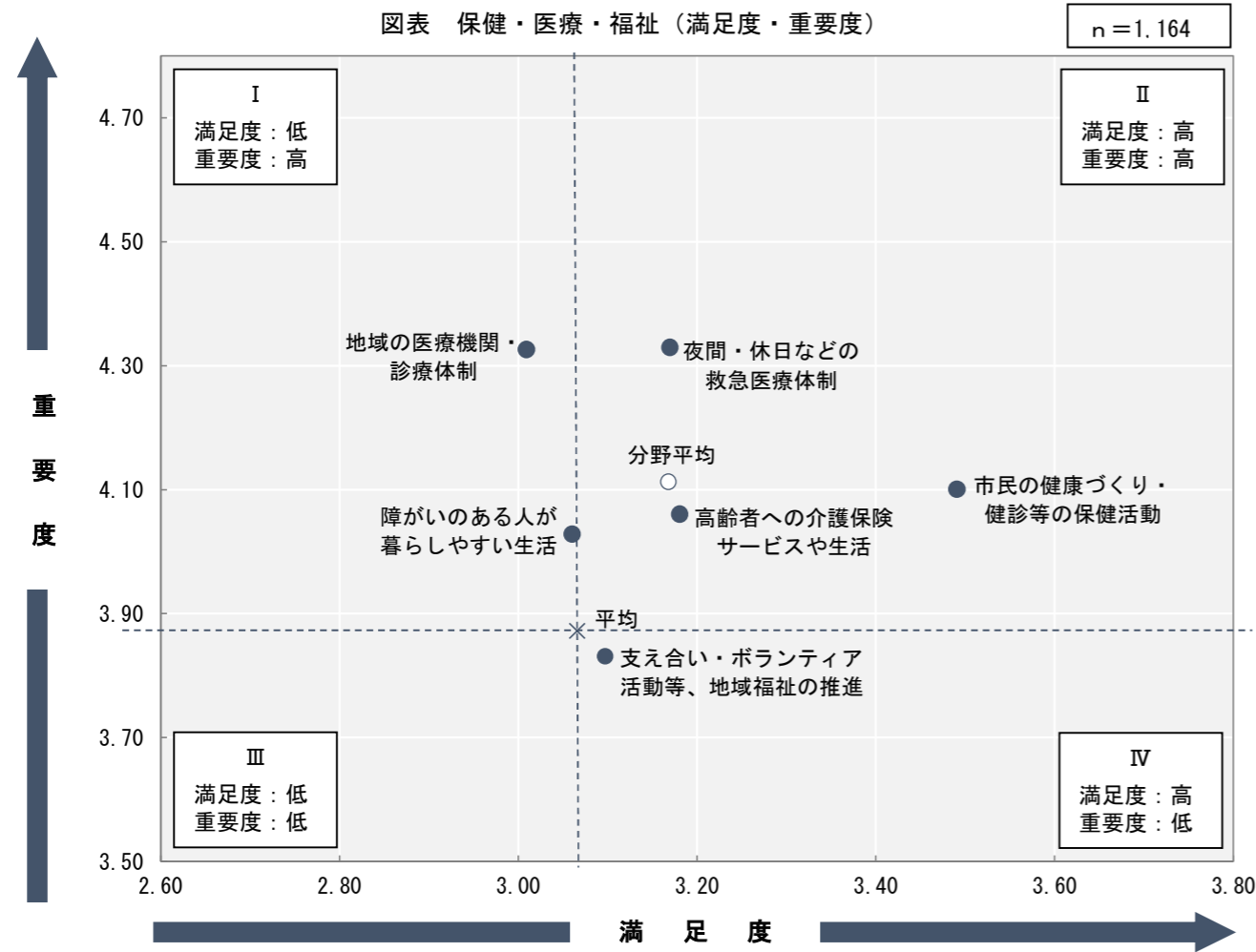
テーマ	主な意見
観光・商業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人素麺業への販売のノウハウの研修の場をつくり、個人経営でも消費者と繋がり作る喜びを感じてほしい。(10・20歳代・男性)</li> <li>・若者が残るような仕事の確保、豊かな自然環境を活かした民間主導の宿泊施設運営などに補助を行い、観光業の誘致を行う。(50歳代・男性)</li> </ul>
企業誘致・起業・雇用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ネットワーク環境の整備促進に対する補助を行い、IT企業の誘致・廃校等の有効利用。(40歳代・女性)</li> <li>・アニメーションスタジオやデザイン事務所、または芸術家等を誘致、または地元のクリエイターの養成。(40歳代・女性)</li> <li>・労働力不足、パートさんが足りない。ハローワークはあるが、市独自の取り組みはできないか。(60歳代・女性)</li> </ul>

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

南島原市の取り組みについて③-5：保健・医療・福祉の満足度・重要度

■保健・医療・福祉の満足度・重要度

- ◎ 保健・医療・福祉の分野では、相対的に満足度が低く、重要度の高い取り組み（範囲Ⅰ）として、「地域の医療機関・診療体制」、「障がいのある人が暮らしやすい生活」の項目が挙がっています。
- ◎ 「夜間・休日などの救急医療体制」は、市全体としては範囲Ⅱに位置するものの、30歳代、40歳代、50歳代では満足度が3.0点を下回っており、他の世代と比較して特に低くなっています。

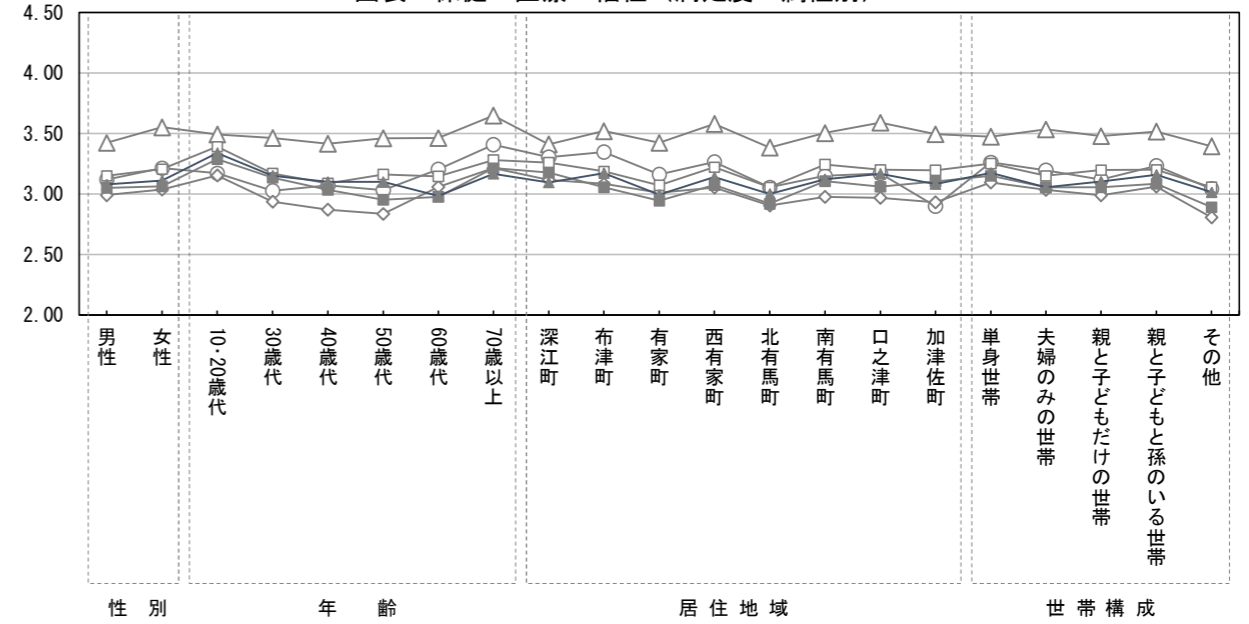


■保健・医療・福祉に関する意見・提案

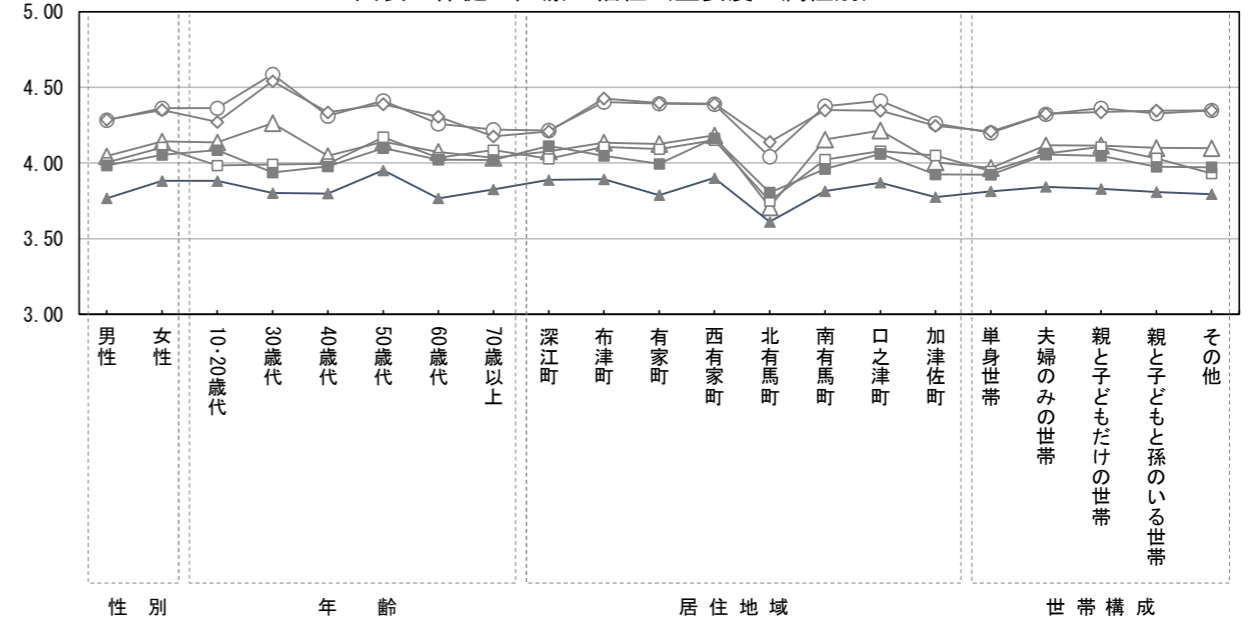
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
医療	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年齢に関係なく病院にかかるとき、診察はすぐ終わるのに待ち時間が長い。少しでも改善してもらえたらと思う。(30歳代・男性)</li> <li>・自分で病院を探して受診するのではなく、所見してどの専門医療機関に行ったらいいか教えてもらえる所をつくってほしい。(50歳代・男性)</li> </ul>
健康づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域での健康教室などを実施し、より健康で長生きできるまちづくりを行ってほしい。(10・20歳代・女性)</li> <li>・アプリを作り歩行数をまとめてミナコインを景品として出す。企業から参加してもらい、商品を出すのも良い。(60歳代・女性)</li> <li>・自分の健康を自分で守る。そのような考えを小児期から育ててほしい。(70歳以上・女性)</li> </ul>

図表 保健・医療・福祉（満足度：属性別）



図表 保健・医療・福祉（重要度：属性別）



- △ 市民の健康づくり・健診等の保健活動
- ◇ 夜間・休日などの救急医療体制
- 障がいのある人が暮らしやすい生活
- 地域の医療機関・診療体制
- 高齢者への介護保険サービスや生活
- ▲ 支え合い・ボランティア活動等、地域福祉の推進

図表 意見・提案

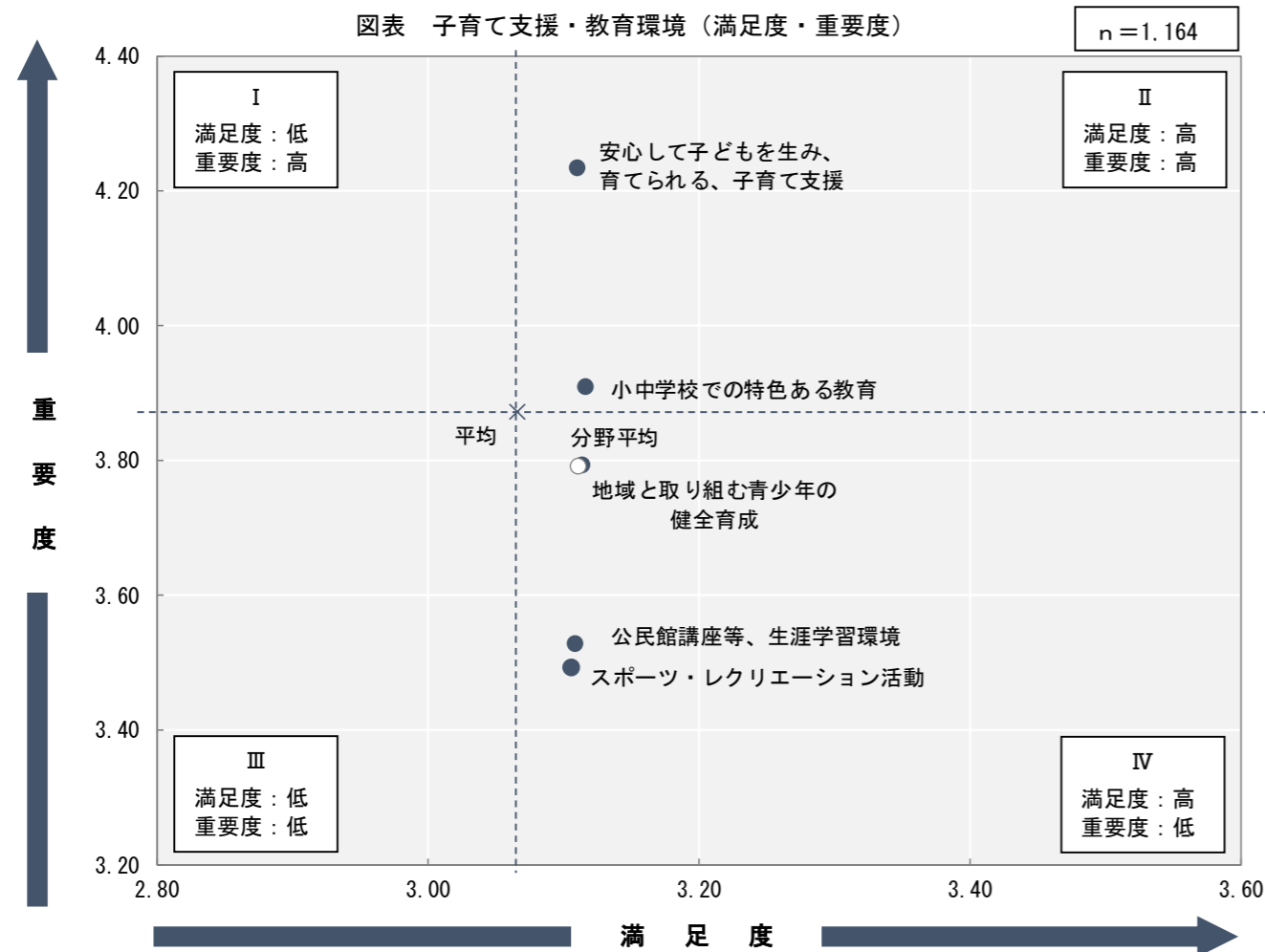
テーマ	主な意見
移動手段	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者が免許（運転）証を返納した後、生活の基盤が崩れる。何かしらのサポートが必要。(40歳代・女性)</li> <li>・高齢者、免許のない人等の交通手段をさらに取り組んでほしい。タクシーを負担が少ない範囲で利用できるような方法を考えてほしい。(70歳以上・男性)</li> </ul>
高齢者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、その家族がより利用しやすい、わかりやすい方法などを各事業所だけに任せたりせず、行政が積極的にもっと関わると良い。(40歳代・女性)</li> <li>・孤独死など、ひとり暮らし家庭をどうしたらいいか？改善策は？(60歳代・男性)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆる世代に生きる人がその時必要と思う、保健・福祉・医療を適切に受けられるようにと思う。健康推進以外の活動など、どのような事をされているのかわかりやすければ良いと思う。(60歳代・女性)</li> </ul>

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

南島原市の取り組みについて③-6：子育て支援・教育環境の満足度・重要度

■子育て支援・教育環境の満足度・重要度

- ◎ 子育て支援・教育環境の分野では、範囲Ⅰに位置する施策はなく、全般的に満足度が高い範囲である範囲Ⅱ・Ⅳに位置しています。
- ◎ 属性別にみると、性別、年齢、居住地、家族構成ともに、概ね同様の満足度を表しています。

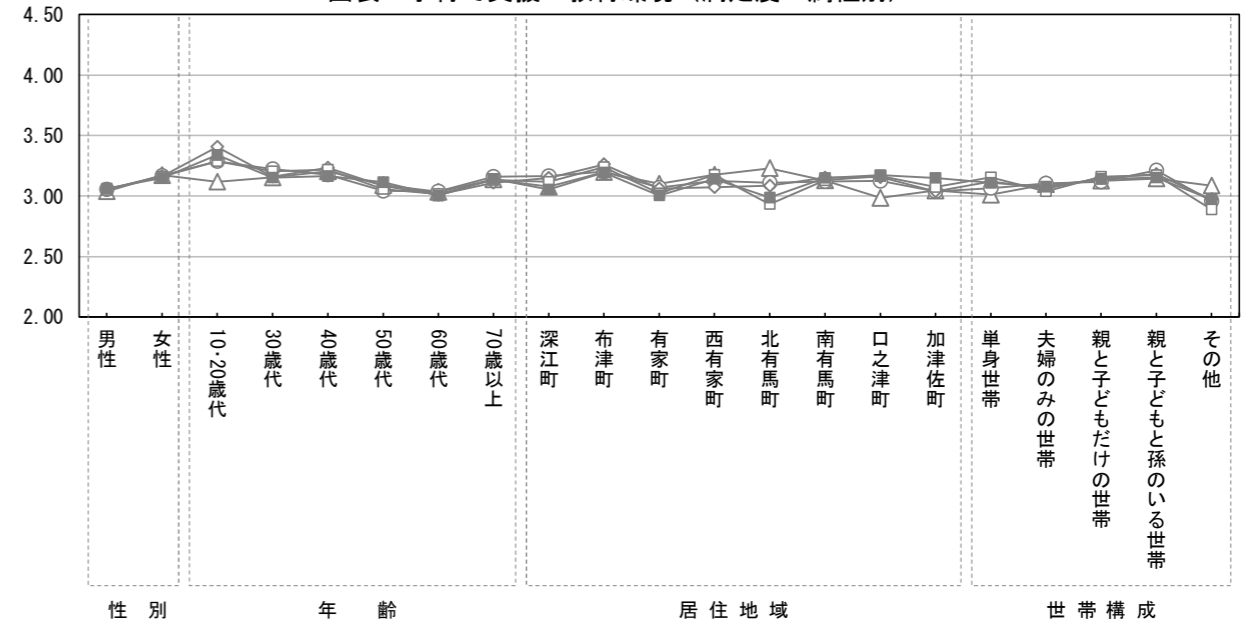


■子育て支援・教育環境に関する意見・提案

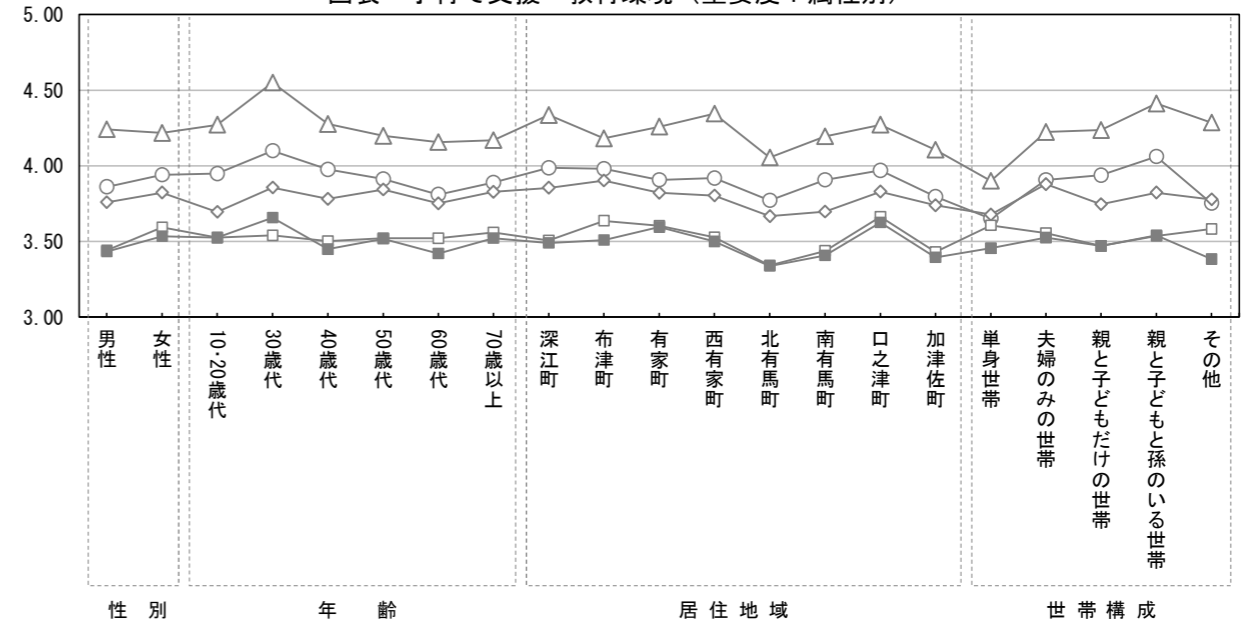
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
子育て	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子育て支援の充実（オムツ2年間無料、1人親に対する子育て必需品の宅配化、高校生までの医療費無料化）（10・20歳代男性）</li> <li>・高校生のバス通学を免除してほしい。（30歳代・女性）</li> <li>・小、中、高校生の医療費の現物給付。（30歳代・女性）</li> <li>・半島内では不妊治療専門の病院がなく、目的の病院に行くまでにお金がかかるため、交通費が出るようにするなどの対策をしてほしい。（30歳代・女性）</li> <li>・寺子屋のような、地域全体で子育てをする機会を増やしてほしい。（30歳代・女性）</li> <li>・子どもが緊急で受診したい場合の受診先がわからない。夜間や緊急の受診対応してもらえる機関があれば安心できる（30歳代・女性）</li> </ul>
学校教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元の子どもたち、高校生たちにスタートアップやベンチャーなどの仕事を”創る”教育を行い、地元を地盤としたビジネスチャンスを創造させるのが良いのではないかと。（40歳代・女性）</li> <li>・小さな時から命の大切さなど教育を充実させてもらいたい。（50歳代・女性）</li> <li>・不登校の児童生徒をなくす。フリースクールを充実させる。（60歳代・女性）</li> </ul>

図表 子育て支援・教育環境（満足度：属性別）



図表 子育て支援・教育環境（重要度：属性別）



- △ 安心して子どもを生み、育てられる、子育て支援
- 小中学校での特色ある教育
- ◇ 地域と取り組む青少年の健全育成
- 公民館講座等、生涯学習環境
- ★ スポーツ・レクリエーション活動

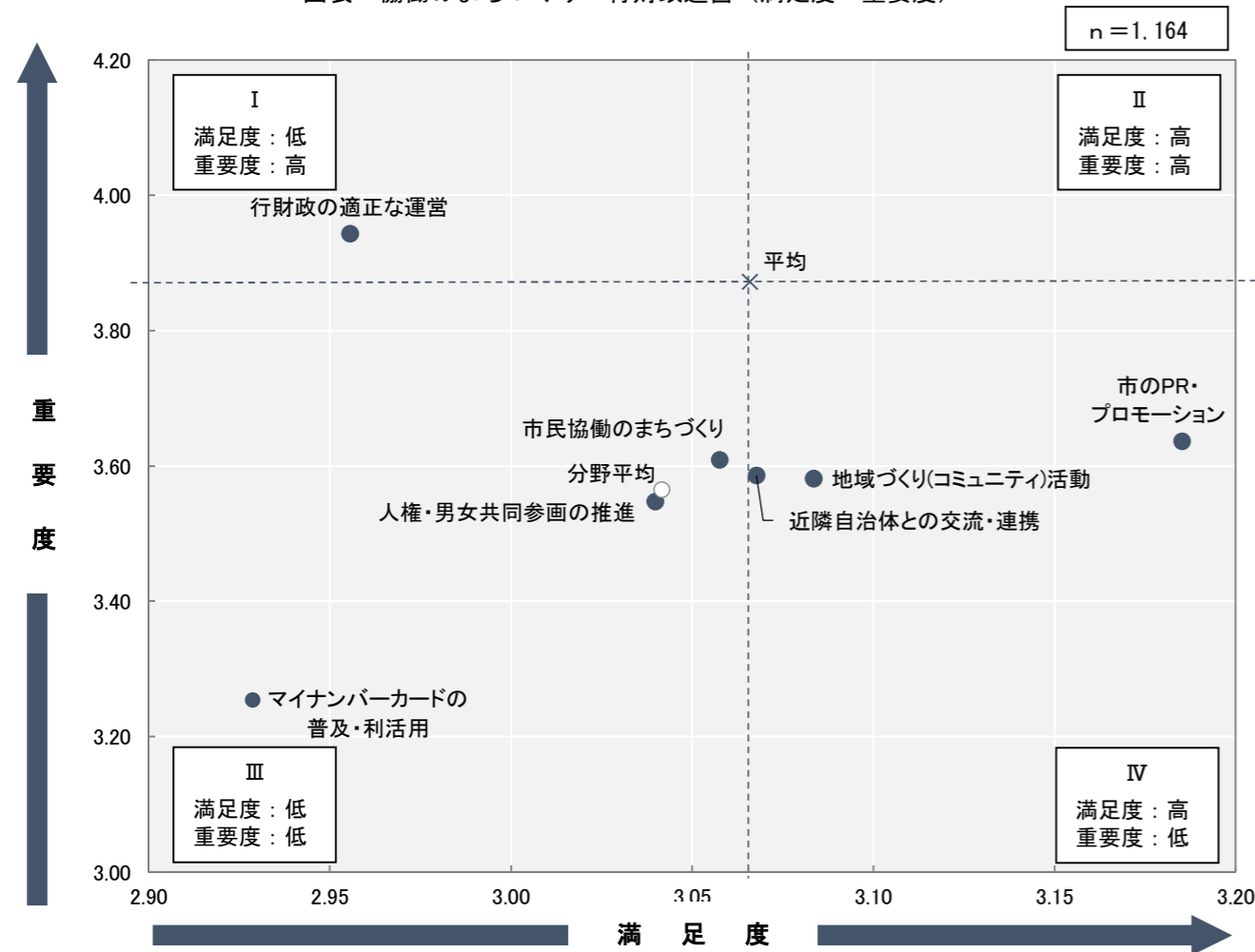
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
生涯学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もっと自然に触れさせて良いのではないかと？ケガ等のリスクある事も自然と共に学ばせて良いのではないかと。（10・20歳代・女性）</li> <li>・今、デジタル化といろいろ言われていますが、高齢者にはまだまだ難しい所がたくさんあると思うので、講習会など増やしてほしい。（30歳代・男性）</li> <li>・プログラミング等、先のことを考えて新しいスキルを子ども達が身につけられるよう、市で講座等設け、子ども達の能力を伸ばして欲しい。（60歳代・女性）</li> <li>・文化祭があるのはとても良い。見ていて楽しい。（70歳以上・女性）</li> </ul>
スポーツ活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市内中学校では生徒数減少により、部員不足の部活動が急増している。学校に任せるのではなく、まずは市が中心となったスポーツクラブを創設してほしい。（40歳代・男性）</li> <li>・児童の部活等の指導者確保に努めてもらいたい。（60歳代・女性）</li> </ul>

■協働のまちづくり・行財政運営の満足度・重要度

- ◎ 協働のまちづくり・行財政運営の分野では、範囲Ⅰに位置する項目として、「行財政の適正な運営」が挙がっています。それ以外の取組は、重要度が低い範囲Ⅲ・Ⅳに位置しています。
- ◎ 性別、年齢、居住地域、家族構成に関わらず、概ね同様の満足度となっています。
- ◎ 「マイナンバーカードの普及・利活用について」は、年齢層や地区によって重要度が異なっており、施策への理解を図る必要があると考えられます。

図表 協働のまちづくり・行財政運営（満足度・重要度）

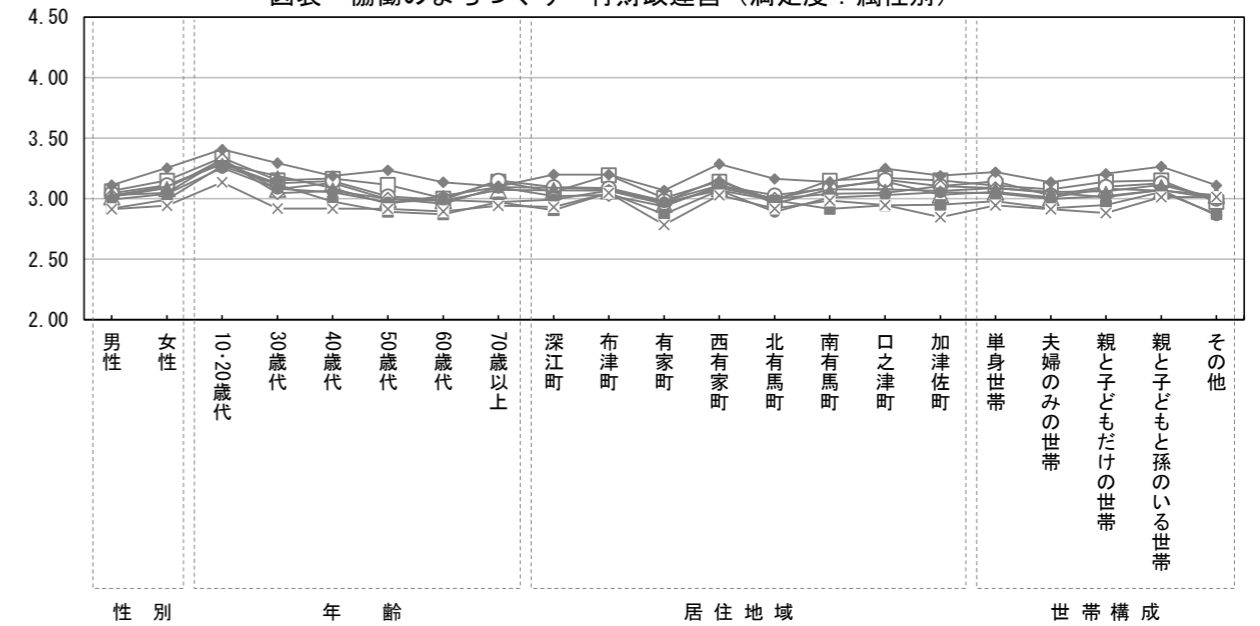


■行財政運営に関する意見・提案

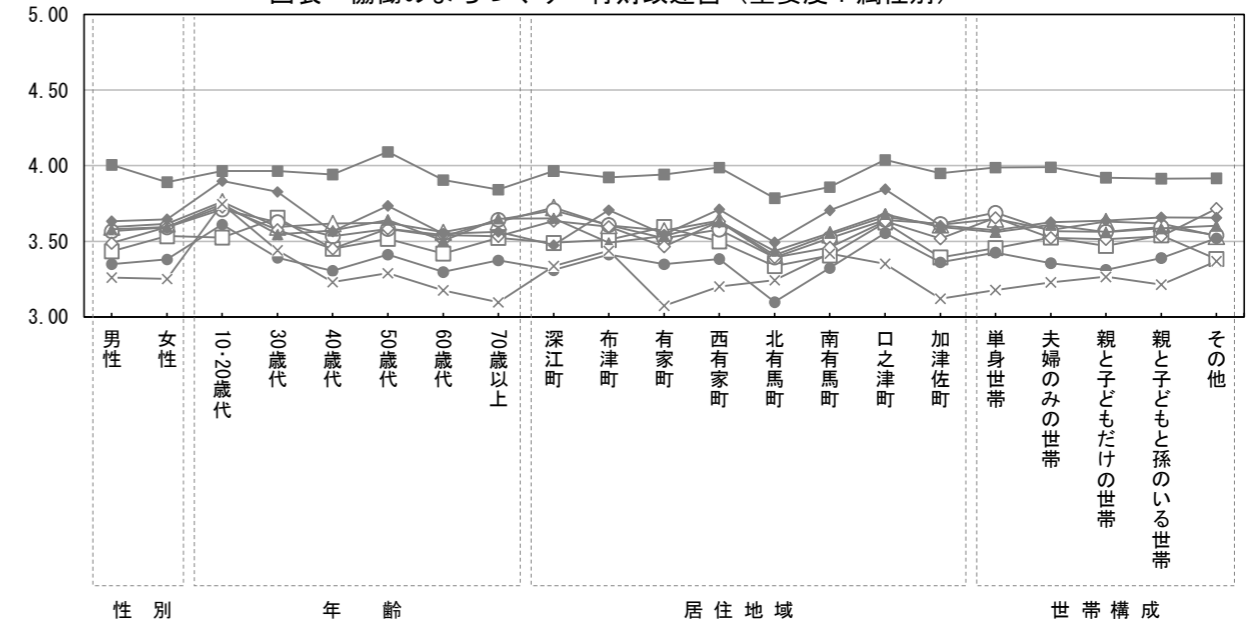
図表 意見・提案

テーマ	主な意見
窓口対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>各町に支所があるので、その各支所ですべてのことができれば便利。曜日を決めて、19時くらいまで窓口で手続きができれば良い。(10・20歳代・女性)</li> <li>病院など行くときに使えるよう、公用車をレンタルする。(50歳代・男性)</li> <li>市の人口も高齢化が進み、窓口での手続きも困難となる人も多い。高齢者向けの文字の大きい説明書や記入方法も必要。(70歳以上・男性)</li> </ul>
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル化が進み高齢者が対応できず不安を感じる。特に独居の方、電話や訪問しての支援などでできればありがたい。(40歳代・女性)</li> <li>各種手続きがお知らせの(個人あて)の中にQRコードを入れてもらって、スマホやパソコンでできるようにしてほしい。(50歳代・女性)</li> <li>マイナンバー登録したが住民票等書類を交付を早くコンビニで実施してほしい。(50歳代・男性)</li> </ul>

図表 協働のまちづくり・行財政運営（満足度：属性別）



図表 協働のまちづくり・行財政運営（重要度：属性別）



- スポーツ・レクリエーション活動
- △ 市民協働のまちづくり
- 地域づくり(コミュニティ)活動
- ◇ 人権・男女共同参画の推進
- 行財政の適正な運営
- ▲ 近隣自治体との交流・連携
- 国際交流・国内の地域間交流
- ◆ 市のPR・プロモーション
- × マイナンバーカードの普及・利活用

■協働のまちづくりに関する意見・提案

図表 意見・提案

テーマ	主な意見
広聴機会	<ul style="list-style-type: none"> <li>市民が専門的に取り組んでいる分野ごとに少人数を公募(応募多数の場合は抽選)で集め、市長と軽食を取りながらの懇談会を定期的に開くと、より開かれた意見が出ると思う。(10・20歳代・女性)</li> <li>若者の意見を聞くイベント開催。将来の南島原市に対して意見を聞くイベントを企画する。(60歳・男性)</li> </ul>
自治会活動	<ul style="list-style-type: none"> <li>人間関係が稀薄になってきている現状を、より良き方向に向けるため、自治会の活動をより活性化するための行財政支援をしてほしい。(60歳代・女性)</li> </ul>
公共施設の有効活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>日曜・雨天時の子どもが遊べる場所(廃校利用等)。(60歳代・女性)</li> </ul>

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

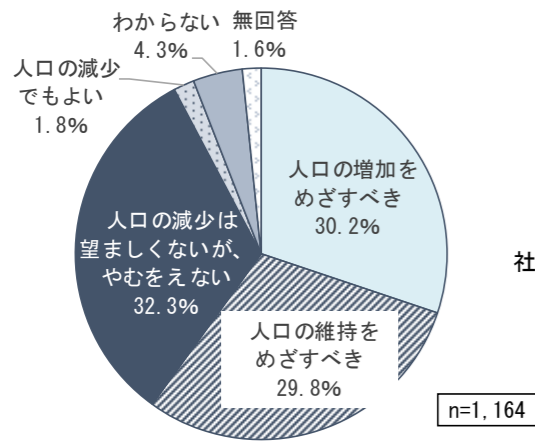


南島原市のこれからのまちづくりについて①：人口減少社会について

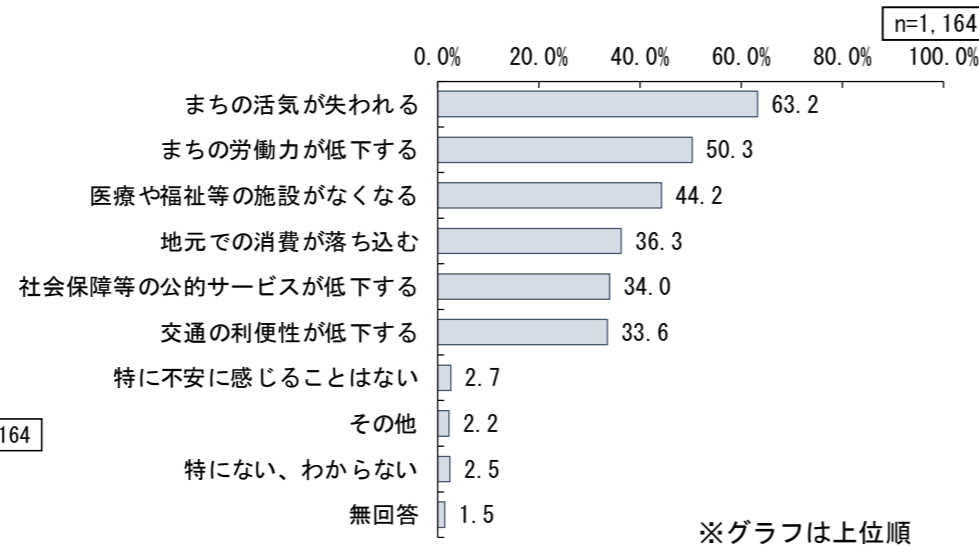
■人口減少社会について

- ◎ 人口減少に対する考え方は、「人口の減少は望ましくないが、やむをえない」(32.3%)、「人口の増加をめざすべき」(30.2%)、「人口維持をめざすべき」(29.8%)の順に上位に挙げており、意見が分かれています。
- ◎ 人口が減少することにより感じる不安について年齢別にみると、「まちの活気が失われる」、「まちの労働力が低下する」ことを各年齢層で上位に挙げているほか、10・20歳代では「地元での消費が落ち込む」、30歳代以上では「医療や福祉等の施設がなくなる」を上位に挙げています。

図表 人口減少に対する考え方



図表 人口が減少することにより感じる不安



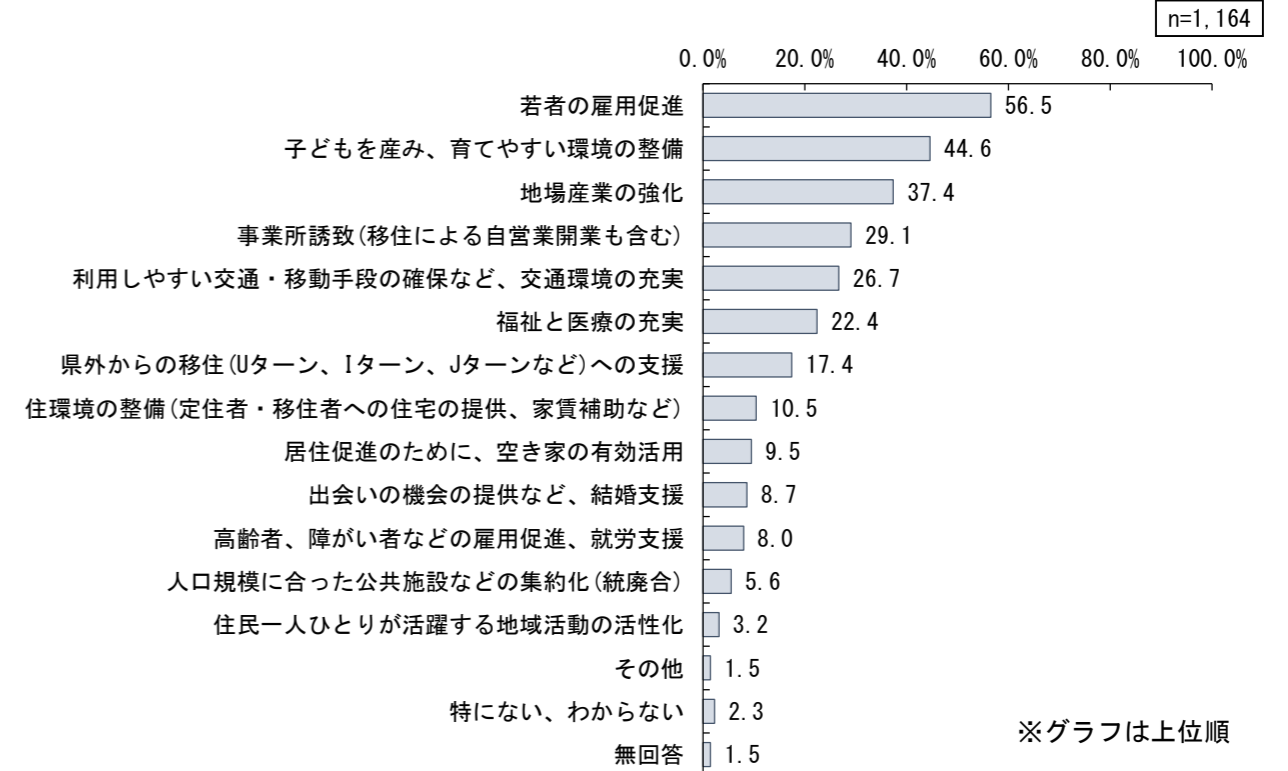
図表 人口が減少することにより感じる不安（年齢別：上位3項目）

	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	まちの労働力が低下する 61.9%	まちの活気が失われる 54.0%	地元での消費が落ち込む 50.8%
30歳代 (n=114)	まちの活気が失われる・まちの労働力が低下する ともに57.0%		医療や福祉等の施設がなくなる 48.2%
40歳代 (n=179)	まちの労働力が低下する 52.5%	まちの活気が失われる 50.8%	医療や福祉等の施設がなくなる 41.3%
50歳代 (n=217)	まちの活気が失われる 63.1%	まちの労働力が低下する 55.3%	医療や福祉等の施設がなくなる 44.7%
60歳代 (n=354)	まちの活気が失われる 67.2%	まちの労働力が低下する 46.3%	医療や福祉等の施設がなくなる 45.2%
70歳以上 (n=225)	まちの活気が失われる 72.0%	まちの労働力が低下する 44.9%	医療や福祉等の施設がなくなる 44.9%

■「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと

- ◎ 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なことでは、「若者の雇用促進」(56.5%)、「子どもを産み、育てやすい環境の整備」(44.6%)、「地場産業の強化」(37.4%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、前述のほか、10・20歳代では「利用しやすい交通・移動手段の確保など、交通環境の充実」、30歳代では「福祉と医療の充実」、40歳代では「事業所誘致」を上位に挙げています。

図表 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと



図表 「人口減少社会における取り組み」として特に重要なこと（年齢別：上位3項目）

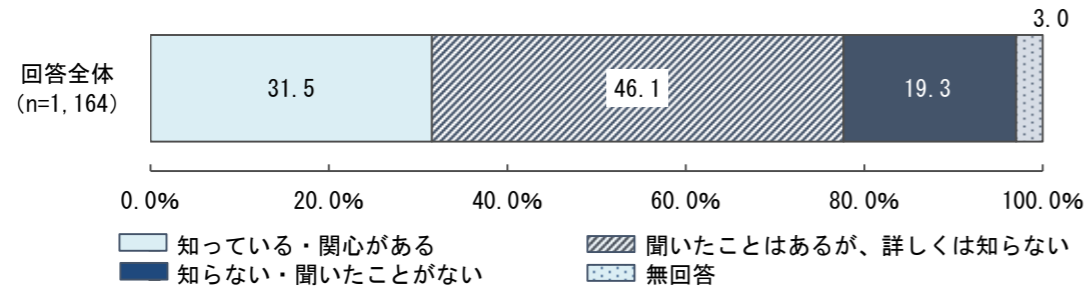
	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	若者の雇用促進・子どもを産み、育てやすい環境の整備 ともに52.4%	利用しやすい交通・移動手段の確保など、交通環境の充実 28.6%	
30歳代 (n=114)	子どもを産み、育てやすい環境の整備 66.7%	若者の雇用促進 58.8%	福祉と医療の充実 35.1%
40歳代 (n=179)	若者の雇用促進 51.4%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 45.8%	事業所誘致(移住による自営業開業も含む) 33.5%
50歳代 (n=217)	若者の雇用促進 55.3%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 39.2%	地場産業の強化 36.4%
60歳代 (n=354)	若者の雇用促進 58.8%	地場産業の強化 43.5%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 42.9%
70歳以上 (n=225)	若者の雇用促進 59.1%	地場産業の強化 47.1%	子どもを産み、育てやすい環境の整備 38.7%

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

■SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況

- ◎ SDGs（持続可能な開発目標）については、「知っている・関心がある」が31.5%、「聞いたことはあるが、詳しくは知らない」が46.1%、「知らない・聞いたことがない」が19.3%となっています。
- ◎ 「知っている・関心がある」割合を年齢別にみると、10・20歳代が44.4%に対し、70歳以上では20.9%となっているほか、「知らない・聞いたことがない」では10・20歳代が6.6%に対し、70歳以上では30.7%となっていることから、年齢層が高くなるほど認知度が低くなる傾向がみられます。

図表 SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況



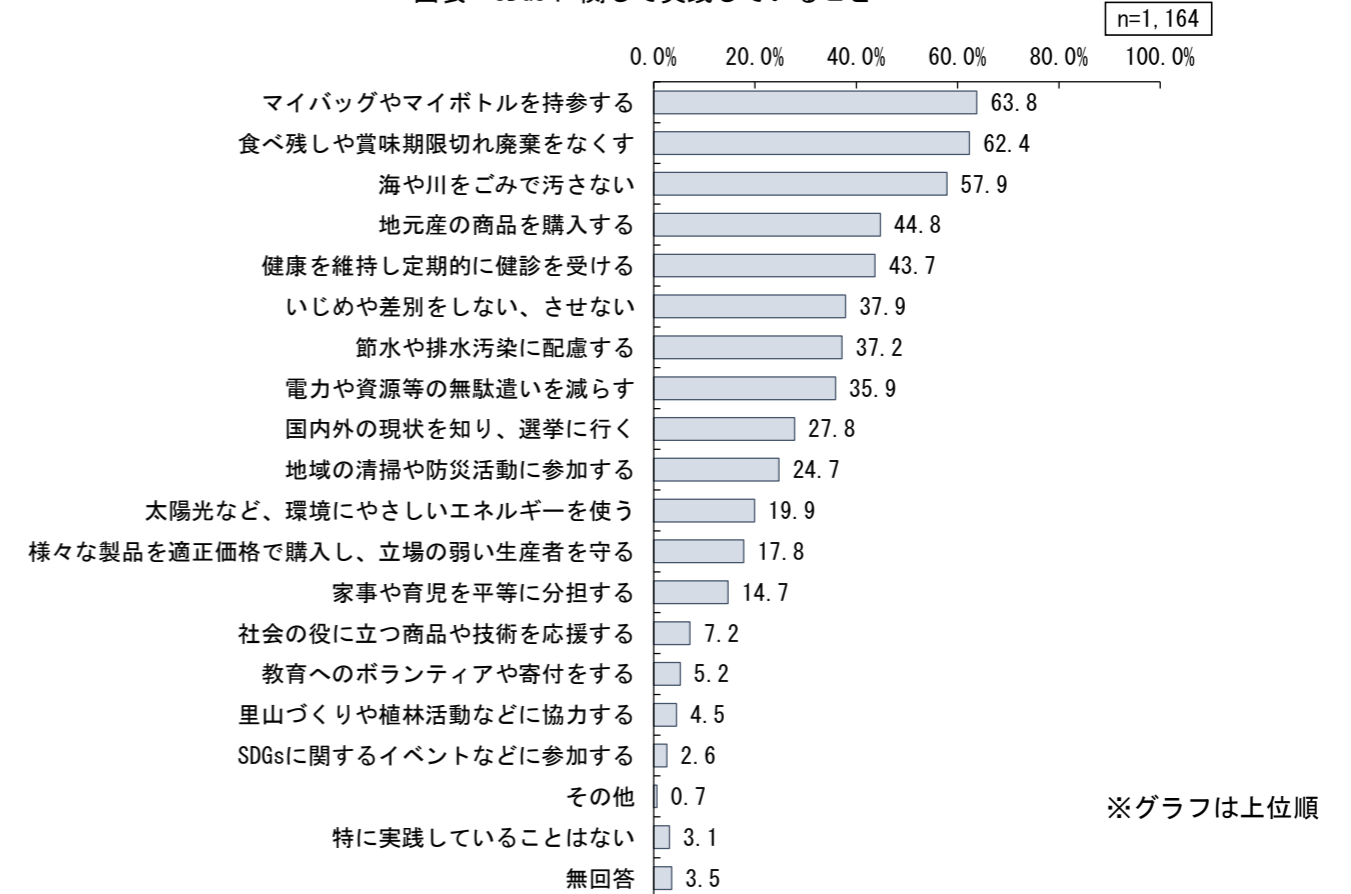
図表 SDGs（持続可能な開発目標）の認知状況（年齢別）

年齢別	知っている・関心がある	聞いたことはあるが、詳しくは知らない	知らない・聞いたことがない	無回答
10・20歳代 (n=63)	44.4%	42.9%	6.3%	6.3%
30歳代 (n=114)	37.7%	48.2%	12.3%	1.8%
40歳代 (n=179)	33.5%	48.6%	12.3%	5.6%
50歳代 (n=217)	36.4%	49.3%	13.4%	0.9%
60歳代 (n=354)	30.5%	43.2%	23.7%	2.5%
70歳以上 (n=225)	20.9%	45.3%	30.7%	3.1%

■SDGs（持続可能な開発目標）に関して実践していること

- ◎ SDGs（持続可能な開発目標）に関して実践していることでは、「マイバッグやマイボトルを持参する」(63.8%)、「食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす」(62.4%)、「海や川をゴミで汚さない」(57.9%)を上位に挙げており、年齢別でも同様の取り組みが上位に挙がっています。

図表 SDGsに関して実践していること



図表 SDGsに関して実践していること（年齢別：上位3項目）

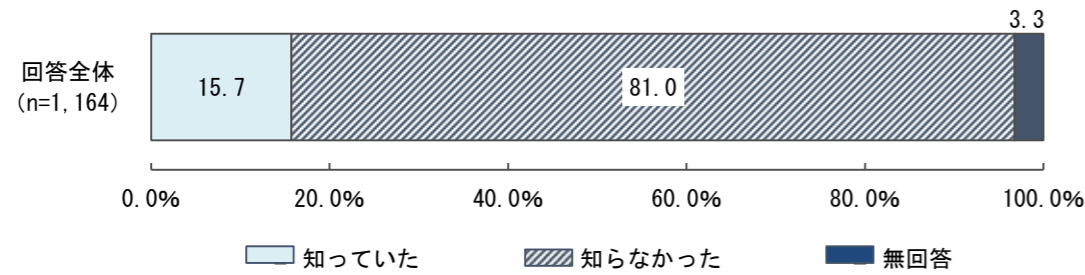
年齢別	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 73.0%	マイバッグやマイボトルを持参する 60.3%	海や川をゴミで汚さない 44.4%
30歳代 (n=114)	マイバッグやマイボトルを持参する 64.0%	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 63.2%	海や川をゴミで汚さない 57.9%
40歳代 (n=179)	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 62.6%	マイバッグやマイボトルを持参する 60.9%	海や川をゴミで汚さない 59.8%
50歳代 (n=217)	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 65.9%	マイバッグやマイボトルを持参する 64.5%	海や川をゴミで汚さない 53.0%
60歳代 (n=354)	マイバッグやマイボトルを持参する 64.4%	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 海や川をゴミで汚さない ともに61.3%	
70歳以上 (n=225)	マイバッグやマイボトルを持参する 66.2%	海や川をゴミで汚さない 58.7%	食べ残しや賞味期限切れ廃棄をなくす 56.9%

## 南島原市のこれからのまちづくりについて③：脱炭素社会への取り組みについて

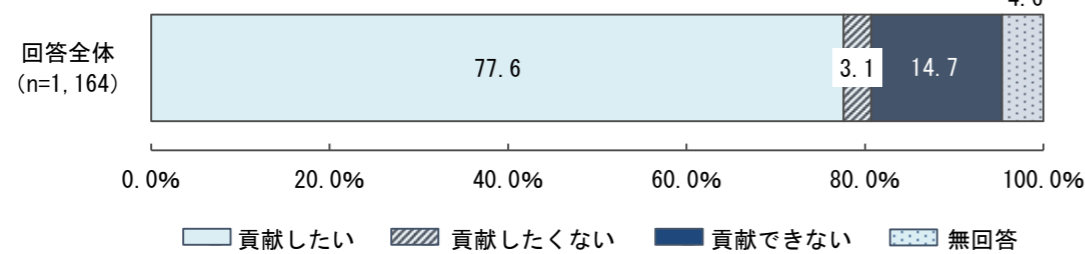
### ■「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況・脱炭素社会への貢献について

- ◎ 「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況について、「知っていた」は15.7%、「知らなかった」は81.0%となっており、未だ十分に周知されていない状況にあるとみられます。
- ◎ 脱炭素社会への貢献については、「貢献したい」が77.6%、「貢献したくない」が3.1%、「貢献できない」が14.7%となっており、年齢別にみても7~8割が「貢献したい」意向を示しています。

図表 「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況



図表 脱炭素社会への貢献について



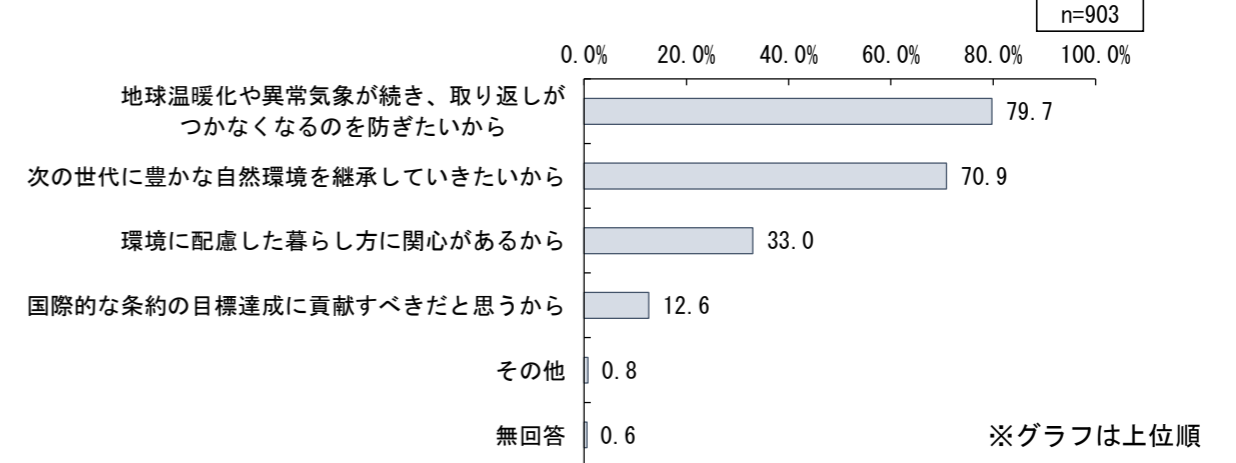
図表 脱炭素社会への貢献について（年齢別）

	貢献したい	貢献したくない	貢献できない	無回答
10・20 歳代 (n=63)	74.6%	4.8%	15.9%	4.8%
30 歳代 (n=114)	78.9%	2.6%	15.8%	2.6%
40 歳代 (n=179)	68.7%	6.1%	19.6%	5.6%
50 歳代 (n=217)	76.0%	4.6%	16.1%	3.2%
60 歳代 (n=354)	79.7%	2.3%	13.3%	4.8%
70 歳以上 (n=225)	84.0%	0.0%	10.7%	5.3%

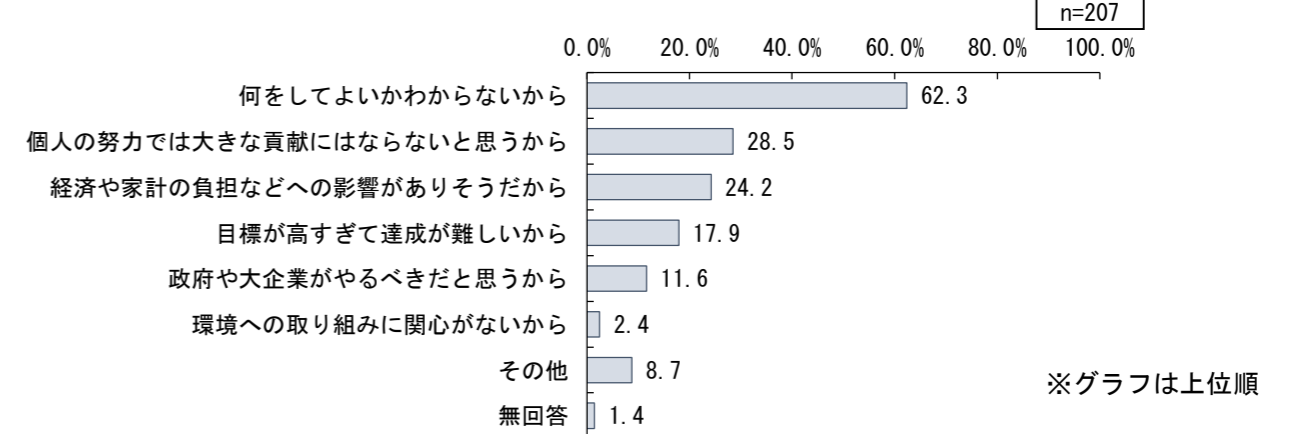
### ■脱炭素社会へ貢献したい理由・貢献できない理由について

- ◎ 脱炭素社会へ「貢献したい」と回答した方 (n=903) の貢献したい理由としては、「地球温暖化や異常気象が続き、取り返しがつかなくなるのを防ぎたいから」(79.7%)、貢献したくない、できない理由では、「何をしてもよいかわからないから」(62.3%)をそれぞれ最上位に挙げています。

図表 脱炭素社会へ貢献したい理由



図表 脱炭素社会へ貢献したくない、できない理由

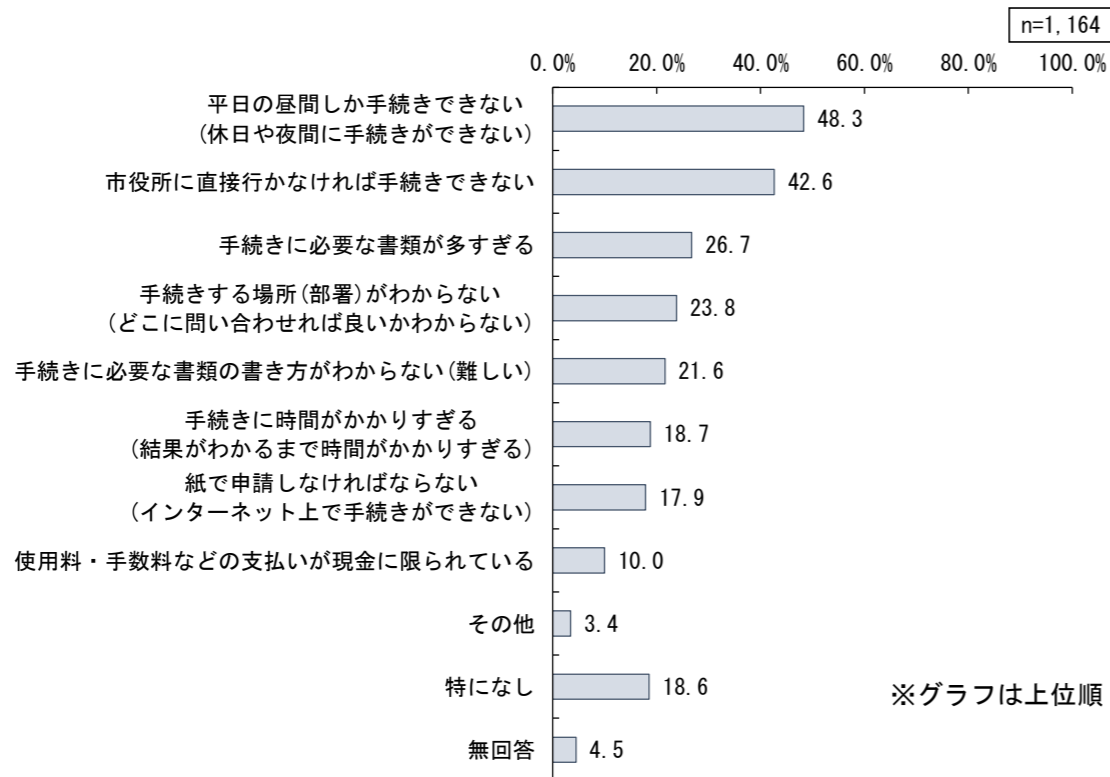


南島原市のこれからのまちづくりについて④：市のデジタル化推進について

■「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについて

- ◎ 「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについては、「平日の昼間しか手続きできない」(48.3%)、「市役所に直接行かなければ手続きできない」(42.6%)、「手続きに必要な書類が多すぎる」(26.7%)を上位に挙げています。
- ◎ 年齢別にみると、前述のほか、10・20歳代では「手続きする場所(部署)がわからない」、30歳代では「紙で申請しなければならない」、70歳以上では「手続きに必要な書類の書き方がわからない」を上位に挙げています。

図表 「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについて



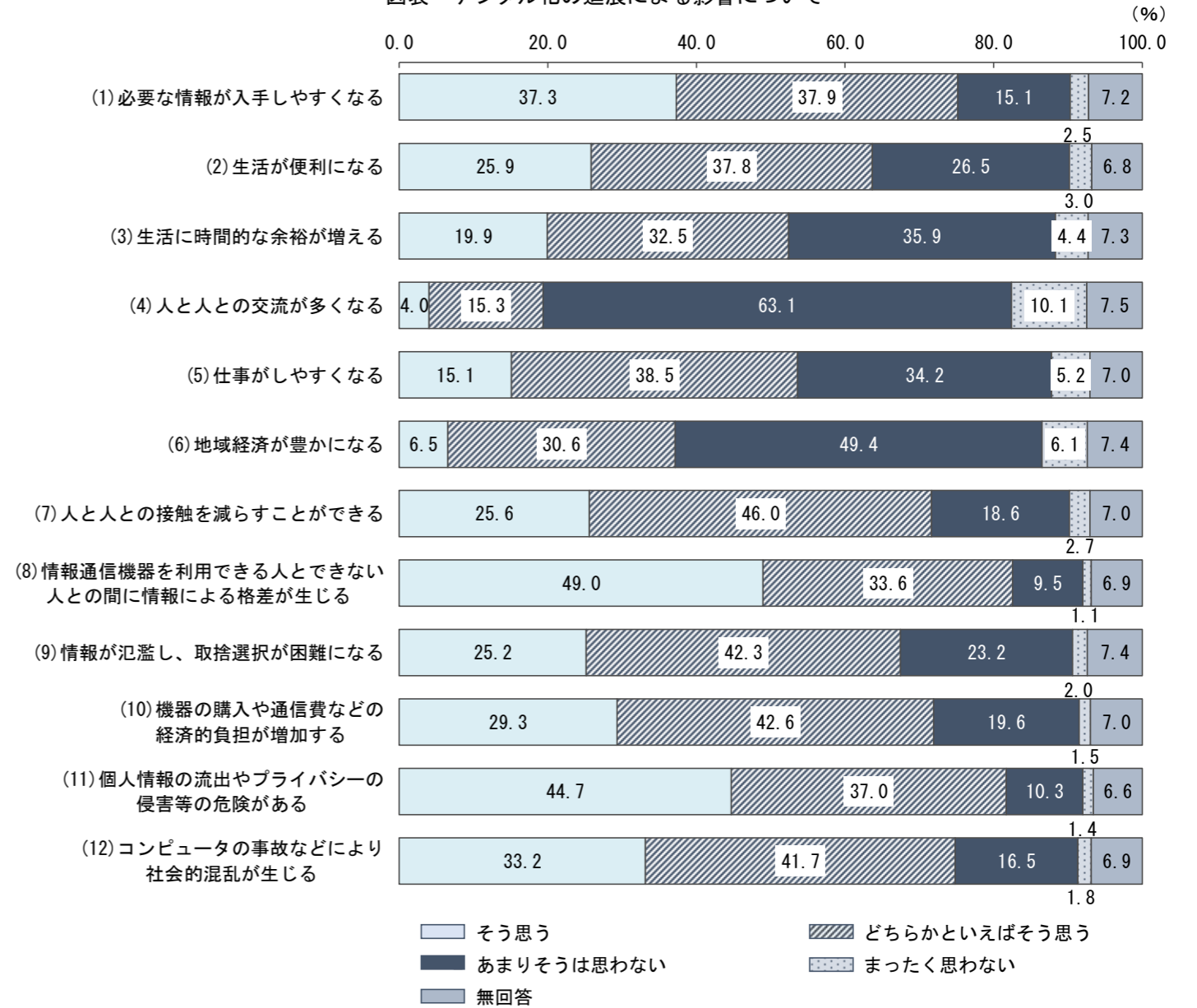
図表 「不便」「手間」「面倒」だと感じている手続きについて (年齢別：上位3項目)

年齢	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	平日の昼間しか手続きできない 63.5%	市役所に直接行かなければ手続きできない 47.6%	手続きする場所(部署)がわからない 31.7%
30歳代 (n=114)	平日の昼間しか手続きできない 59.6%	市役所に直接行かなければ手続きできない 55.3%	紙で申請しなければならない 34.2%
40歳代 (n=179)	平日の昼間しか手続きできない 58.1%	市役所に直接行かなければ手続きできない 46.9%	手続きに必要な書類が多すぎる 27.9%
50歳代 (n=217)	平日の昼間しか手続きできない 62.2%	市役所に直接行かなければ手続きできない 52.5%	手続きに必要な書類が多すぎる 28.1%
60歳代 (n=354)	平日の昼間しか手続きできない 43.8%	市役所に直接行かなければ手続きできない 39.5%	手続きに必要な書類が多すぎる 29.7%
70歳以上 (n=225)	市役所に直接行かなければ手続きできない 27.6%	平日の昼間しか手続きできない 23.6%	手続きに必要な書類の書き方がわからない 17.8%

■デジタル化の進展による影響について

- ◎ デジタル化の進展による影響について、「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」を合わせた、「影響がある」と回答があった内容として、「情報通信機器を利用できる人とできない人との間に情報による格差が生じる」(82.6%)、「個人情報の流出やプライバシーの侵害等の危険がある」(81.7%)、「必要な情報が入手しやすくなる」(75.2%)が上位に挙げられています。

図表 デジタル化の進展による影響について



※影響がある：「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」と回答した方

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

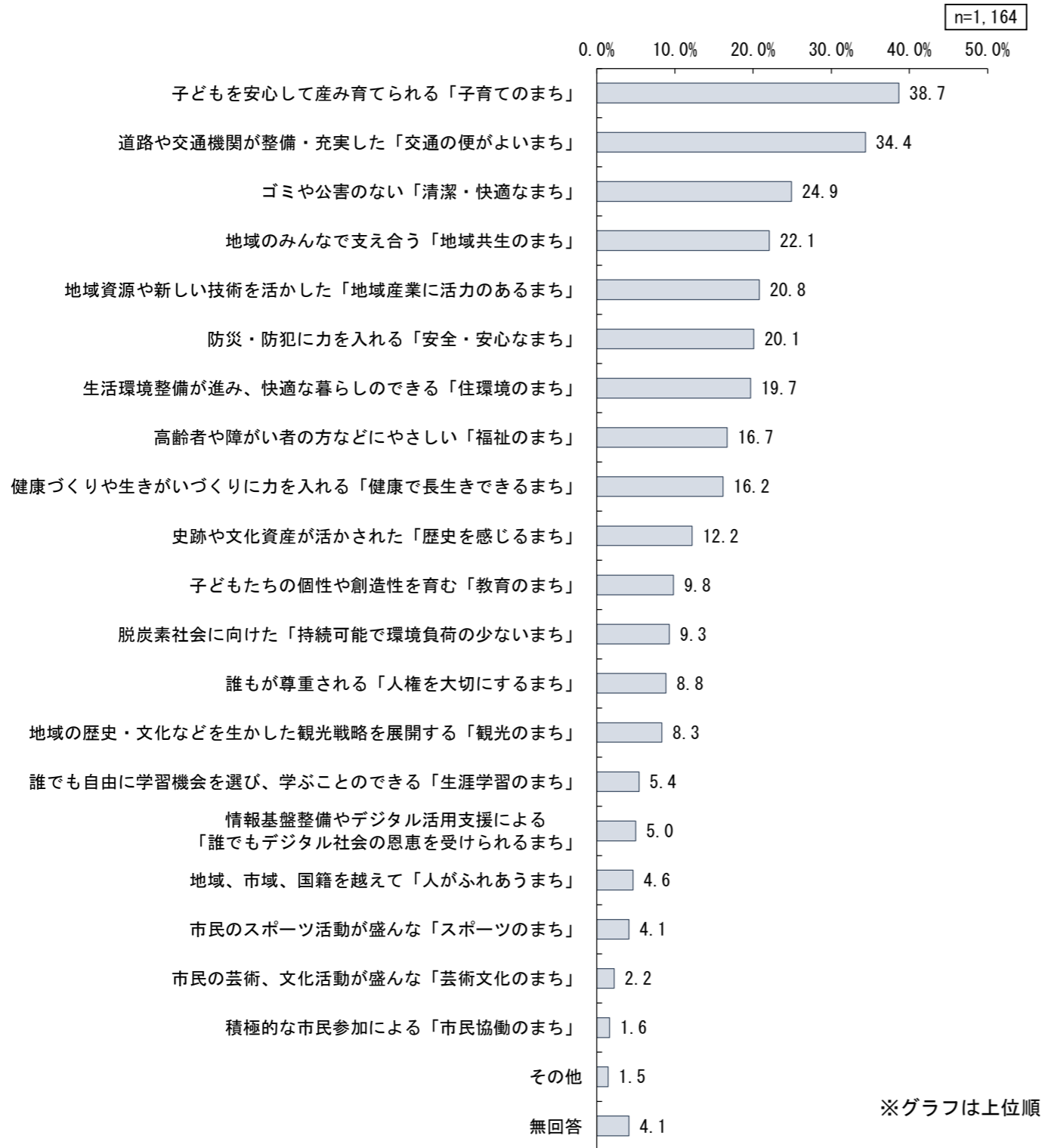
南島原市のこれからのまちづくりについて⑤：新たなまちづくりについて

■今後のまちづくりの方向性

◎ 今後のまちづくりの方向性としては、「子育てのまち」(38.7%)、「交通の便がよいまち」(34.4%)、「清潔・快適なまち」(24.9%)、「地域共生のまち」(22.1%)、「地域産業に活力のあるまち」(20.8%)を望む意向が上位に挙がっています。

◎ 上位3位までに挙がっている項目を年齢別にみると、10~40歳代では、「子育てのまち」、50歳代以上では、「交通の便がよいまち」を今後のまちづくりの方向性として最上位に挙げています。また、30歳代では、「地域共生のまち」を上位に挙げています。

図表 今後のまちづくりについて



図表 今後のまちづくりについて（年齢別：上位3項目）

年齢	第1位	第2位	第3位
10・20歳代 (n=63)	「子育てのまち」 33.3%	「清潔・快適なまち」 27.0%	「安全・安心なまち」 「交通の便がよいまち」 25.4%
30歳代 (n=114)	「子育てのまち」 64.0%	「教育のまち」 25.4%	「地域共生のまち」 「交通の便がよいまち」 24.6%
40歳代 (n=179)	「子育てのまち」 44.1%	「交通の便がよいまち」 29.1%	「清潔・快適なまち」 19.6%
50歳代 (n=217)	「交通の便がよいまち」 38.2%	「子育てのまち」 36.4%	「地域産業に活力のあるまち」 24.4%
60歳代 (n=354)	「交通の便がよいまち」 38.7%	「子育てのまち」 34.2%	「清潔・快適なまち」 28.5%
70歳以上 (n=225)	「交通の便がよいまち」 36.0%	「子育てのまち」 32.9%	「清潔・快適なまち」 30.7%

図表 今後のまちづくりについて意見・提案

テーマ	主な意見
子育てのまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雨の日に遊べるところもないので、休みの日（日曜日）はどこに行こうかいつも悩みます。(30歳代・女性)</li> <li>・空き家等を活用して出張販売所としてもらったり、子どもの遊びスペースを作ってもらえたら嬉しい。半島外のお店の物が手軽に買えたらありがたいし、公園以外の遊びスペースがあれば、子育て世代は助かります。(30歳代・女性)</li> <li>・幼い子どもが遊べる公園がない。島原や国見町・諫早まで行って遊び、外食も近くで済ませる、となると南島原市にファミリーによる経済は入って来ない。(60歳代・女性)</li> </ul>
交通の便がよいまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・買い物弱者の交通手段にバスが運行できないか？(60歳代・女性)</li> <li>・地域の巡回バスの実現。小学校のスクールバスの様な定期的な（乗降車時刻・場所）コミュニティバスの実現を目指してほしい。(50歳代・女性)</li> </ul>
清潔・快適なまち	<ul style="list-style-type: none"> <li>・耕作放棄地・空き家対策を早急にアイデアを考える。貸し農園の整備・南島産農・魚・特産市場など。(60歳代・女性)</li> <li>・空き家や道路など昔に比べどこも草が生い茂っている。市民清掃に参加を呼びかけていいのでは。(60歳代・女性)</li> <li>・道路脇を清潔に保つ事で、ゴミ投棄が少なくなればと思う。空き缶など、まとめて捨ててある所があり、清潔なまちづくり。(60歳代・女性)</li> </ul>
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>・結婚して南島原に来て孤独を感じる場合があります。そういう人たちの集いの場があると良いと思います。(40歳代・女性)</li> <li>・南島原の映えスポットはどこなんだろう。わざわざでも来たい場所を作ること出来ませんか？大津駅は黄色いハンカチで効果絶大。(40歳代・女性)</li> <li>・有家の浜、せっかくビーチを作っているのに、開放し、夏は他の市・県等からの観光客を集めてほしい。(40歳代・男性)</li> </ul>

※図表中のnは該当する設問の回答者数を表します。

南島原市のこれからのまちづくりについて⑥：南島原市に対する主な意見・要望①

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
10・20 歳代	男性	行政が身近に感じられず不透明。 Twitter 等を上手く活用し PR することで行政を若者にも身近な存在にする。行政側と市民の声を身近に感じられると思います。
10・20 歳代	男性	若い世代が大人になっても南島原で働きたいと思うまちづくりや、結婚や子育ての充実に向けて取り組んでほしいです。
10・20 歳代	男性	人口減少（特に若者）が進んでいるため、若者が留まる、戻ってくる為の施策（郷土愛を育む教育や魅力ある企業の創出など）が必要になると思います。
10・20 歳代	男性	「これからも住み続けたい住んでみたいまち」これを実現できれば自ずと人は集まってくるし、活気溢れる町になると思います。官民一体となって南島原市を盛り上げましょう。
10・20 歳代	女性	行事・祭りなどはこれからも続けて行ってほしい。 クーポン券の配布は助かっているので可能な限り続けてほしい。
10・20 歳代	女性	自然に恵まれた町と思うが何か特化したものを感じない。様々な事に取り組もうとしているのは分かるがどれも中途半端。
10・20 歳代	女性	子育てしやすい環境を作って行って欲しいです。子供を育てるお母さんお父さんの精神面を支えることを強化してほしいです。
10・20 歳代	—	農業や漁業支援に強いのは嬉しいけれど、飲食店や小売などの創業支援をもっと増やしてほしい。
30 歳代	男性	現在の子供世代が豊かに暮せる町づくりを望みます
30 歳代	男性	新しい道路は必要ないが、今ある道路のデコボコ等を補修・メンテをしてほしい。
30 歳代	男性	近くに海がある為、それを上手に利用した釣り場等の施設を作ることで、外から観光客も増え、高齢者の雇用にもつながる！
30 歳代	男性	とにかく道路交通基盤をしっかり整えてもらいたい。
30 歳代	女性	市民相談も、もっと幅広い年代が気兼ねなくできるように学校、病院、スーパー等で市への投書箱を置くとか。QR コードを読み取れば、簡単に関連部署へ提案できたら良いですね。
30 歳代	女性	子育て世代がこれからも安心して南島原市に暮らしていける生活環境や支援などが受けられなければ、子ども達が成長して働く様になった時に、地元で暮らせる暮らしたいと思ってもらえるまちになっているかもしれないなど、今の私は思っています。
30 歳代	女性	地域の為、地域活性化の為、手を貸す人と何もしない人のモチベーションが違いすぎる。したい人がやれば良いじゃなく、誰もがその為だったらやりたいと思う様な活動があれば良いなど。何をしたら良いか分からない人が多い。
30 歳代	女性	これからの未来を担う子育て世代や子ども達に優しい町になってほしいと思う。行政で受けられるサービスが増えれば他県から移り住んで来る人も増え活気が出ると思う。
30 歳代	女性	子どもの時から南島原の良さを伝えていける様な活動を出来たら良いと思います。
30 歳代	女性	今お金をかけるところを間違えば南島原市は廃れる。根本的に住みやすい街、魅力的な街にしてから PRしないと恥ずかしい。 こんなに自然が豊かで食材が美味しく子育てをする場所にもってこいな恵まれた土地なのに本当に勿体ない。 子育て教育、医療にお金を使い、それを PR したら人は増えると思う！ 自分が安心して暮らせる、子育てできる場所に人は住みたいと思うはずだから。 移住者の獲得にはそこを誰が見ても分かりやすく変えないと無理。 思い切った抜本的な改革が必要！
30 歳代	女性	プロモーションビデオや、アニメのコラボなど、南島原市って面白いなと思っています。コンテンツをみる度に、故郷の良いところを改めて感じます。愛着があるからこそ、住みにくさを感じながらも住んでいます。これからも、そのようなコンテンツが発信されると嬉しいです。産業が発展し、新たな産業が生まれ、雇用が増えて欲しいですし、高齢になっても短い時間でも働ける環境があって欲しいです。
30 歳代	女性	子育て支援をもっと充実してほしい。中学・高校まで手厚くしてほしい。

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
30 歳代	女性	健康づくりや生きがいづくりに力を入れることだと思います。
30 歳代	女性	高齢者や子どもたちへの支援も大事なことと思いますが、働き手への支援なども考えてほしいと思います。結婚されていて子どもがいる所には手当てが入ったりするが、働き手には何もないことが悲しい時もあります。
30 歳代	女性	南島原市の人口が少なくなならない様、若者が働きやすい安心して暮らせる市になって欲しい。
30 歳代	女性	高齢者の方が利用できる買い物タクシーのサービスはありますか？まだ見かけた事がないので…。
30 歳代	女性	山間部に住んでいる為、今後も住み続けたいが、交通やイノシシ問題等で不安がある。周りに沢山の畑があまっているので有効活用できたらと思う。
30 歳代	女性	世界遺産があるので観光客が来てくれるようなまちづくりをお願いしたいです。
30 歳代	女性	もう少し子ども達への給付やサービスが充実していれば若い人も増えるのでは？仕事や家の関係で地区の街頭指導は厳しいことがあります。保護者ではなく、地域の人をお願いしたい。
40 歳代	男性	適正な町、公平な町、切実になってほしい。
40 歳代	男性	ベーシックインカムを先進事例として導入して全国に先駆けて社会実験を行って欲しい。
40 歳代	男性	島原の乱があった場所であり、市内で最も有名なスポットなので、観光誘致等に力を注いで欲しい。真砂付近にミュージアム建設、お土産販売所を検討して欲しい。
40 歳代	男性	畑・道路の基盤整備をもっとたくさんして荒れている畑を無くしてほしい。
40 歳代	男性	医療・福祉・教育・子育てにやさしい町。
40 歳代	男性	維持費や借金返済が将来の負担になるような箱ものの新設をしないで欲しい。
40 歳代	男性	何年か市外で暮らしていましたが、南島原市がとても住みやすく地域の人もやさしくて良いです。
40 歳代	男性	自分のふるさとに誇りをもてるまちづくり。
40 歳代	男性	実現は困難であるが、ある場所に行けば大抵の用事（買い物・医療・行政手続き等）が済むようなコンパクトシティの整備を望みたい。
40 歳代	男性	島鉄線跡地を整備するのもいいが山手の道路維持管理などしっかりとやってほしい。
40 歳代	男性	高校以上の学校が無いのと一緒に、市外へ進学するしかなくなっています。通学費の全額補助してあげたら、教育を受けたい子ども達が助かると思いますよ。
40 歳代	男性	若い世代が住んでもらえる様に企業誘致をお願いします。
40 歳代	男性	少子化をどうにかして欲しい。スピード感を大事に他の市よりも率先して新しい事をして欲しい。
40 歳代	男性	人口減少は直で仕事する場所の減少につながると思います。この点を一番に考えるべきではないでしょうか。
40 歳代	男性	公共事業だけで街が活性化していくことはないので、他の地域にないくらいの優遇措置を取り入れ、企業誘致をする。そして民間資本を入れていけば街が発展していくと思う。
40 歳代	男性	老若男女全員が恩恵を受けることができる行政サービスに力を入れてほしい。老人だけ、子どもだけしか恩恵を受けられない施設に力を入れると、働く世代にとっては何らメリットがない（20代～50代にとっては税金をとられるだけで受けるものがない）ため住みたくない町になってしまう。
40 歳代	男性	もっととにかく人口を増やす活動。子育て世代をどんどん増やす→子ども医療費、小・中無償化！

南島原市のこれからのまちづくりについて⑥：南島原市に対する主な意見・要望②

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
40歳代	男性	人口は減るっぽうだ。どうにもできない。若い人、お金持ちを来てもらう様に自然を（海）活用すべきだ。とにかくアクセスが悪い。
40歳代	男性	保健・福祉・医療に関して、保健料など下げてほしい。福祉の充実、医療コロナ対策。
40歳代	男性	概ね、南島原市は良い所だと思います。欲張ればキリがありませんし。これからも時代の流れや財政面、ジェネレーションギャップ等、難しい問題は山積みだと思いますが、少しでも良くなる様に頑張ってもらいたいとおもいます。
40歳代	女性	最近ではMINA コインやTV・CM・映画他諸々。南島原ってなんかすごいと思う。PRすることによって注目されるし、人やお金が動く。頭のやわらかい若者たちを巻きこんでどんどん新しい風が吹けば良いと思う。
40歳代	女性	農業・漁業は盛んだが、これといった目玉になる事業が無く交通の便も良くないので、段々と衰退していくのではないかと危惧しています。
40歳代	女性	保健・福祉・医療が気軽に相談しやすい場所があれば良いと思う。
40歳代	女性	子どもたちが住み続けたいと思う環境づくりをしてほしいです。
40歳代	女性	南島原では地形的には交通の便も不便ではあるが、食べ物おいしい、自然豊か、たくさん良いところもあり、もっと県外の人にとって欲しい。今は無理だが民泊はすごく良い取り組みだと思っていた。
40歳代	女性	廃校した校舎・施設等の再生利用←宿泊施設とかにする。キャンプとかの流行により、キャンプをしたい人が増加中。新切小とか眺めが良いので、物件として最高だと思う。
40歳代	女性	ネット上やテレビなどでの市の広報活動に近隣の市と比べてお金をかけ過ぎていると感じる（→その効果が感じられない）CM や動画制作で賞をもらうより、高齢者や障害者が住みやすい環境及び若い子育て世代の家族を増やすために税金を使ってほしい。健康診断によって得られるポイント制度の導入について。健康診断の促進よりも、そもそも病気や介護で状態になりにくくする為の予防周知に力を入れていただきたい（鳥鉄線路跡のサイクリングロード整備をウォーキング・ランニング等もしやすい様に整備するなど・・・ウォーキングした距離に応じてポイントが付くなど）。
40歳代	女性	南島原・島原・雲仙の国道を使い、年1のペースでツールド島半を開催して欲しい。世界大会に出来たらいいな。
40歳代	女性	人口減少が加速しない様に市外・県外からの移住者・Uターン希望の方が増えるよう、南島原の魅力为全国へ発信・アピールする力が必要なのは。
40歳代	女性	自然豊かで今のところ大きな災害もなく、住みやすい町だと思います。次世代を担う若者が一時的に市外に移り住んだとしても、また戻りたいと思える南島原市であってほしいと思います。
40歳代	女性	陸の孤島を解決してほしい
40歳代	女性	過疎化が進み、不安を感じています。大規模企業などを誘致し就職（若者）が出来る環境が欲しいです。
40歳代	女性	市で動物の保護施設は作れないだろうか？長崎市で子猫のをゴミステーションに捨てて死なせたニュースがあったり、長崎県が動物殺処分ワースト1とか、動物にやさしい県・市になれないのかな？
40歳代	女性	外からの移住者も人口減少対策としてはいるのですが、地元の将来性のある子ども達をもっと地元で活用してほしい（移住者に頼る、地元の若者を頼れ、宝です）。子どもが帰ってきたくなる制度をしてほしい（1ターン・Uターン重視、大学で他県へ行った優秀な子ども達が沢山います）。
40歳代	女性	観光で来なくなる町づくりにしてほしい。他県から来た時に遠いと思わないで移動できる道路が欲しい。
40歳代	女性	お年寄り子どもに優しい南島原市であってほしい。お年寄り夫婦（ある程度自分の身の回りの事が出来るお年寄り夫婦）が入居できる（安価で）施設。共同のホームがあると嬉しいです。
40歳代	女性	休日の病院、受け入れを強化してほしいです。

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
40歳代	女性	チョイソコは楽しみにしている。雲仙市でも走っているようです。今後、充実したサービスとなることを願います。いろいろな取り組みを全国や近隣から情報を得て、ヒントにして新しいまちづくりをしてほしい。このようなアンケートも良い方法だと思います。
50歳代	男性	短時間でも時給の高い職場、南島原市で入籍住所登録したら、お祝い、出産したらお祝いとかあれば住み続けるかも。新鮮な食材・肉・魚、何もかもおいしい。恵まれた食生活、都会の人からはうらやましい事、そんなブランド南島原をもっと活かしてほしい。子どもたちの笑い声が聞こえる明るい町へ。
50歳代	男性	少子高齢化が進む中、それぞれの年齢層でやりがいや生きがいが見い出される。そして共に協働し主体的にまちづくりに参画できるよう、様々な意見を聞き吸い上げられる市行政を今後も更に推進していただきたい。
50歳代	男性	市に何をやってもらうかではなく、自分が何をやれるかを皆で考えるべき。
50歳代	男性	やっぱり、安定した収入が得られる仕事がないため、若い人たちが地元に残りたいと思えるように、産業や観光資源の活性化を目指してほしいと思います
50歳代	男性	自然との調和は今のままで！福岡県糸島市などをモデルにしてはどうか！（自然とグルメとマリンスポーツを）。
50歳代	男性	若者の雇用の拡大の取り組み。ふるさとへの愛着と誇りを持てる市。生まれ育った若者が帰って来れるような取り組み。
50歳代	男性	南島原市は農業が主で農地の整備が少ないので、もう少し力を入れてほしい。
50歳代	男性	魅力ある田舎にしてほしい。
50歳代	男性	子育て世代や老人に対する保護も必要だと思うが、現役で働いている人に対して、もっとがんばって働けるような特別な手当が欲しい。
50歳代	男性	住民が生きがいを感じるような住民参加型行政の推進。
50歳代	男性	今ある道をどうにかしてほしい！川の掃除をしてほしい！水害でこわい！
50歳代	男性	温泉・水（公園を作る・流しそうめんの場を作る）をアピールして都会の友達を呼べるように計画して欲しい。
50歳代	男性	今後財政は厳しくなると思うので、必要ない工事などは無くしてほしいです。
50歳代	男性	間違った歴史教育をしない。日本人として誇りの持てる教育を子ども達にしてもらいたい。
50歳代	男性	住みやすい市、活気ある市、働き場たくさんある市。
50歳代	男性	若者が市内に残れるように、企業への保障など、雇用機会の拡充・創出を達成して欲しい。
50歳代	男性	生活に不便な事が多過ぎます！空き家も多くなって道が狭い所は再開発して欲しいです。
50歳代	男性	小さなスポーツ施設は町々にはあるが、市の総合スポーツ公園等をつくり、スポーツ面からも町の発展を考えてもらいたい。
50歳代	女性	高齢者の運転（車の）でよく危ない場面を目にする（はみ出し・割り込み・逆走・信号無視・ふらつき等）どうにかしないと、こっちが事故に巻き込まれそうだと思う。
50歳代	女性	少子化で若年人口が減少する中、消滅可能性都市になっている南島原市、子育て支援に加えて「高齢者がいきいきと仕事をし、暮らす市」としての対策があって、町づくりが出来たらと思います。輝いているシニアがいると若者も住み続けたいと思ってもらえないでしょうか・・・。
50歳代	女性	最終的には、やはり人と人とのつながりが大切になってくると思います。それは、市にお願いするというよりも個人でしっかり考えていかなくてはいけませんよね。でも、団地に住んでいると、入れ替わりも多く隣近所の付き合いも少なく淋しい限りです。

南島原市のこれからのまちづくりについて⑥：南島原市に対する主な意見・要望③

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
50 歳代	女性	子どもたち、保護者さんの心の教育
50 歳代	女性	人口を増やすには企業誘致に力を入れ、若者の求職意欲を掴むべきと考えます。
50 歳代	女性	自然環境の保全・整備の充実。安心してかかれる医療施設の充実。花・木・緑化の増進。子どもから高齢者が安心して暮らせるまちづくり。
50 歳代	女性	市の PR に力を入れている事を感じます。ただ、それに見合う資源が少ない気がします。
50 歳代	女性	誰もが生きがい・やりがいを持って生活できる様、雇用・活動創出をお願いしたい。
50 歳代	女性	とにかく子育てがしやすい街づくり。安心して暮らせる街づくりをして欲しい。
50 歳代	女性	食育は、大切であるので、子ども食堂などで、支援したり、高齢者の食事等の支援もされると、支援活動をする側もやりがいがあり、支援される側も心が安定してくると思います。
50 歳代	女性	若い人達の職場が増えること。安心して子育てできる環境が整えられると、自然と高齢者も穏やかに暮らせる町になるのではと思う。
50 歳代	女性	移動手段が車以外になると買い物などとても不便になるので他に使える手段が欲しいです。
50 歳代	女性	スマホでいろんなことができる世の中になっているので、市民が便利になるように積極的に新しいことを取り入れてほしいと思います
50 歳代	女性	南島原市の魅力的な所（海がきれい、魚野菜地元の特産でおいしい等）をもっと県外に PR すべきです。人が集まれば働く所お店も増え、住みやすい町になっていくと思います。
50 歳代	女性	働き口の誘致に努めて少しでも南島原市で生活する人を増やしていく事が必要であると思う。
50 歳代	女性	高校を卒業すると、ほとんどの人が市を出て行くので、若い人が働くことができる企業や工場を誘致してほしい。
50 歳代	女性	子育てしやすい環境が、一度市外へ行っても帰って来なくなる街になるのでは。
60 歳代	男性	年々農地が荒れはてている所が目立つようになってきた様気がします。基盤整備も進行中ですが、基盤整備完了後、どれだけそこを活用できる農家がいるかというのも不安な所です。若者が農業を選択肢の一つとして思えるような魅力ある農業への助成にも大いに取り組んでいただきたい。
60 歳代	男性	コミュニティバスは利用しやすい、便利なものにしてほしい。
60 歳代	男性	交通の便利を良くして活気ある町にして欲しいです（公園も少ないです。木が多いので道路沿いの木は切って欲しいです）。
60 歳代	男性	子ども（今から生まれてくる子ども）が安心して育てていける南島原市であって欲しい。子どもが増えないと色んな所に支障をきたすと思う。また、高齢者にも優しい市であって欲しい。26~27 年後は人口も 1 億人を切ってしまうと思われるので、子どもは我国の宝。
60 歳代	男性	人口減少に歯止めを。子育て世代にもっと金をかける。
60 歳代	男性	医療の充実に関心がある。医療の充実に関心がある。
60 歳代	男性	市の人口減に歯止めを。農業後継者の単身が多くみられるが、結婚しない事には人口も増えないし農業もすたれていく。広く外国の女性、日本全国に PR し婚活したらどうか、国際交流にもなる。
60 歳代	男性	旧島鉄跡にサイクリングロードが造られているが、計画通り進んでいるとは思えない。長引けば長引く程、お金がかかる。中には税金の無駄遣いという声も上がっている。
60 歳代	男性	第一次産業の活性化の為に補助金の拡大を望みます（規模拡大）。
60 歳代	男性	古い家屋の処分に関する補助。

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
60 歳代	男性	成人した子どもは、みんな都会へ出たがる。帰ってきたい、魅力ある南島原市にして欲しい。
60 歳代	男性	素晴らしい自然環境があるにもかかわらず生かされてないのは、大変残念である。他県などにはない魅力を、もっと利用してほしい。
60 歳代	男性	現在、空き家が目立ちます。誰も住んでいない家は、庭など草が生えてよくありません。若い人達を南島原市に移住をさせて移住した人には 5 万円でも 10 万円でも礼をする様な事を…。人口を増やして 6 万人程の南島原市にする。
60 歳代	男性	南蛮船来港の地の池地の草ボーボを春にレンゲ草を一面植え、花咲かせる事出来ませんか。もともとレンゲ草の一面きれいな田んぼでしたから。
60 歳代	男性	まだ使える家電・家財・衣料などリサイクルして地域の方へ提供する取り組み。
60 歳代	男性	高齢者が多いところですね。子供を見かけることがない、若い方がますます住みにくい町・市になって行くと感じる。私どもの子供も帰ってこないでしょうネ！
60 歳代	男性	傷んだ市道の補修に何年もかかっている。身近かな生活道路から優先的に予算をつけてほしい。これが住みやすい町の第一歩と思う。
60 歳代	男性	急激な人口減少が、衰退の原因だと思う。コンパクトシティ化していく方向で、市民の理解をまず図ることが大切だと思う。
60 歳代	女性	史跡や文化遺産をめぐる市内マップを充実し、自転車道・歩道でめぐるまちめぐりなど。健康イベントにもつながると良いと思う。
60 歳代	女性	海・山・水・自然・食べ物・人、素晴らしい財産だと思う。ここで仕事をし、生活しやすい環境がずっと続いていけば良いと思う。
60 歳代	女性	島原の市役所は日曜日は半日開いているので、南島原市も日曜日半日開けるか、週一回夜 7:00 まで開けてほしい!!
60 歳代	女性	海側に行政・商業・教育が有り、山側の開発もしてほしい。
60 歳代	女性	芸能人を使った PR 動画やアニメは税金のムダだと思う。孫が遊びに来て遊びに連れて行く所が無い。百花台公園規模の公園がほしい。表石自然公園をもっと整備しては? 鮎帰りの滝や瀬崎崎灯台・アコウ群落への道路などもっと整備して、入り口や道案内など分かりやすく。駐車場も整備して。
60 歳代	女性	1 人で生活するのに車で移動できる年齢であれば良いが、高齢になり施設に入れば良いが入れないと生活事態不能になるのでなるのではないかな。週 1 回買い物バスなどあれば心強いですね。
60 歳代	女性	山手に住む高齢者・免許返納者の足となる何かを考えてほしい。
60 歳代	女性	各町に対して配慮はいいと思いますが、行政機関がちりばりすぎではないでしょうか？ 思いきりが必要では。
60 歳代	女性	とにかく娘や息子が帰ってこれる仕事を充実させてほしい。地元に戻りたいと思っている人たちも多いが仕事がない。
60 歳代	女性	日々の生活にはさほど不便は感じていないが、将来を考えた時、交通の不便さ（諫早インターまで 1 時間以上）、山の幸・海の幸を活かす若い人の雇用等、住みたい住み続けたいと思える環境造りを望みます。
60 歳代	女性	空き住宅がすごく増えているので、もっと活用できる設備に建て替えたり、空き地が草や雑草になっている所が増えているので少しでもきれいな町にしたいですね。
60 歳代	女性	サービス業の方々がもう少しお客様の立場に立て、接客・商品等に努力されれば良い町になりそう。現状維持で進歩がない店が多い。お金を使いたくなる様な店がほしい（ワクワク感ない）。
60 歳代	女性	タクシー券の増額。乗り合いコミュニティバス（病院・買い物）。
60 歳代	女性	いろいろな所を歩いていると公園をいくつも見掛けます。活用されていないのが残念です。都会から来る人は羨ましい所でもあるみたいです。
60 歳代	女性	今のままで暮らしていける。でも、先立つものは予算、お金ですよ。ウクライナに比べればましです。



南島原市のこれからのまちづくりについて⑥：南島原市に対する主な意見・要望④

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
60歳代	女性	他県の人に南島原市って何がある？って聞かれ？？他県の人「そうめん」しか印象がないと言われました。南島原市と言えば〇〇と言える場所を！遊べて・食べて、ゆっくり出来る目玉的！場所。
60歳代	女性	南島原市は農業が主な産業だと思うが、今は若い人たちが少ないので、農業を元気に観光を元気にしてほしい。
60歳代	女性	海岸をきれいに。
60歳代	女性	今、一番利用されてるのは真砂だと思います。他県からも沢山来られるし、以外と評判も良いし…客の意見取り入れてもっと楽しめる施設にして欲しいです。
60歳代	女性	山・海があり、自然の宝物が溢れているのですが、空港・高速道路が遠いので企業もこないし、若い人が出ていくのは仕方ない。と諦めの気持ちがあります。何と云ってもまっすぐな道路が通って交通アクセスが良くならないと心から思います。
60歳代	女性	高齢者が多くなる中、デイサービスとか行く前の人達が体調維持のための場所が欲しい。
60歳代	女性	南島原市は農業が主な産業だと思うが、今は若い人たちが少ないので、農業を元気に観光を元気にしてほしい。
60歳代	女性	地場産業の活性化を図りつつ、県外からの移住者の促進。これ以上市の人口が減らないように、労働人口が減らないように、子どもの数が増えますように。
60歳代	女性	南島原市が歴史的にもっているものを、もっと身近に考え、そしてどこにもない自然を利用してほしいです。
60歳代	女性	市の高齢化が進んでいる中、もっと買い物や病院と行く事が困難になると思う人が多数出ると思います。その点を深く考えてほしいです。
60歳代	女性	南島原に温水プールを作ってほしいです。
60歳代	女性	子どもが育たないと将来がないと思うので、教育に力を入れて、能力のある子どもを育て、大人になって地元で働ける環境を作って欲しい。
60歳代	女性	老後の介護支援のことが一番心配。現在の介護支援が充実していない。困っている老人が多い。
60歳代	女性	観光客による収入増は見込めないでしょうか。県外からの観光客が立ち寄り易い場所に充実した土産品・食事処・宿泊所を設け、当市にお金を落としてもらおう。当市を観光後、宿泊・土産は他市となるのはもったいないと思っています。
60歳代	女性	若者が地元で働ける様に企業を誘致してほしい。
60歳代	女性	地域産業を生かし、何か若い人達が働ける所があると良いと思います。大きな企業が入ってくれたり、人口が少なくなるような活気がある、心に優しいまちづくりにしてほしいと思います。
60歳代	-	南島原市は地理的に不便な所なので、不便を売りにメッセージを発信したらどうか？不便＝ゆとり・自然・心の豊かさ等。
70歳以上	男性	人口の維持を目指すべき。農業・漁業の一次産業の所得向上の施策を行い、後継者の育成を目指すべき。
70歳以上	男性	高齢者の買い物等の支援。公平・公正な支援。
70歳以上	男性	今は70歳免許証がありますが、返納してからが足が無いので困るので、何か対策法をお願い致します。
70歳以上	男性	自治会活動への支援。
70歳以上	男性	兎に角、町の基幹産業（製麺業・農業等）復興無くしては人口増は有り得ない。先ずは基幹産業と道路事情を良くして欲しい（経費がかかるが！）。
70歳以上	男性	都会に出た子どもが、親を見る為帰って来た時、安心して暮らせる仕事があると良い。
70歳以上	男性	車をもっていない人の為に交通の便を良くしてほしい。

図表 南島原市に対する主な意見・要望

年齢	性別	自由意見
70歳以上	男性	ジャガイモ・タマネギ以外の特産品の開発が急務である。その上で、豊かな自然を市民あわせて守り、清潔なまちづくりに取り組んで、全国に誇れる町を目指してもらいたい。
70歳以上	女性	広い空き地はいっぱい有るので、若者の働ける場所、上場会社を含めて欲しいです。そしたら人口も増えると思う。
70歳以上	女性	高齢者になるとデジタルに弱くなります。その指導をお願いしたいです。現在は後継者不足で、どの家庭にも悩みがあります。問題も起こります。核家族になり独居老人も増えます。この対策を考えてもらいたいです。
70歳以上	女性	車が無いと本当に不便な所だと思います。行動範囲が狭くなってしまいそうです。年寄りに優しいまちづくりをお願いしたいと思います。
70歳以上	女性	島原市と良く往来する南島原市を比較してみると、我が市は環境の整った美しい町並みが不足している。
70歳以上	女性	これから高齢化が進み免許証を返納したら出掛ける機会を無くしてしまう。買い物・病院等に行ける方法を考えて欲しい。
70歳以上	女性	小規模圃場整備をすすめてもらいたい。
70歳以上	女性	若者が働く場所を増やせば人口減少も少しは解消できるかも知れない。農業の6次産業化をもっと進め、稼ぐ農家になれる様、市はサポートすべき。
70歳以上	女性	老人の町へ変化しつつあり、病院とか買い物しやすい町作り。
70歳以上	女性	子どもを安心して生み育てられる環境に力を入れてほしい。
70歳以上	女性	大村空港に短時間でいける高速道路を作ってもらいたい。自動車道路は不要だったと思う。
70歳以上	女性	コミュニティバス運用が早くしてほしい。
70歳以上	女性	若い人が少なく、周りは高齢者ばかりで先が不安ですので、高齢者施設があれば（安く入れる）。
70歳以上	女性	農業や漁業に皆がふれあい、他県からも行きたいと思わせる施設があると良い。
70歳以上	女性	高齢者になって移住しています。地域に迷惑をかけたりせず生活していこうと思っています。現在は不自由もあるが、自由だと感じています。時間がゆっくり流れています。
70歳以上	女性	人口に対しての生活、やらなくて良い事が多すぎる様な気がします。道路もあまり利用しない所まで作って、その道路に対して、どれだけの人が利用するのか、便利になるのも良いけど。
70歳以上	女性	（交通の利便性）病院に通院するにも1時17分に一本のバスで、とても不便です。（チョイソコ）良い取り組みですが、又、路線バスがなくなっても困ります。
70歳以上	女性	県内外から観光など何でも来たいと思うような所があったら良いと思います。市民が活気付くようなまちづくりを期待しています。
70歳以上	-	若い方々が働く環境作り、子育て支援、未来の子ども達に託せる住みよい町作り。それをもって市の活性化も実現されるのでは？
-	-	産業面・教育面・文化面にしてみても沢山の財産があるのに、それがうまく運営されておらず、宣伝力に欠けると思われます。道の駅を作ったり、誘致力をもっとうまくして観光業にも力を注いでいただきたい。
-	-	医療体制強化を。重傷者は島原市まで行かねばならない。

## 本市のまちづくりの主な課題について

### 時代潮流と求められる取り組み

- 人口減少社会の進行・長寿社会・人生100年時代の到来  
⇒今後の人口減少や世帯構造の変化がもたらす課題への対応 等  
⇒高齢者が活躍できる機会や場の形成、生きがいづくり 等
- 少子化への対応・子どもを安心して産み育てる環境づくり  
⇒妊娠から子育てまで切れ目のない支援、子育てしやすい環境づくり 等
- SDGs（持続可能な開発目標）に関する取り組みの展開  
⇒SDGsの理念「持続可能でよりよい社会の実現を目指す」ことを踏まえたまちづくりの推進
- 産業構造・地域経済環境の変化  
⇒担い手や後継者の育成、地域産品のブランド化・知名度向上、外部人材の活用 等
- 国土強靱化・安全安心に対する関心の高まり  
⇒防災・減災対策の強化、消費生活トラブル対応、防犯・交通安全活動の推進 等
- 多様性を受け入れる社会の形成  
⇒市民一人ひとりの個性と能力が発揮できる社会、多文化共生社会の構築 等
- 脱炭素・循環型社会への対応  
⇒脱炭素社会に向けた市民一人ひとりの行動、ゼロカーボンシティ宣言に基づく取組 有機農業の推進 等
- デジタル社会への対応  
⇒高度情報社会に対応した基盤の整備、情報格差（デジタルバイド）の解消  
⇒デジタル技術やビッグデータを活用した行政サービスの向上や事務の効率化
- コロナ禍などVUCA時代に対応した地域づくりや行財政運営  
⇒社会の様々な変容に対応できる持続可能な地域づくりや行財政運営の推進 等

### 地域の特性・まちづくりの方向性

- 人口減少、新型コロナウイルスの影響等による暮らし、厳しい財政状況、地域経済、将来への不安、先行きの不透明感の顕在化  
⇒人口減少、少子化を前提とした持続可能なまちづくりへの転換  
⇒就職や進学による若い世代の都市部への流出抑制
- 地域経済の活性化や市民所得の向上  
⇒地域経済の回復につながる地場産業振興や企業誘致等の強化と、それによる若者世代の雇用確保。
- 暮らしやすい、住み続けられる生活環境の形成  
⇒道路整備や交通環境等、慢性的な地域課題の克服  
⇒人生を楽しみながら自分らしく暮らすための健康づくり  
⇒子育て環境、医療体制、高齢者が住み慣れた地域で住み続けられる支援体制等の充実
- 世界遺産をはじめ、市内の自然の豊かさ、歴史や文化、そうめんをはじめとする産業・地域経済基盤など、培われてきた地域資源の継承  
⇒地域に対する愛着の醸成や、地域資源の魅力向上、磨き上げによる市の認知度向上、観光資源としての活用による地域活力の創出
- SDGs（持続可能な開発目標）やゼロカーボンシティ宣言など、新たな動き  
⇒環境負荷の低減、限りある資源を有効に活用する持続可能な社会の構築
- デジタル化による効率化・産業の創発  
⇒デジタル化による行政サービスの効率化、新たなサービスの創発  
⇒新たな技術の活用による産業振興  
⇒ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた暮らしやすさの追求、都市から地方への人の流れの促進

### アンケート調査による意向

- 暮らしやすさ：  
⇒64.9%（平成29年度より2.5ポイント減）
- 定住意向：「ずっと住みたい/住み続けることができる」  
⇒68.8%（平成28年度より1.4ポイント減）
- 市民幸福度：  
⇒6.62点（平成28年度より0.04ポイント減）
- 将来への不安  
・「自分の健康」（50.5%）、「収入・家計」（45.8%）、「家族の健康」（40.7%）が上位。⇒健康や家計への不安の増大
- ふだんの暮らしで感じることや取り組んでいること  
・上位項目：“あてまる”  
「市内の自然の豊かさは地域の財産であると感じる」、「家族や友人、周囲の人などと、支え合いながら暮らしている」、「地元産の農水産物等をよく食べている」  
・下位項目：“あてはまらない”  
「交通の便がよく、日常生活での移動に不便を感じることはない」、「地域が元気で、産業に活力がある」、「市外から人が訪れたいくなる様々な魅力がある」
- 施策の満足度  
・多くの施策で満足度が減少。  
・最重要施策（満足度が低く、重要度の高い取り組み）  
「公園緑地・子どもの遊び場の整備」  
「市内の道路網、道路整備」「市内の公共交通の本数、路線」  
「農林業の振興」「市内での雇用機会の拡充・創出」  
「夜間・休日などの救急医療体制」  
「行財政の適正な運営」 等
- 人口減少への不安  
・「まちの活気が失われる」、「まちの労働力が低下する」ことを各年齢層で上位に挙げているほか、10・20歳代では「地元での消費が落ち込む」、30歳代以上では「医療や福祉等の施設がなくなる」ことを上位に挙げている。
- 脱炭素社会への取り組み  
・「南島原市ゼロカーボンシティ宣言」の認知状況について「知らなかった」が81.0%を占めている一方、各年齢層で「貢献したい」意向が7~8割を占める。

### 審議会での意見

### まちづくりの主な課題

1  
地域資源の魅力向上と産業・経済の活性化

2  
地域で暮らし続けられる環境

3  
将来に希望の持てる社会の構築

共通の取り組み：人口減少社会への対応